元総社蒼海遺跡群

元総社小見VI遺跡

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書



2 0 0 5. 3

前橋市埋蔵文化財発掘調查団



調査区違原 (南東から)



灰釉陶器・緑釉陶器・丸鞆



D-2号上坑出土の高台椀と石

はじめに

前橋市は、雄大な裾野を広げる赤城山を背景に、坂東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれた美しい県都です。平成16年12月には粕川村、宮城村、大胡町と合併し、新たなる歴史をスタートさせたところであります。

前橋市域の赤城山南麓と前橋台地上には、旧石器時代から近世・近代に至るまで、人々の生活の痕跡を示す遺跡・遺物が数多く存在します。特に古墳においては、かつて市域には800余基の存在が伝えられています。その中には大室4古墳をはじめ国指定史跡となっている古墳も9基含まれ、東国古墳文化の中心として位置づけられてきました。また、続く律令政治の時代に入ると、山王廃寺、上野国府、上野国分僧寺、上野国分尼寺の存在が示すとおり政治、宗教、経済の中心地として花開き一大文化圏が形成されました。さらに中世においては、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東4名城の一つに数えられる前橋城が築かれました。まさに、前橋市はこれまで連綿と続いてきた歴史を物語る様々な文化財で溢れています。

今年度調査を行いました元総社小見VI遺跡は、前橋市西部の国分尼寺の南、推定国府域の西側に位置します。国府や国分尼寺に直接関連すると思われる遺構は検出されませんでしたが、竪穴住居跡、溝跡、土坑などが検出され、律令期以前、律令期、律令期以後の国府周辺の土地利用の状況を考える上で貴重な資料を得ることができました。

発掘調査にあたり、ご理解とご協力を賜りました市関係部局、地元関係者の方々、厳しい気候の中、調査に従事されました皆様に感謝とお礼を申し上げます。

本報告書が市史究明の一助となることを祈念して序といたします。

平成17年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団 長 中 原 惠 治

例 言

- 1. 本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社小見VI遺跡発掘調査報告書である。
- 2. 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
- 3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

調 査 場 所 群馬県前橋市元総社町1614-1 他

発 掘 調 査 期 間 平成16年5月24日~平成16年12月15日

整理・報告書作成期間 平成16年12月16日~平成17年3月22日

発掘・整理担当者 近藤雅順・後藤俊継(発掘調査係員)

- 4. 本書の原稿執筆・編集は近藤・後藤が行った。
- 5. 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。 石井春江・後藤進一・佐藤佳子・下境 弥・下境米治・冨岡和子・冨澤理恵・内藤 旭・内藤よし 中島利夫・西山勝久・西山光彩・峰岸あや子
- 6. 発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財 保護課で保管されている。

凡例

- 1. 挿図中に使用した北は、座標北である。
- 2. 挿図に国土地理院発行の1:200,000地形図(宇都宮、長野)、1:25,000地形図(前橋)、1:6,000前橋市現形図を使用した。
- 3. 本発掘調査の略称は、16A107である。
- 4. 遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

J…縄文時代の竪穴住居跡 H…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡 W…溝跡 D…土坑 JD…縄文時代の土坑

5. 遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。

遺構 全体図…1:200 住居跡・溝跡・土坑・縄文時代の土坑…1:30・1:60・1:100 竈・炉断面図…1:30

遺物 土器…1/3・1/4 鉄器・鉄製品…1/3 石器・石製品・土製品…1/2・1/3・1/6 瓦…1/2・1/4

- 6. 土器の器種について、本報告書では、口径12.0cm以下・器高4.0cm以下・轆轤整形・酸化焰焼成の坏形土器を「かわらけ」と呼称する。
- 7. 計測値については、() は現存値、[] は復元値を表す。
- 8. セクション注記の記号は、締まり・粘性の順で示す。

◎は締まり・粘性非常にあり、○は締まり・粘性あり、△は締まり・粘性ややあり、 \times は締まり・粘性なしを表す。

セクション注記の語句は、多く含むは15%、含むは10%、少なく含むは 5 %、わずかに含むは 2 %程度とした。

- 9. 遺構平面図の ------ は推定線 ---- は切られるが存在する面を表す。
- 10. スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

11. 火山降下物の略称と年代は次のとおりである。

As-B (浅 間 B テ フ ラ:供給火山=浅間山、1108年)

Hr-FP (榛名二ッ岳伊香保テフラ:供給火山=榛名山、6世紀中葉)

Hr-FA (榛名二ッ岳渋川テフラ:供給火山=榛名山、6世紀初頭)

As-C (浅 間 C 軽 石:供給火山=浅間山、4世紀前半~中葉)

目 次

	は		じ	め		に	•••••		· i
Ι	調	査	にヨ	臣る	経	緯			• 1
II	遺	跡	の位	置と	環	境			
		1	遺	跡	0)	<u> </u>	地		• 1
		2	歴	史	的	環	境		• 1
III	調	査	方釒	+ と	経	過			
		1	調	查	:	方	針		• 7
		2	調	查		経	過		• 7
IV	基		本	層)	序			• 9
V	遺	桿	事 と	三 道	貴 :	物			
		1	竪	穴	住	居	跡		·10
		2	溝				跡		•25
		3	土				坑		•25
		4	グ!	リット	等	出土	遺物		•26
VI	ま		5	=	ě	め	•••••		•42
図			別	\					
ĿΔļ			JV.	X					
口絵	1	訓	商查区	【遠景	引 (1	南東	から)		
	2	19	て釉層	引器 •	緑彩	油陶:	器・丸	L鞆	
	3	Ι) — 2	2 号士	二坑!	土土	の高台	i 椀と石	

- PL. 1 調査区全景、 $J-1 \cdot 2$ 号住居跡
 - 2 H-6・9・57・59号住居跡
 - 3 H-7・8・15号住居跡
 - 4 調査区北中央部住居跡重複状況、H-21・ 23号住居跡
 - 5 H-24·25·28·29号住居跡
 - 6 H-32号住居跡
 - 7 H-33·38·40号住居跡
 - 8 H-42·45·47号住居跡
 - 9 H-49·50·51~53号住居跡
 - 10 H-54·60·76号住居跡
 - 11 H-79・59住居跡、W-1・2号溝跡、D -2号土坑
 - 12 J-1・2号住居跡、JD-2・5・11号土 坑出土の遺物

- 13 H-4・7・8・9・11・12・14号住居跡 出土の遺物
- 14 H-14・15・17~19・21・22号住居跡出土 の遺物
- 15 H-23~29号住居跡出土の遺物
- 16 H-29~32・34・35号住居跡出土の遺物
- 17 H-35~44・46・47号住居跡出土の遺物
- 18 H-48~53号住居跡出土の遺物
- 19 H-54・56・59~62・64号住居跡出土の遺物
- 20 H-64・66・67~69・72~74・76・80・83・ 84号住居跡、D-2号土坑出土の遺物
- 21 鉄器·鉄製品
- 22 主な瓦

挿 义

- Fig. 1 元総社蒼海遺跡群位置図
 - 2 周辺遺跡図
 - 3 元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図
 - 4 基本層序
 - 5 元総社小見VI遺跡全体図
 - J 1 ⋅ 2 号住居跡 6
 - H-1~3号住居跡 7
 - 8 H-4・5・11号住居跡
 - H-6・7・9・57号住居跡 9
 - 10 H-8号住居跡
 - 11 H-12号住居跡
 - 12 H-13·14·62号住居跡
 - 13 H-15·17号住居跡
 - 14 H-18·19号住居跡
 - 15 H-20·21号住居跡
 - 16 H-22 · 23 · 81号住居跡
 - 17 H-24·25号住居跡
 - 18 H-26·27号住居跡
 - 19 H-28·29号住居跡
 - 20 H-30·32号住居跡
 - 21 H-31·34号住居跡
 - 22 H-33号住居跡
 - 23 H-35·36号住居跡
 - 24 H-37·38·41号住居跡
 - 25 H-16・39・40号住居跡
 - 26 H-42·43号住居跡
 - 27 H-44·45·70号住居跡
 - 28 H-46·48号住居跡
 - 29 H-47号住居跡
 - 30 H-49·50·74号住居跡
 - 31 H-51号住居跡
 - 32 H-52·53·55号住居跡
 - 33 H-54·61号住居跡
 - 34 H-59·60号住居跡
 - 35 H-64·66号住居跡
 - 36 H-65・67・75・77号住居跡
 - 37 H-56・69・71・72号住居跡
 - 38 H-68 · 73号住居跡
 - 39 H-76·79号住居跡

- 40 H-78·83号住居跡
- 41 H-80·84号住居跡
- 42 W-1 · 2 号溝跡
- 43 JD-1~11号土坑、D-1~8号土坑
- 44 J-1号住居跡出土の遺物
- 45 J-2号住居跡出土の遺物
- 46 JD-1・2・5・11号土坑出土の遺物
- 47 H-2・4・5・7・8号住居跡出土の遺物
- 48 H-9・11~13号住居跡出土の遺物
- 49 H-14・15号住居跡出土の遺物
- H-15・17号住居跡出土の遺物 50
- 51 H-18~21号住居跡出土の遺物
- 52 H-22~24号住居跡出土の遺物
- 53 H-24・25号住居跡出土の遺物
- 54 H-26~28・30号住居跡出土の遺物
- 55 H-29・31・34号住居跡出土の遺物
- H-32・35号住居跡出土の遺物 56
- 57 H-33・35~38号住居跡出土の遺物
- H-39~43号住居跡出土の遺物
- H-43~47号住居跡出土の遺物
- 60 H-47・48号住居跡出土の遺物
- 61 H-48~50号住居跡出土の遺物
- 62 H-51~53号住居跡出土の遺物
- 63 H-54・56・62号住居跡出土の遺物
- 64 H-59~61・64号住居跡出土の遺物
- 65 H-66~69・74~77号住居跡出土の遺物
- 66 H-72・78~80・82・83号住居跡出土の遺物
- H-73・84号住居跡、D-2号土坑出土の遺 67
- 68 石器·石製品
- 69 石製品・土製品
- 70 **鉄器** · 鉄製品
- 71 瓦(1)
- 72 瓦(2)
- 73 瓦(3)
- 74 瓦(4)
- 75 瓦(5)
- 76 瓦(6)
- 77 瓦(7)

表

- Tab. 1 周辺遺跡概要一覧表
 - 2 竪穴住居跡一覧表
 - 3 溝跡計測表
 - 4 土坑計測表
 - 5 縄文時代出土土器観察表

- 6 古墳・奈良・平安時代出土土器観察表
- 石器観察表
- 8 石製品・土製品観察表
- 9 鉄器・鉄製品観察表
- 10 瓦観察表

Ⅰ 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、5年目にあたる。本調査地は、 周辺で埋蔵文化財調査が長年に渡って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成16年4月19日付けで、前橋市長 高 木 政 夫より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 中 原 惠 治に対し、調査実施を協議し、調査団はこれを受諾した。平成16年5月12日、調査依頼者である前橋市長 高 木 政 夫と前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 中 原 惠 治との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、5月24日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社小見VI遺跡」(遺跡コード:16A107)の「小見」は旧地籍の小字名を採用し、ローマ数字の「VI」は過年に実施した調査と区別するために付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、 北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地利根川左岸、東部の 広瀬川低地帯の4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層(水成)から成り立っている。台地の東部は広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m~5mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。南東へ約1kmの所に上野国総社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畑が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

2 歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山 王廃寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割りを利用し築かれたとされ る蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴 史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地

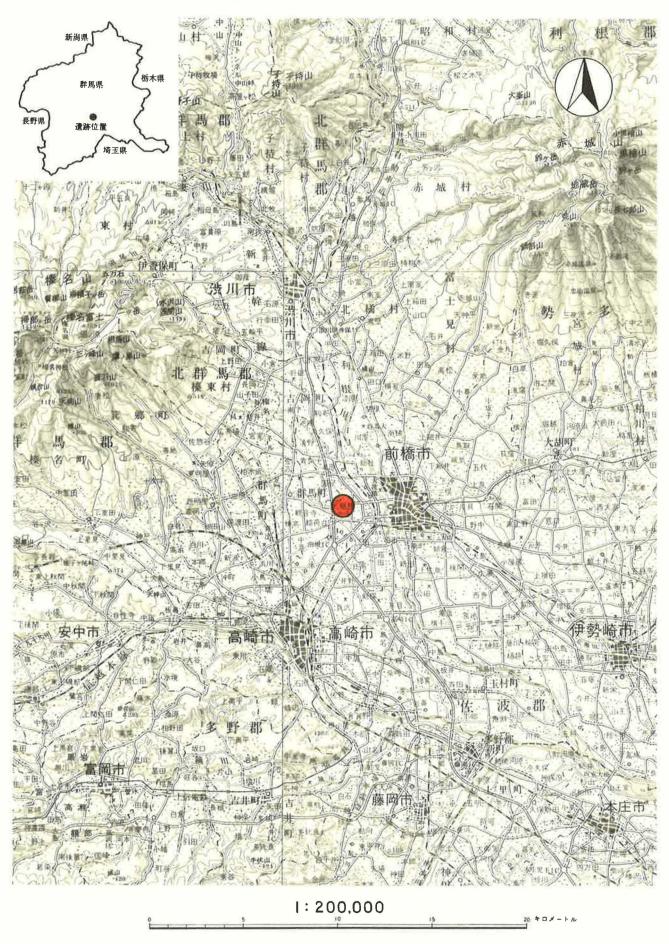


Fig. 1 元総社蒼海遺跡群位置図

域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検 出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡のおもに北に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ石室をもつ二段に築造された前方後円墳の総社二子山古墳、横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳・蛇穴山古墳がある。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡(放光寺)がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。

奈良・平安時代に至ると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・ 文化的中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動の拠点で地方を統治する機能をもつ国 府は、元総社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元総社小学校校庭遺跡や、「國厨」・「曹司」・「国」・「邑厨」等と書かれた墨書土器や人形が出土した元総社寺田遺跡、律令期の掘立柱建物跡と考えられる柱穴が検出された元総社宅地遺跡がある。また、国府域の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された限泉樋遺跡と南北方向の溝跡が検出された元総社明神遺跡の調査成果により、国府域の東外郭線が想定されるに至った。さらに近年では、元総社小見内III遺跡や元総社小見内IV遺跡から、国分尼寺の東南隅から国府の中心部に向かうと思われる溝跡が検出されたり、官人の用いたと考えられる円面硯、巡方(腰帯具)も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。さらに国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺・尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘建柱建物跡群が検出されている。

また、群馬町の調査等により、本遺跡から約1.5km南の地点に $N-64^{\circ}-E$ 方向の東山道 (国府ルート) があることが推定されている。また、推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年(1429)、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って作られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた総社・元総社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元総社地区は注目される地域の一つである。元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われていく。これにより、手つかず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

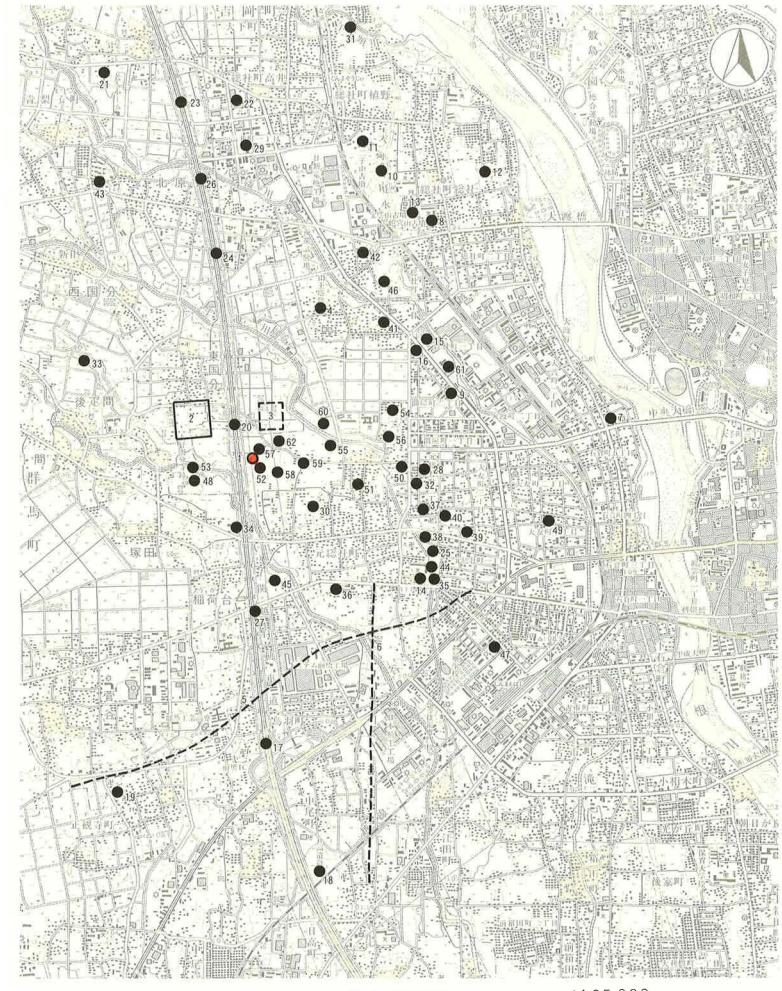


Fig. 2 周辺遺跡図

1:25,000

Tab. 1 元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時 代:主 な 遺 構・出 土 遺 物
1	元総社小見VI遺跡	2004	本遺跡
2	上野国分寺跡(県教委)	1980~1988	奈良:金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良:西南隅・東南隅築垣
4	山王廃寺跡	(1974)	古墳:塔心礎・根巻石
5	東山道(推定)		
6	日高道(推定)		
7	王山古墳	1972	古墳:前方後円墳(6C中)
8	蛇穴山古墳	1975	古墳:方墳(8 C初)
9	稲荷山古墳	1988	古墳:円墳(6 C後半)
10	愛宕山古墳	1996	古墳:円墳(7C初)
11	総社二子山古墳	未調査	古墳:前方後円墳(6 C末~7 C初)
12	遠見山古墳	未調査	古墳:前方後円墳(5 C後半)
13	宝塔山古墳	未調査	古墳:方墳(7C末)
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安:掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	縄文:住居跡
16	産業道路西遺跡		縄文:住居跡
17	中尾遺跡(事業団)	1976	奈良•平安:住居跡
18	日高遺跡(事業団)	1977	弥生:水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農耕具、平安:条里制力 田跡
19	正観寺遺跡 I ~IV(高崎市)	1979~1981	弥生:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:溝跡
20	上野国分僧寺・尼寺中間地域(事業団)	1980~1983	縄文:住居跡・配石遺構、弥生:住居跡・方形周溝墓、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡、中世:掘立柱建物跡・沿 状遺構・道路状遺構
21	清里南部遺跡群・III	1980	縄文:ピット、奈良・平安:住居跡、溝跡
22	中島遺跡	1980	奈良・平安:住居跡
23	下東西遺跡 (事業団)	1980~1984	縄文:屋外埋甕、弥生:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡・柵列、中世:住居跡・溝跡
	国分境遺跡 (事業団)	1990	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡
24	国分境II遺跡	1991	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡
	国分境III遺跡(群馬町)	1991	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・畠跡、中世:土壙墓
25	元総社明神遺跡I~XIII	1982~1996	古墳:住居跡・水田跡・堀跡、奈良・平安:住居跡・溝跡・大形ノ 形、中世:住居跡・溝跡・天目茶碗
26	北原遺跡 (群馬町)	1982	縄文:土坑・集石遺構、古墳:水田跡、奈良・平安:住居跡・掘立 柱建物跡
27	鳥羽遺跡(事業団)	197819~83	古墳:住居跡・鍛冶場跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡(A 殿跡)
28	閑泉樋遺跡	1983	奈良・平安:溝跡(上幅6.5~7 m、下幅3.24m、深さ2 m)
29	柿木遺跡・II遺跡	1983, 1988	奈良・平安:住居跡・溝跡
30	草作遺跡	1984	古墳:住居跡、平安:住居跡、中世:井戸跡
01	桜ケ丘遺跡		弥生:住居跡
31	総社桜ケ丘遺跡・II遺跡	1985, 1987	奈良・平安:住居跡
32	閑泉樋南遺跡	1985	古墳:住居跡、奈良・平安:溝跡
33	後疋間遺跡 I ~III(群馬町)	1985~1987	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:道路状遺構
34	塚田村東遺跡 (群馬町)	1985	平安:住居跡
35	寺田遺跡	1986	平安: 溝跡・木製品
36	天神遺跡・II遺跡	1986, 1988	奈良・平安:住居跡
37	屋敷遺跡・II遺跡	1986, 1995	古墳:住居跡、平安:住居跡、中世:堀跡・石敷遺構
38	大友屋敷II·III遺跡	1987	古墳:住居跡、平安:住居跡・溝跡・地下式土坑
39	堰越遺跡	1987	奈良・平安:住居跡・溝跡
40	堰越II遺跡	1988	平安:住居跡
40	堰越Ⅱ遺跡 昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	1988 1988	平安:住居跡 奈良・平安:住居跡

番号	遺跡名	調査年度	時 代:主 な 遺 構・出 土 遺 物
43	熊野谷遺跡	1988	縄文:住居跡、平安:住居跡・溝跡
43	熊野谷II・III遺跡	1989	平安:住居跡
44	元総社寺田遺跡 I ~III(事業団)	1988~1991	古墳:水田跡・溝跡、奈良・平安:住居跡・溝跡・人形・斎串・墨 書土器、中世:溝跡
45	弥勒遺跡・II 遺跡	1989, 1995	古墳:住居跡、平安:住居跡
46	大屋敷遺跡 I ~VI	1992~2000	縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:掘立柱 建物跡・地下式土坑・溝跡
47	元総社稲葉遺跡	1993	縄文:土坑、平安:住居跡・瓦塔
48	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳:住居跡、平安:住居跡
49	大友宅地添遺跡	1998	平安:水田跡
50	総社閑泉明神北遺跡	1999	古墳:畠跡・水田跡・溝跡、中世:溝跡
50	総社閑泉明神北II遺跡	2001	古墳:住居跡・溝跡、平安:住居跡・溝跡
51	元総社宅地遺跡1~23トレンチ	2000	古墳:住居跡、平安:住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構、中世:溝跡、近世:住居跡・五輪塔・椀類
52	元総社小見遺跡	2000	縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡・ 溝跡・道路状遺構
53	元総社西川遺跡 (事業団)	2000	古墳:住居跡・畠跡、奈良・平安:住居跡・溝跡
54	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安:住居跡・溝跡、中世:畠跡、近世:溝跡
34	総社甲稲荷塚大道西II遺跡	2001	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・溝跡、近世:溝跡
55	元総社小見内III遺跡	2001	古墳:住居跡・溝跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、 中世:掘立柱建物跡、溝跡
	元総社小見内VI遺跡	2003	奈良・平安:住居跡・溝跡、中世:井戸跡
	総社甲稲荷塚大道西III遺跡	2002	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・畠跡・溝跡
56	総社閑泉明神北III遺跡	2002	縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡
	総社甲稲荷塚大道西IV遺跡	2003	古墳:畠跡、中世:畠跡
	元総社小見II遺跡	2002	縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡、 中世:溝跡・道路状遺構
57	元総社小見IV遺跡	2003	縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:溝跡
	元総社小見V遺跡	2003	縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:掘立柱 建物跡
58	元総社小見III遺跡	2002	縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・溝跡、中世: 溝跡・道路状遺構
	元総社草作V遺跡	2002	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:溝跡
59	元総社小見内IV遺跡	2002	奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世:土壙墓・掘立柱 建物跡・溝跡
	元総社小見内VIII遺跡	2003	奈良・平安:住居跡・溝跡、中世:竪穴状遺構
60	元総社北川遺跡(事業団)	2002~04	古墳:水田跡、奈良・平安:住居跡・畠跡、中・近世:掘立柱建物 跡・水田跡・火葬墓
61	稲荷塚道東遺跡(事業団)	2003	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・溝跡・竈構築材採掘痕・井戸跡
62	元総社小見内VII遺跡	2003	縄文:住居跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡、中世: 島跡、 溝跡

^{*}調査年度の欄の()は調査開始年度を表す。 *遺跡名の欄の(事業団)は関群馬県埋蔵文化財調査事業団を表す。

III 調査方針と経過

1 調査方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う造成予定地で調査面積は1,760㎡である。グリッド座標については、日本測地系(旧座標) $X=+44,000 \cdot Y=-72,200$ を基点($X \cdot 0 \cdot Y \cdot 0$)とする $4 \cdot m$ ピッチのものを使用し、西から東へ $X \cdot 19$ 、 $X \cdot 20$ 、 $X \cdot 21 \cdot \cdots$ 、北から南へ $Y \cdot 132$ 、 $Y \cdot 133$ 、 $Y \cdot 134 \cdot \cdots$ となり、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡のX26・Y140の公共座標は次のとおりである。

第 IX 系 X = +43794.909

Y = -72387.753 (新座標)

X = +43440.000

Y=-72096.000 (旧座標)

緯 度 36°23′19″, 8950

経 度 139°01′46″。5200

子午線収差角 28′36″。7

增 大 率 0.999964

調査方法は、表土掘削・遺構確認・杭打ち・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真撮影の手順で行った。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡竈・炉は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2 調查経過

本調査は5月24日より現地調査を開始した。調査地は畑作地であるため耕作土と遺構面の土とを分ける必要があった。したがって、まず、重機(バックフォー0.7m $^{\circ}$)にて約20cm程現耕作土を掘削し一ヵ所に集めた。その後、更に約30cm程掘り下げ、 $As-C \cdot Hr-FP$ を含む暗褐色土の面において遺構確認調査を行った。6月1日には杭打ち測量を行い遺構の掘り下げ、精査開始に至った。

調査区は全体的に北西から南東方向に向かって次第に低くなるので、調査は西側より進めることとした。北西のやや高い地区からは古代の住居跡が多数検出され、縄文時代・古墳時代・奈良・平安時代に至る遺構が高い密度で重複していることが明らかになった。そのため、遺構の新旧関係の判断に苦心し、遺物の収納にもかなり時間を要した。東側の遺構密度はやや低かったが、地山と遺構覆土との違いが分かりづらく、ここでも遺構確認に時間を要した。そこで、10月下旬より、作業員を増員して調査を進めた。

11月26日にハイライダー (24m) による調査区全景撮影を行い、11月29日から遺構構築状況等の調査を行った。 そこでも、新たな古墳時代や縄文時代の遺構が検出されたり、さらに、調査区北側中央部に縄文時代の遺物包含 層があることが明らかになった。そして、精査の結果、縄文竪穴住居跡 2 軒、古墳・奈良・平安竪穴住居跡83軒、 溝跡 2 条、縄文土坑11基、土坑 9 基を検出した。12月15日に調査を終了し、その後調査区の埋め戻しを行った。

12月16日より文化財保護課庁舎に戻り、整理作業を開始した。遺物の水洗い・注記・接合・復元・実測・写真 撮影・収納、図面の修正・整理・収納、写真の整理・収納を行い、3月22日にすべての業務を終了した。

IV 基本層序

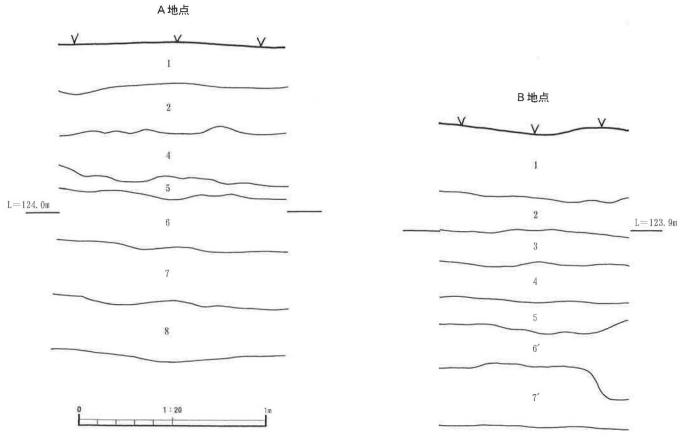


Fig. 4 基本層序

本遺跡地内のA地点、B地点の地層の堆積は、下記のとおりである。

	1 1000 01 3 2 - 1 0/M(2 1 0/M(- 2 1 0/M - 2	EN 197 1 HOS C 40) C 10 9 0	
1	現耕作土		
2	灰黄褐色粗砂層(10YR4/2)	締まり△ 粘性△	
		As-B 混土層	
3	にぶい黄褐色細砂層(10YR4/3)	締まり○ 粘性△(B地点に存在)
		As-C・Hr-FP 含む、As-B 少な。	〈含む
4	暗褐色細砂層 (10YR3/3)	締まり○ 粘性○	
		As-C・Hr-FP 含む	
5	黒褐色細砂層 (10YR3/1)	締まり○ 粘性◎(A地点は部分	的、B地点はやや厚く存在)
		As-C 含む	
6	黒褐色微砂層(10YR3/2)	碲まり○ 粘性◎(A地点)	
		赤い軽石・黄色い軽石わずかに含	む、炭化物わずかに含む
6'	黄褐色粗砂層(10YR5/6)	帝まり◎ 粘性×(B地点)	
		赤い軽石・黄色い軽石含む (総社	砂層)
7	黒褐色微砂層(10YR2/2)	帝まり◎ 粘性◎(A地点)	
		赤い軽石・黄色い軽石わずかに含	t
7'	灰黄褐色粗砂層(10YR5/2)	帝まり◎ 粘性× (B地点)	
		たい軽石・黄色い軽石含む、小石	含む(総社砂層)
8	暗褐色微砂層 (10YR3/3)	帝まり◎ 粘性◎ (A地点)	
		(総社砂層)	

V 遺構と遺物

1 竪穴住居跡

J-1号住居跡 (Fig. 6・44・68、PL. 1・12)

位置 $X20 \cdot 21$ 、 $Y137 \cdot 138$ グリッド 主軸方向 $N-70^\circ-E$ 形状等 隅丸方形。長径4.63m、短径4.57m、壁現高65cmを測る。 面積 16.57m 床面 ほぼ平坦な床面。中央やや南に埋設土器有。北壁近くに多孔石が設置されている。 炉 中央やや西より地床炉が検出され、長軸方向 $N-66^\circ-E$ 、長軸66cm、短軸44cmを図り、深さは床面よりやや下がる。 重複 H-13と重複しており、新旧関係は本遺構 $\rightarrow H-13$ の順である。 出土遺物総数1216点。そのうち、深鉢10点、打製石斧2点、多孔石1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から縄文時代前期(諸磯c期)と考えられる。

J-2号住居跡 (Fig. 6・45、PL. 1・12)

位置 X25・26、Y137・138グリッド 主軸方向 N−90°−E 形状等 円形と推定される。長径(5.48)m、短径(5.30)m、壁現高81cmを測る。 面積 (22.11) ㎡ 床面 ほぼ平坦な床面。中央やや北に埋設土器有。炉 中央やや南より石囲い炉が検出されたが2石は抜かれていた。長軸方向N−25°−W、長軸75cm、短軸72cm、深さ4cmを図る。 重複 H−8・29・38と重複しており、新旧関係は本遺構→H−8・29・38の順である。 出土遺物 総数4112点。そのうち、深鉢6点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から縄文時代中期(加曽利E3期)と考えられる。

H-1号住居跡(Fig.7)

位置 X20、 $Y141 \cdot 142$ グリッド 主軸方向 N-39°-E 形状等 方形と推定される。セクション部での住居の立ち上がりは確認できたが、掘り下げていく中で立ち上がりが分かりづらくなった。東西(3.07) m、南北(2.97) m、壁現高20cmを測る。 **面積** (6.20) m 床面 平坦な床面であるが、堅緻ではない。 竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-26°-E、全長85cm、最大幅65cm、焚口部幅17cmを測る。焼土はほとんど確認できなかったが、灰白色粘土ブロック、炭化物を多く確認した。 **重複** H-2と重複しており、新旧関係はH-2→本遺構の順である。 出土遺物 総数85点。 備考 時期は埋土や重複関係から上限は6世紀後半を遡らず、下限は145と8を下以前と考えられる。

H − 2 号住居跡 (Fig. 7 • 47)

位置 X20、 $Y141\sim143$ グリッド 主軸方向 N-64°-E 形状等 方形と推定される。東西 (3.68) m、南北 (5.16) m、壁現高50cmを測る。 面積 (14.52) m° 床面 平坦で堅緻な床面。周溝有。 竈 東壁中央やや 南より検出され、主軸方向N-70°-E、全長127cm、最大幅100cm、焚口部幅21cmを測る。構築材として、粘土、 両袖に凝灰岩を使用している。 重複 H-1と重複しており、新旧関係は本遺構 $\rightarrow H-1$ の順である。 出土 遺物 総数312点。そのうち、坏1点、甕1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から6世紀第3四半期と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig. 7)

位置 X19·20、Y141グリッド **主軸方向** N-86°-E **形状等** 方形と推定される。東西(1.04) m、南北(2.25)

m、壁現高18cmを測る。 面積 (2.22) ㎡ 床面 平坦で堅緻な床面。 竈 東壁南隅より検出され、主軸方向 N-83°-E、全長85cm、最大幅79cm、焚口部幅45cmを測る。構築材として、粘土、左袖に川原石を使用している。 重複 H-61と重複しており、新旧関係はH-61→本遺構の順である。 出土遺物 総数162点。そのうち、瓦 1 点を図示した。 備考 時期は埋土や重複関係から10世紀前半から As-B 降下以前と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig. 8・47・70、PL.13・21)

位置 $X19 \cdot 20$ 、 $Y139 \cdot 140$ グリッド 主軸方向 N-93°-E 形状等 方形と推定される。東西 (1.49) m、南北 (4.42) m、壁現高33cmを測る。 面積 (4.76) m 床面 平坦で堅緻な床面。 竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-85°-E、全長98cm、最大幅110cm、焚口部幅40cmを測る。構築材として、粘土、両袖に凝灰岩、燃焼部壁に瓦を使用している。竈前で凝灰岩が崩れて検出されており、天井も凝灰岩と思われる。 重複 H-5と重複しており、新旧関係は本遺構 $\rightarrow H-5$ の順である。 出土遺物 総数172点。そのうち、蓋1点、坏1点、甕1点、刀子1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀第4四半期と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig. 8・47)

位置 $X19 \cdot 20$ 、 $Y139 \cdot 140$ グリッド 主軸方向 $N-82^\circ-E$ 形状等 方形と推定される。東西 (1.45) m、南北(2.19) m、壁現高24cmを測る。 面積 (3.01) m 床面 平坦で堅緻な床面。その下20cmにも、粘土ブロックを含むやや中央に傾斜する堅緻な部分があり、住居があった可能性有。 竈 東壁そばに焼土粒・粘土ブロックが認められる部分があったが、検出されず。 重複 H-4 と重複しており、新旧関係はH-4 →本遺構の順である。 出土遺物 総数56点。そのうち、坏1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig.9、PL.2)

位置 $X21 \cdot 22$ 、 $Y141 \cdot 142$ グリッド 主軸方向 $N-83^\circ-E$ 形状等 長方形。東西3.05m、南北2.58m、壁 現高31cmを測る。 面積 6.93m 床面 平坦で部分的に堅緻な床面。 竈 東壁中央やや北より検出され、主 軸方向 $N-84^\circ-E$ 、全長60cm、最大幅54cm、焚口部幅27cmを測る。両袖とも壊されているが、構築材として、粘土を使用している。 重複 $H-9 \cdot 57 \cdot 59$ と重複しており、新旧関係は $H-59 \rightarrow H-9 \rightarrow H-57 \rightarrow$ 本遺構の順である。 出土遺物 総数331点。 備考 時期は埋土や重複関係から 8世紀前半から As-B降下以前と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig. 9・47、PL. 3・13)

位置 $X23 \cdot 24$ 、 $Y141 \cdot 142$ グリッド 主軸方向 N-74°-E 形状等 長方形。東西3.92m、南北3.53m、壁 現高66cmを測る。 面積 12.70m² 床面 平坦で堅緻な床面。周溝有。 竈 東壁中央やや南より検出され、主 軸方向N-73°-E、全長103cm、最大幅98cm、焚口部幅30cmを測る。構築材として、粘土、右袖に凝灰岩3石を使 用している。 重複 H-80と重複しており、新旧関係はH-80→本遺構の順である。 出土遺物 総数577点。 そのうち、坏1点、甕2点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から6世紀第4四半期と考えられる。

H-8号住居跡 (Fig.10・47、PL.3・13)

位置 X24・25、Y138・139グリッド 主軸方向 N−70°−E 形状等 長方形。東西5.72m、南北4.74m、壁 現高80cmを測る。 面積 25.53m² 床面 平坦で堅緻な床面。 竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N−71°−E、全長114cm、最大幅150cm、焚口部幅31cmを測る。構築材として、粘土、両袖・天井に凝灰岩を使用し

ている。 重複 J-2、H-46と重複しており、新旧関係はJ-2 →本遺構 \rightarrow H-46の順である。 出土遺物 総数1386点。そのうち、坏1点、鉢1点、40点、41点、4

H-9号住居跡 (Fig. 9・48、PL. 2・13)

位置 $X22 \cdot 23$ 、 $Y141 \cdot 142$ グリッド 主軸方向 N-89°-E 形状等 長方形と推定される。東西 [2.91] m、南北2.56m、壁現高37cmを測る。 面積 [6.84]m³ 床面 平坦で部分的に堅緻な床面。 竈 東壁中央やや北より検出され、主軸方向N-90°-E、全長95cm、最大幅89cm、焚口部幅35cmを測る。構築材として、粘土を使用している。 重複 $H-6 \cdot 57$ と重複しており、新旧関係は本遺構 $H-57 \rightarrow H-6$ の順である。 出土遺物 総数121点。そのうち、坏1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀第1四半期と考えられる。

H-10号住居跡 欠 番

H-11号住居跡 (Fig. 8・48・70、PL.13・21)

位置 $X26 \cdot 27$ 、 $Y135 \cdot 136$ グリッド 主軸方向 N-83°-E 形状等 長方形。東西5.09m、南北4.47m、壁 現高32.0cmを測る。 面積 21.38m° 床面 平坦で堅緻な床面。 竈 東壁中央より検出され、主軸方向N-83°-Eであり、全長104cm、最大幅146cm、焚口部幅77cmを測る。構築材として、粘土、川原石を使用している。 重複 $H-42 \cdot 84$ と重複しており、新旧関係は $H-84 \rightarrow H-42 \rightarrow$ 本遺構の順である。 出土遺物 総数1454点。そのうち、かわらけ 3 点、高台椀 3 点、瓶 1 点、甕 1 点、釘 1 点、瓦 2 点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀末と考えられる。

H-12号住居跡(Fig.11 ⋅ 48、PL.13)

位置 $X20\sim22$ 、 $Y138\sim141$ グリッド 主軸方向 $N-65^{\circ}-E$ 形状等 正方形。東西7.51m、南北7.58m、壁 現高49cmを測る。 面積 53.36m° 床面 平坦で堅緻な床面。周溝有。 竈 東壁中央やや南より検出され、主 軸方向 $N-64^{\circ}-E$ であり、全長146cm、最大幅98cm、焚口部幅62cmを測る。構築材として、粘土を使用している。 重複 $H-13\cdot49\cdot60$ と重複しており、新旧関係は本遺構 $\rightarrow H-13\rightarrow H-60$ 、本遺構 $\rightarrow H-49$ の順である。 出土遺物 総数628点。そのうち、坏1点、高坏1点、椀1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から6世紀第2四半期と考えられる。

H-13号住居跡 (Fig.12・48・69)

位置 $X20 \cdot 21$ 、 $Y138 \cdot 139$ グリッド 主軸方向 $N-83^\circ-E$ 形状等 長方形。東西3.79m、南北4.69m、壁 現高42cmを測る。 面積 $16.55m^\circ$ 床面 平坦で堅緻な床面。北側部がやや高い。周溝有。 竈 東壁中央やや 南より検出され、主軸方向 $N-82^\circ-E$ であり、全長134cm、最大幅80cm、焚口部幅38cmを測る。構築材として、粘土を使用している。 重複 $J-1 \cdot H-12 \cdot 60$ と重複しており、新旧関係はJ-1、 $H-12 \to \pi$ 遺構 $\to H-60$ の順である。 出土遺物 総数399点。そのうち、坏 2点、砥石 1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物 から 9 世紀前半と考えられる。

H-14号住居跡 (Fig.12・49、PL.13・14)

位置 X20・21、Y136・137グリッド **主軸方向** N-76°-E **形状等** 正方形と推定される。東西 (2.99) m、南北 (3.08) m、壁現高39cmを測る。 **面積** (6.98) m³ **床面** 平坦で堅緻な床面。南東壁に粘土を貼付した痕

跡があり棚状のものがあった可能性有。 竈 東壁より検出され、主軸方向 $N-74^\circ-E$ であり、全長101cm、最大幅73cm、焚口部幅21cmを測る。構築材として、粘土、川原石、瓦を使用している。 **重複** H-62と重複しており、新旧関係はH-62→本遺構の順である。 出土遺物 総数392点。そのうち、かわらけ1点、坏1点、高台椀2点、羽釜1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第4四半期と考えられる。

H-15号住居跡 (Fig.13・49・50、PL.3・14)

位置 $X25 \cdot 26$ 、 $Y136 \cdot 137$ グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 方形。東西3.24m、南北3.48m、壁現高39cmを測る。 面積 9.66m² 床面 平坦な床面。 竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-89°-Eであり、全長91cm、最大幅97cm、焚口部幅36cmを測る。構築材として、粘土、石、天井に凝灰岩を使用している。 重複 $H-38 \cdot 78$ と重複しており、新旧関係は $H-78 \rightarrow H-38 \rightarrow$ 本遺構の順である。 出土遺物 総数1004点。そのうち、耳皿1点、高台皿1点、高台椀3点、甕1点、塩1点、塩1点、瓦1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第4四半期と考えられる。

H-16号住居跡 (Fig.25)

位置 X26·27、Y138~140グリッド 主軸方向 N−81°−E 形状等 長方形と推定される。東西 (4.34) m、南北 (5.47) m、壁現高60cmを測る。 面積 (14.93) m 床面 H−40に大部分を切られるが、残っている部分は平坦で堅緻な床面。 竈 検出されず。 重複 H−40・83と重複しており、新旧関係はH−83→本遺構→H−40の順である。 出土遺物 総数424点。 備考 時期は埋土や重複関係から Hr-FP 降下から 8 世紀後半と考えられる。

H-17号住居跡 (Fig.13⋅50、PL.14)

位置 $X21 \cdot 22$ 、 $Y136 \cdot 137$ グリッド 主軸方向 $N-89^\circ-E$ 形状等 長方形。東西3.37m、南北3.98m、壁 現高43cmを測る。 面積 12.10m² 床面 平坦で堅緻な床面。 竈 東壁中央南より検出され、主軸方向 $N-90^\circ$ 一Eであり、全長104cm、最大幅116cm、焚口部幅36cmを測る。構築材として、粘土、瓦、右袖に石を使用している。 重複 H-19と重複しており、新旧関係はH-19→本遺構の順である。 出土遺物 総数640点。そのうち、坏1点、高台椀1点、甕1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀中葉と考えられる。

H-18号住居跡 (Fig.14·51、PL.14)

位置 X22、Y137グリッド 主軸方向 N-100°-E 形状等 長方形。東西2.45m、南北2.90m、壁現高48cm を測る。 面積 6.51m° 床面 平坦な床面。 竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-102°-Eであり、全長92cm、最大幅92cm、焚口部幅42cmを測る。構築材として、粘土、両袖と支脚に石を使用している。 重複 H-19と重複しており、新旧関係はH-19→本遺構の順である。 出土遺物 総数541点。そのうち、高台椀 3点、羽釜 1点、瓦 1 点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第 3 四半期と考えられる。

H-19号住居跡(Fig.14⋅51、PL.14)

位置 $X22 \cdot 23$ 、 $Y136 \cdot 137$ グリッド 主軸方向 N-96°-E 形状等 長方形と推定される。東西 [3.61] m、南北 [3.15] m、壁現高42cmを測る。 面積 [10.13] m 床面 ほぼ平坦で堅緻な床面。 竈 東壁中央りより検出され、主軸方向N-91°-Eであり、全長66cm、最大幅90cm、焚口部幅36cmを測る。構築材として、粘土、石、凝灰岩を使用している。 重複 $H-17 \cdot 18 \cdot 51$ と重複しており、新旧関係は本遺構 $\rightarrow H-17 \cdot 18$ の順である。(H-51との新旧関係は不明。) 出土遺物 総数1322点。そのうち、坏1点、高台椀1点を図示した。 備

考 時期は埋土や出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

H-20号住居跡 (Fig.15・51)

位置 $X27 \cdot 28$ 、 $Y133 \cdot 134$ グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 長方形。東西4.18m、南北2.76m、壁 現高49cmを測る。 面積 10.75m° 床面 ほぼ平坦な床面。 竈 激しく壊されているが、東壁中央やや南より 検出され、主軸方向N-86°-Eであり、全長72cm、最大幅77cm、焚口部幅39cmを測る。 重複 $H-67 \cdot 72$ と重複しており、新旧関係は本遺構 $H-67 \cdot 72$ の順である。 出土遺物 総数655点。そのうち、坏1点、高台椀 1点、甕1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第2四半期と考えられる。

H-21号住居跡 (Fig.15・51・70、PL.4・14・21)

位置 $X22 \cdot 23$ 、 $Y137 \cdot 138$ グリッド 主軸方向 N-95°-E 形状等 長方形と推定される。東西 [3.10] m、南北 [3.61] m、壁現高43cmを測る。 面積 [10.68] m² 床面 平坦で堅緻な床面。 竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-102°-Eであり、全長 (107) cm、最大幅 (120) cmを測る。構築材として、粘土、瓦を使用している。 重複 H-51と重複しており、新旧関係は本遺構 $\rightarrow H-51$ の順である。 出土遺物 総数1605 点。そのうち、高台皿1 点、坏3 点、高台椀3 点、鉄鏃1 点、瓦2 点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から9 世紀第2 四半期と考えられる。

H-22号住居跡 (Fig.16・52・70、PL.14・21)

位置 $X26 \cdot 27$ 、 $Y139 \cdot 140$ グリッド 主軸方向 $N-80^\circ-E$ 形状等 正方形。東西4.04m、南北3.85m、壁 現高50cmを測る。 面積 13.89m 床面 ほぼ平坦な床面。 竈 東壁中央南より検出され、主軸方向 $N-78^\circ-E$ であり、全長102cm、最大幅103cm、焚口部幅50cmを測る。構築材として、粘土を使用している。 重複 H $-39 \cdot 40$ と重複しており、新旧関係は $H-39 \cdot 40 \rightarrow$ 本遺構の順である。 出土遺物 総数596点。そのうち、坏 3点、高台椀 1点、斧 1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から 9世紀第 2 四半期と考えられる。

H-23号住居跡 (Fig.16 ⋅ 52、PL.4 ⋅ 15)

位置 $X23 \cdot 24$ 、 $Y135 \sim 137$ グリッド 主軸方向 $N-80^{\circ}-E$ 形状等 正方形と推定される。東西 [4.19] m、南北 [4.35] m、壁現高51cmを測る。 面積 [16.86] m $^{\circ}$ 床面 平坦で堅緻な床面。 電 東壁中央南より検出され、主軸方向 $N-80^{\circ}-E$ であり、全長113cm、最大幅115cm、焚口部幅37cmを測る。構築材として、粘土を使用している。 重複 $H-24 \cdot 27 \cdot 51 \cdot 81$ と重複しており、新旧関係は $H-81 \rightarrow$ 本遺構 $\rightarrow H-24 \cdot 27 \cdot 51$ の順である。 出土遺物 総数1366点。そのうち、坏2点、鉢1点、甕1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から6世紀第3四半期と考えられる。

H-24号住居跡 (Fig.17・52・53、PL.5・15)

位置 $X23 \cdot 24$ 、 $Y135 \cdot 136$ グリッド 主軸方向 N-103°-E 形状等 正方形。東西3.37m、南北3.67m、壁 現高32cmを測る。 面積 11.22m² 床面 平坦で部分的に堅緻な床面。 竈 東壁中央やや南より検出され、主 軸方向N-105°-Eであり、全長86cm、最大幅95cm、焚口部幅39cmを測る。構築材として、粘土、石を使用している。 重複 $H-23 \cdot 27$ と重複しており、新旧関係は $H-23 \cdot 27 \rightarrow$ 本遺構の順である。 出土遺物 総数1368点。そのうち、坏3点、高台椀2点、甕3点、甑1点、瓦1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第1四半期と考えられる。

H-25号住居跡 (Fig.17・53、PL.5・15)

位置 $X24\sim26$ 、 $Y135\cdot136$ グリッド 主軸方向 $N-72^\circ-E$ 形状等 長方形。東西 [5.18] m、南北 [3.89] m、壁現高63cmを測る。 面積 [17.61] m 床面 平坦な床面。 竈 北壁中央やや東より検出され、主軸方向 $N-15^\circ-W$ であり、全長93cm、最大幅87cm、焚口部幅30cmを測る。構築材として、粘土、石を使用している。 重複 $H-26\cdot27\cdot84$ と重複しており、新旧関係はH-84→本遺構→ $H-26\cdot27$ の順である。 出土遺物 総数 795点。そのうち、坏2点、高台椀1点、瓶1点、甕1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀第4四半期と考えられる。

H-26号住居跡 (Fig.18・54・70、PL.15・21)

位置 $X25 \cdot 26$ 、 $Y135 \cdot 136$ グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 長方形。東西3.06m、南北3.94m、壁 現高34cmを測る。 面積 11.33m² 床面 平坦で堅緻な床面。 竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-86°-Eであり、全長82cm、最大幅90cm、焚口部幅49cmを測る。構築材として、粘土を使用している。 重複 H-25・84と重複しており、新旧関係は $H-84 \rightarrow H-25 \rightarrow \pi$ 遺構の順である。 出土遺物 総数722点。そのうち、蓋1点、坏4点、高台椀1点、飾り金具1点、瓦1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第1四半期と考えられる。

H-27号住居跡 (Fig.18・54・69・70、PL.15・21)

位置 $X23\sim25$ 、 $Y135\cdot136$ グリッド **主軸方向** $N-90^\circ-E$ **形状等** 長方形。東西4.42m、南北5.05m、壁 現高42cmを測る。 **面積** 20.87m² **床面** 平坦で堅緻な床面。 竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N $-91^\circ-E$ であり、全長88cm、最大幅111cm、焚口部幅52cmを測る。構築材として、粘土、石、瓦、凝灰岩を使用している。 **重複** $H-23\cdot24\cdot25$ と重複しており、新旧関係は $H-23\cdot25$ →本遺構 $\rightarrow H-24$ の順である。 出土 遺物 総数1033点。そのうち、坏2点、高台椀4点、甕1点、刀子1点、丸鞆1点、瓦1点を図示した。 備考時期は埋土や出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

H-28号住居跡 (Fig.19・54・69、PL.5・15)

位置 X27、Y137グリッド 主軸方向 $N-90^\circ-E$ 形状等 長方形。東西2.30m、南北1.98m、壁現高41cmを 測る。 面積 4.31m $^\circ$ 床面 ほぼ平坦な床面。 竈 東壁中央より検出され、主軸方向 $N-98^\circ-E$ であり、全 長88cm、最大幅85cm、焚口部幅30cmを測る。構築材として、粘土、石、瓦を使用している。 重複 $H-45 \cdot 73$ と重複しており、新旧関係は $H-45 \cdot 73 \rightarrow$ 本遺構の順である。 出土遺物 総数436点。そのうち、高台椀1点、瓦1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第3四半期と考えられる。

H-29号住居跡 (Fig.19・55、PL.5・15・16)

位置 $X24 \cdot 25$ 、 $Y137 \cdot 138$ グリッド 主軸方向 N-104°-E 形状等 長方形。東西 [3.40] m、南北 [4.04] m、壁現高45cmを測る。 面積 [12.67] m³ 床面 平坦で堅緻な床面。 竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-98°-Eであり、全長141cm、最大幅138cm、焚口部幅33cmを測る。構築材として、粘土、両袖・支脚・煙道に瓦を使用している。 重複 J-2、H-51と重複しており、新旧関係は $J-2 \rightarrow$ 本遺構 $\rightarrow H-51$ の順である。 出土遺物 総数1062点。そのうち、坏4点、高台椀4点、瓶1点、甕1点、瓦4点を図示した。 備考時期は埋土や出土遺物から 9世紀第 2 四半期と考えられる。

H-30号住居跡 (Fig.20・54、PL.16)

位置 $X21 \cdot 22$ 、 $Y145 \sim 147$ グリッド 主軸方向 N-62°-E 形状等 正方形と推定される。東西 (6.05) m、南北 (6.05) m、壁現高31cmを測る。 面積 (23.66) m² 床面 平坦な床面。周溝有。 炉 検出されず。 重複 W-2 と重複しており、新旧関係は本遺構 $\rightarrow W-2$ の順である。 出土遺物 総数318点。そのうち、鉢1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。

H-31号住居跡 (Fig.21・55、PL.16)

位置 $X21 \cdot 22$ 、 $Y143 \sim 145$ グリッド 主軸方向 N-99°-E 形状等 正方形と推定される。東西 (6.44) m、南北 (6.00) m、壁現高32cmを測る。 面積 (28.18) m 床面 平坦で堅緻な床面。周溝有。 $\rlap/$ 中央北寄りより地床炉が検出され、長軸方向N-4°-W、長軸115cm、短軸50cm、深さ6 cmを図る。 重複 H-33、W-1 と重複しており、新旧関係は本遺構 $\rightarrow H-33$ 、W-1 の順である。 出土遺物 総数368点。そのうち、鉢1点、坩1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から4 世紀後半と考えられる。

H-32号住居跡 (Fig.20・56、PL.6・16)

位置 $X26 \cdot 27$ 、 $Y143 \sim 145$ グリッド 主軸方向 N-58 $^{\circ}-E$ 形状等 長方形と推定される。東西 (5.30) m、南北 (4.53) m、壁現高73cmを測る。 面積 (19.64) m $^{\circ}$ 床面 ほぼ平坦で堅緻な床面。 炉 中央やや北より地床炉が検出され、長軸方向N-55 $^{\circ}-W$ 、長軸125cm、短軸87cm、深さ7cmを測る。 重複 $H-35 \cdot 53 \cdot 52$ 、W-1 と重複しており、新旧関係は本遺構 $\rightarrow H-35 \cdot 52 \cdot 53$ 、W-1 の順である。 出土遺物 総数897点。そのうち、器台1点、坩2点、壺1点、甑1点、高坏1点、甕3点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物4世紀後半と考えられる。

H-33号住居跡 (Fig.22・57、PL.7)

位置 $X22 \cdot 23$ 、 $Y143 \cdot 144$ グリッド **主軸方向** N-63°-E **形状等** 長方形。東西5.90m、南北4.09m、壁 現高69cmを測る。 **面積** 22.20m² **床面** 平坦な床面で竈前は堅緻。周溝有。 竈 東壁中央より検出され、主 軸方向N-65°-E、全長164cm、最大幅112cm、焚口部幅20cmを測る。構築材として、粘土、石、右袖・天井に凝 灰岩を使用している。 **重複** H-31と重複しており、新旧関係はH-31→本遺構の順である。 出土遺物 総数527点。そのうち、高台椀 1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から 9世紀第 2 四半期と考えられる。

H-34号住居跡 (Fig.21 ⋅ 55、PL.16)

位置 X23・24、Y143グリッド **主軸方向** N-87°-E **形状等** 長方形。東西4.07m、南北2.90m、壁現高43 cmを測る。 **面積** 10.85㎡ **床面** 平坦な床面で竈前は堅緻。 竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-86°-E、全長120cm、最大幅111cm、焚口部幅38cmを測る。構築材として、粘土、右袖に石、左袖に凝灰岩を使用している。 出土遺物 総数248点。そのうち、壺1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から6世紀第3四半期と考えられる。

H-35号住居跡 (Fig.23・56・57・69、PL.16・17)

位置 $X24\sim26$ 、 $Y143\cdot144$ グリッド **主軸方向** $N-92^\circ-E$ **形状等** 正方形。東西4.49m、南北4.40m、壁 現高72cmを測る。 **面積** 18.28m² 床面 平坦な床面。周溝有。 **電** 西壁中央やや南より検出され、主軸方向 $N-100^\circ-W$ 、全長141cm、最大幅107cm、焚口部幅37cmを測る。南側袖は倒木痕により破壊されている。 **重複** H -32と重複しており、新旧関係はH-32→本遺構の順である。 出土遺物 総数633点。そのうち、坏3点、甕1

点、臼玉1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から7世紀第2四半期と考えられる。

H-36号住居跡 (Fig.23・57、PL.17)

位置 X26・27、Y137・138グリッド 主軸方向 N-95°-E 形状等 長方形。東西2.62m、南北3.74m、壁 現高27cmを測る。 面積 9.17m² 床面 平坦な床面。 竈 東壁南より検出され、主軸方向N-95°-E、全長 61cm、最大幅46cm、焚口部幅24cmを測る。 出土遺物 総数460点。そのうち、坏 2 点、高台椀 1 点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第 1 四半期と考えられる。

H-37号住居跡 (Fig.24·57、PL.17)

位置 X28、 $Y132 \cdot 133$ グリッド 主軸方向 N-88°-E 形状等 方形と推定される。東西 (2.03) m、南北 (2.88) m、壁現高45cmを測る。 面積 (5.16) m 床面 平坦で堅緻な床面。 竈 東壁より検出され、主軸 方向N-91°-E、全長71cm、最大幅81cm、焚口部幅48cmを測る。重複 H-41と重複しており、新旧関係は本遺 構→H-41の順である。 出土遺物 総数422点。そのうち、坏1点、高台椀1点、甕1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第4四半期と考えられる。

H-38号住居跡 (Fig.24・57、PL.7・17)

位置 $X25 \cdot 26$ 、 $Y136 \cdot 137$ グリッド 主軸方向 $N-70^{\circ}-E$ 形状等 正方形。東西3.25m、南北3.35m、壁 現高37cmを測る。 面積 9.59m² 床面 ほぼ平坦な床面。 竈 東壁中央より検出され、主軸方向 $N-74^{\circ}-E$ 、全長104cm、最大幅108cm、焚口部幅35cmを測る。構築材として、粘土を使用している。 重複 J-2、 $H-15 \cdot 78$ と重複しており、新旧関係はJ-2、H-78→本遺構 \rightarrow H-15の順である。 出土遺物 総数713点。そのうち、白磁 1 点、高台椀 4 点、羽釜 1 点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第 2 四半期と考えられる。

H-39号住居跡 (Fig.25·58、PL.17)

位置 X27・28、Y139・140グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 方形と推定される。東西 (2.67) m、南北 (3.60) m、壁現高36cmを測る。 面積 (8.62) m 床面 ほぼ平坦な床面。 竈 東壁南より検出され、主軸方向N-85°-E、全長108cm、最大幅108cm、焚口部幅48cmを測る。構築材として、粘土を使用している。 重複 H-22と重複しており、新旧関係はH-22→本遺構の順である。 出土遺物 総数635点。そのうち、蓋1点、坏1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀第4四半期と考えられる。

H-40号住居跡(Fig.25・58・70、PL.7・17・21)

位置 $X26 \cdot 27$ 、 $Y139 \cdot 140$ グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 正方形。東西4.10m、南北4.29m、壁 現高77cmを測る。 面積 15.93m³ 床面 ほぼ平坦な床面。 竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-87°-E、全長108cm、最大幅129cm、焚口部幅63cmを測る。構築材として、粘土を使用している。 **重複** H $-16 \cdot 22 \cdot 39$ と重複しており、新旧関係は $H-16 \rightarrow$ 本遺構 $\rightarrow H-22 \cdot 39$ の順である。 出土遺物 総数1655点。そのうち、坏2点、高台椀1点、刀装具1点、瓦1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀第4四半期と考えられる。

H-41号住居跡 (Fig.24・58、PL.17)

位置 X28、Y132・133グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 方形と推測される。東西 (3.04) m、南北

(1.52) m、現壁高39cmを測る。 面積 (3.00) m 床面 平坦な床面。 竈 検出されず。 重複 H-37と 重複しており、新旧関係はH-37→本遺構の順である。 出土遺物 総数95点。そのうち、坏1点、高台椀1点、羽釜1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第1四半期と考えられる。

H-42号住居跡 (Fig.26・58・59・70、PL.8・17・21)

位置 $X26\sim28$ 、 $Y135\cdot136$ グリッド 主軸方向 N-76°-E 形状等 長方形。東西4.64m、南北3.73m、現壁高39cmを測る。 面積 16.16m² 床面 平坦で堅緻な床面。 竈 東壁南より検出され、主軸方向N-73°-E、全長84cm、最大幅97cm、焚口部幅36cmを測る。構築材として、粘土を使用している。 **重複** H $-11\cdot45$ と重複しており、新旧関係はH-45→本遺構 \rightarrow H-11の順である。 出土遺物 総数545点。そのうち、蓋1点、高台配 1点、高台椀1点、第1点、紡錘車1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第3四半期と考えられる。

H-43号住居跡 (Fig.26・58・59、PL.17)

位置 $X28 \cdot 29$ 、 $Y140 \cdot 141$ グリッド 主軸方向 N-78°-E 形状等 方形と推定される。東西 (4.59) m、南北 (3.58) m、現壁高42cmを測る。 面積 (15.33) m² 床面 ほぼ平坦で堅緻な床面。 電 東壁で粘土・焼土・瓦を検出したが、大部分が調査区外のため詳細は不明。 重複 $H-64 \cdot 66$ と重複しており、新旧関係は $H-66 \rightarrow H-64 \rightarrow$ 本遺構の順である。 出土遺物 総数632点。そのうち、坏2点、高台皿1点、甕1点、瓦2点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第3四半期と考えられる。

H-44号住居跡 (Fig.27 · 59、PL.17)

位置 X28・29、Y137・138グリッド **主軸方向** N−115°−E **形状等** 方形と推定される。東西 (2.98) m、南北 (3.55) m、現壁高54cmを測る。 **面積** (5.34) m³ 床面 平坦な床面。 竈 検出されず。**重複** H−70と重複しており、新旧関係はH−70→本遺構の順である。 出土遺物 総数296点。そのうち、坏1点、高台椀1点、甕1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第3四半期と考えられる。

H-45号住居跡 (Fig.27 ⋅ 59、PL.8)

位置 $X26\sim28$ 、 $Y136\cdot137$ グリッド 主軸方向 $N-89^\circ-E$ 形状等 方形と推測される。東西 [3.91] m、南北 [3.12] m、現壁高44cmを測る。 面積 [10.87] m² 床面 ほぼ平坦な床面。 竈 東壁より検出され、主軸方向 $(N-89^\circ-E)$ 、全長 (97) cm、最大幅 (74) cmを測る。構築材として、粘土、右壁に瓦を使用している。 重複 $H-28\cdot42\cdot73$ と重複しており、新旧関係は本遺構 $\rightarrow H-28\cdot42\cdot73$ の順である。 出土遺物 総数498点。そのうち、坏1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第2四半期と考えられる。

H-46号住居跡 (Fig.28 ⋅ 59、PL.17)

位置 X24・25、Y139・140グリッド 主軸方向 N−84°−E 形状等 長方形。東西4.02m、南北5.31m、現壁高58cmを測る。 面積 19.44m² 床面 平坦で堅緻な床面。 竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N−84°−E、全長124cm、最大幅103cm、焚口部幅34cmを測る。構築材として、粘土、石、壁に瓦を使用している。 重複 H−8・47・79・82・83・85と重複しており、新旧関係はH−8・47・79・82・83・85→本遺構の順である。 出土遺物 総数2130点。そのうち、坏2点、甕1点、瓦4点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

H-47号住居跡 (Fig.29・60、PL.8・17)

位置 $X24\sim26$ 、 $Y140\cdot141$ グリッド 主軸方向 $N-70^\circ-E$ 形状等 長方形。東西5.18m、南北6.44m、壁 現高72cmを測る。 面積 $29.36m^\circ$ 床面 平坦な床面。周溝が確認できたが、北側に床面が続いており住居を拡張した可能性が強い。 竈 東壁中央南より検出され、主軸方向 $N-78^\circ-E$ 、全長149cm、最大幅138cm、焚口部幅37cmを測る。構築材として、粘土、右袖に凝灰岩を使用している。 重複 $H-79\cdot80$ と重複しており、新旧関係は $H-79\cdot80$ →本遺構の順である。 出土遺物 総数2075点。そのうち、蓋1点、坏8点、高台椀2点、甕1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀第4四半期と考えられる。

H-48号住居跡 (Fig.28・60・61・70、PL.18・21)

位置 $X23 \cdot 24$ 、 $Y139 \cdot 140$ グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 長方形。東西3.56m、南北4.24m、壁 現高51cmを測る。 面積 14.75m² 床面 平坦で部分的に堅緻な床面。 竈 東壁中央南より検出されたが、右 袖の残存状況は悪い。主軸方向N-90°-E、全長94cm、最大幅119cm、焚口部幅37cmを測る。構築材として、粘土を使用している。 重複 $H-50 \cdot 82$ と重複しており、新旧関係は本遺構 $\rightarrow H-50 \cdot 82$ の順である。 出土遺物 総数1036点。そのうち、坏4点、高台椀1点、甕2点、鉄鏃1点、瓦1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀第4四半期と考えられる。

H-49号住居跡(Fig.30・61、PL.9・18)

位置 $X22 \cdot 23$ 、 $Y139 \sim 141$ グリッド 主軸方向 $N-80^{\circ}-E$ 形状等 長方形。東西3.54m、南北4.80m、壁 現高59cmを測る。 **面積** 15.81m² 床面 平坦で部分的に堅緻な床面。 竈 東壁中央南より検出され、主軸方向 $N-82^{\circ}-E$ 、全長144cm、最大幅91cm、焚口部幅47cmを測る。構築材として、粘土を使用し、また、竈前に凝灰 岩が有り両袖部に穴があることから、凝灰岩も使用していたと考えられる。 **重複** H $-12 \cdot 74$ と重複しており、新旧関係は $H-12 \rightarrow$ 本遺構 $\rightarrow H-74$ の順である。 出土遺物 総数762点。そのうち、坏1点、高台椀1点、壺 1点、甕 1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀第3四半期と考えられる。

H-50号住居跡 (Fig.30・61・69・70、PL.9・18・21)

位置 $X23 \cdot 24$ 、 $Y138 \cdot 139$ グリッド 主軸方向 N-93°-E 形状等 長方形。東西3.40m、南北4.46m、壁 現高44cmを測る。 面積 14.16m² 床面 平坦で堅緻な床面。 竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-103°-E、全長127cm、最大幅107cm、焚口部幅52cmを測る。構築材として、粘土、川原石・瓦を使用している。 重 複 $H-48 \cdot 74$ と重複しており、新旧関係は $H-48 \cdot 74$ →本遺構の順である。 出土遺物 総数1580点。そのうち、坏1点、高台椀1点、転用硯1点、甕1点、鉄鏃1点、砥石1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第2四半期と考えられる。

H-51号住居跡(Fig.31・62・69、PL.9・18)

位置 $X23 \cdot 24$ 、 $Y136 \sim 138$ グリッド 主軸方向 $N-101^{\circ}-E$ 形状等 正方形。東西4.74m、南北4.90m、壁 現高70cmを測る。 面積 21.52m² 床面 平坦で堅緻な床面。そのすぐ下にも堅緻な部分があり、床の張り替えを行った可能性有。 竈 東壁中央より検出され、主軸方向 $N-96^{\circ}-E$ 、全長119cm、最大幅110cm、焚口部幅34 cmを測る。構築材として、粘土・瓦・安山岩を使用している。 重複 $H-21 \cdot 23 \cdot 29 \cdot 81$ と重複しており、新旧関係は $H-21 \cdot 23 \cdot 29 \cdot 81 \rightarrow$ 本遺構の順である。 出土遺物 総数2116点。そのうち、坏3点、高台椀2点、甕1点、砥石2点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第2四半期と考えられる。出土遺物に鉄製品が多く、鉄に関わる工人の住居の可能性も考えられる。

H-52号住居跡 (Fig.32・62・70、PL.18・21)

位置 $X26 \cdot 27$ 、 $Y142 \cdot 143$ グリッド 主軸方向 N-81°-E 形状等 方形と推定される。東西 (3.44) m、南北 (3.68) m、壁現高46cmを測る。 面積 (11.81) m² 床面 平坦な床面。 竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-75°-E、全長86cm、最大幅109cm、焚口部幅45cmを測る。構築材として、粘土、安山岩を使用している。また、竈内に高台椀が2 個伏せた状態で置かれていた。 重複 H-53と重複しており、新旧関係は本遺構 $\rightarrow H-53$ の順である。 出土遺物 総数154点。そのうち、高台椀2点、鉄鏃1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第1 四半期と考えられる。

H-53号住居跡 (Fig.32 ⋅ 62、PL.9 ⋅ 18)

位置 X26、 $Y143 \cdot 144$ グリッド 主軸方向 N-85°-E 形状等 長方形。東西3.21m、南北2.68m、壁現高 39cmを測る。 面積 7.37m³ 床面 平坦な床面。 竈 南壁中央より検出され、主軸方向N-5°-W、全長51 cm、最大幅56cm、焚口部幅34cmを測る。構築材として、粘土を使用している。支脚石有。 重複 $H-32 \cdot 52$ と 重複しており、新旧関係は $H-32 \cdot 52 \rightarrow$ 本遺構の順である。 出土遺物 総数690点。そのうち、高台椀1点、羽 釜 1点、瓦 1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第 1 四半期と考えられる。

H-54号住居跡 (Fig.33・63・69、PL.10・19)

位置 X25・26、Y145~147グリッド **主軸方向** N-78°-E **形状等** 長方形。東西4.28m、南北4.84m、壁 現高37cmを測る。 **面積** 18.47m² **床面** 平坦な床面。 **竈** 東壁中央南より検出され、主軸方向N-77°-E、全長139cm、最大幅120cm、焚口部幅26cmを測る。構築材として、粘土、両袖に川原石を使用している。竈内に2個体分の甕有。 出土遺物 総数543点。そのうち、坏 3点、甕 2点、凹石 1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀第2四半期と考えられる。

H-55号住居跡 (Fig.32、PL.19)

位置 X26、 $Y146 \cdot 147$ グリッド 主軸方向 $N-62^\circ-E$ 形状等 方形と推測される。東西 (2.36) m、南北 (1.48) m、壁現高33cmを測る。 面積 (2.25) m 床面 平坦で部分的に堅緻な床面。 電 検出されず。 重複 H-68と重複しており、新旧関係はH-68→本遺構の順である。 出土遺物 総数52点。そのうち、瓦1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から 9 世紀代と考えられる。

H-56号住居跡 (Fig.37・63、PL.19)

位置 X26・27、Y133・134グリッド 主軸方向 N−85°−E 形状等 長方形と推定される。東西 (4.12) m、南北 (5.15) m、壁現高34cmを測る。 面積 (14.05) m³ 床面 平坦で部分的に堅緻な床面。 竈 検出されず。 重複 H−72・84と重複しており、新旧関係はH−84→本遺構→H−72の順である。 出土遺物 総数933点。そのうち、かわらけ5点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第4四半期と考えられる。

H-57号住居跡 (Fig. 9、PL. 2)

位置 $X21 \cdot 22$ 、 $Y141 \cdot 142$ グリッド 主軸方向 $N-95^\circ-E$ 形状等 長方形と推定される。東西 [2.72] m、南北 [2.23] m、壁現高31cmを測る。 面積 [5.71] m 床面 平坦な床面。 竈 H-6 に壊されていたが、掘り方より東壁中央より検出され、主軸方向 $(N-87^\circ-E)$ 、全長 (60) cm、最大幅 (46) cmを測る。 重複 H-6 \cdot 59と重複しており、新旧関係はH-59→本遺構 \rightarrow H-6 の順である。 出土遺物 総数65点。 備考 時期は埋土や重複関係から Hr-FP 降下から As-B 降下以前と考えられる。

H-58号住居跡 (Fig. 8 セクション図のみ)

位置 X19、Y140グリッド 備考 H-4 西壁セクションで確認。新旧関係はH-4 →本遺構 \rightarrow H-5 の順である。

H-59号住居跡 (Fig.34・64、PL.11・19)

位置 $X21 \cdot 22$ 、 $Y141 \cdot 142$ グリッド 主軸方向 N-73°-E 形状等 長方形。東西4.48m、南北3.88m、壁 現高61cmを測る。 面積 16.18m² 床面 ほぼ平坦で堅緻な床面。 炉 中央北より地床炉が検出され、長軸方向N-2°-W、長軸82cm、短軸60cm、深さ9.5cmを図る。中央部に川原石が1石有。 重複 $H-6 \cdot 57$ と重複しており、新旧関係は本遺構 $\rightarrow H-6 \rightarrow H-57$ の順である。 出土遺物 総数350点。そのうち、鉢1点、甕1点、壺1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から4世紀中葉と考えられる。

H-60号住居跡 (Fig.34・64、PL.10・19)

位置 $X20 \cdot 21$ 、 $Y139 \cdot 140$ グリッド **主軸方向** N-78°-E **形状等** 長方形。東西3.30m、南北4.40m、壁 現高45cmを測る。 **面積** 13.19m² 床面 平坦で部分的に堅緻な床面。 竈 東壁中央やや南より検出され、主 軸方向N-79°-E、全長99cm、最大幅86cm、焚口部幅31cmを測る。構築材として、粘土、袖及00燃焼部壁に瓦を使用している。 **重複** H $-12 \cdot 13$ と重複しており、新旧関係はH $-12 \rightarrow$ H $-13 \rightarrow$ 本遺構の順である。 出土遺物 総数1595点。そのうち、高台皿 2 点、坏 3 点、高台椀 1 点、瓦 3 点を図示した。 **備考** 時期は埋土や出土遺物から 9 世紀第 2 四半期と考えられる。

H-61号住居跡 (Fig.33・64、PL.19)

位置 $X19 \cdot 20$ 、Y141グリッド 主軸方向 N-75°-E 形状等 方形と推測される。東西(1.78) m、南北(2.60) m、壁現高20cmを測る。 面積 (4.01) m 床面 平坦で堅緻な床面。 竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-78°-E、全長94cm、最大幅77cm、焚口部幅18cmを測る。構築材として、粘土、両袖に凝灰岩を使用している。凝灰岩の設置の状況から凝灰岩が天井部に渡してあった可能性が考えられる。 重複 H-3と重複しており、新旧関係は本遺構 $\rightarrow H-3$ の順である。 出土遺物 総数125点。そのうち、羽釜 1 点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第 1 四半期と考えられる。

H-62号住居跡 (Fig.12・63、PL.19)

位置 $X19 \cdot 20$ 、Y137グリッド 主軸方向 N-95°-E 形状等 方形と推測される。東西(2.12) m、南北(2.09) m、壁現高17cmを測る。 **面積** (2.38) m° 床面 平坦で部分的に堅緻な床面。 竈 検出されず。 **重複** H -14と重複しており、新旧関係は本遺構 \rightarrow H-14の順である。 出土遺物 総数138点。そのうち、坏1点、高台 椀1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第4四半期と考えられる。

H-63**号住居跡** 欠 番

H-64号住居跡 (Fig.35・64、PL.19・20)

位置 $X28 \cdot 29$ 、 $Y140 \cdot 141$ グリッド **主軸方向** N-86°-E **形状等** 長方形。東西 (3.42) m、南北 (4.94) m、壁現高61cmを測る。 **面積** (15.73) m³ 床面 平坦で部分的に堅緻な床面。 竈 東壁中央やや南より検出されたが、煙道部は調査区外。主軸方向N-86°-E、全長 (82) cm、最大幅106cm、焚口部幅40cmを測る。構築材として、粘土を使用している。 **重複** $H-43 \cdot 66$ と重複しており、新旧関係は $H-66 \rightarrow$ 本遺構 $\rightarrow H-43 \circ B$

である。 **出土遺物** 総数385点。そのうち、坏 2 点、鉢 1 点を図示した。 **備考** 時期は埋土や出土遺物から 8 世紀第 2 四半期と考えられる。

H-65号住居跡 (Fig.36)

位置 X29、Y138・139グリッド **主軸方向** N-80°-E **形状等** 方形と推測される。東西(1.39)m、南北 (4.65)m、壁現高55cmを測る。 **面積** (5.64)m² **床面** ほぼ平坦な床面。 **竈** 検出されず。 **出土遺物** 総数252点。 **備考** 時期は埋土や出土遺物から Hr-FP 降下から As-B 降下以前と考えられる。

H-66号住居跡 (Fig.35・65、PL.20)

位置 $X28 \cdot 29$ 、 $Y140 \cdot 141$ グリッド 主軸方向 N-56°-E 形状等 長方形と推定される。東西 (5.49) m、南北 (6.32) m、壁現高78cmを測る。 面積 (29.99) m² 床面 平坦で堅緻な床面。 \mathbf{p} 中央北より地床炉が検出され、長軸方向N-35°-W、長軸76cm、短軸72cm、深さ 8 cmを測る。 重複 $H-43 \cdot 64$ と重複しており、新旧関係は本遺構 $\rightarrow H-64 \rightarrow H-43$ の順である。 出土遺物 総数826点。そのうち、坩1点、甕1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から 4 世紀後半と考えられる。

H-67号住居跡 (Fig.36・65、PL.20)

位置 $X28 \cdot 29$ 、 $Y133 \sim 135$ グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 方形と推測される。東西 (2.98) m、南北 (4.53) m、壁現高45cmを測る。 **面積** (11.11) m³ 床面 ほぼ平坦な床面。 **電** 検出されず。 **重複** $H-75 \cdot 77$ と重複しており、新旧関係は $H-75 \rightarrow H-77 \rightarrow$ 本遺構の順である。 出土遺物 総数1409点。そのうち、高台椀 1点を図示した。 **備考** 時期は埋土や出土遺物から10世紀第 3 四半期と考えられる。

H-68号住居跡 (Fig.38・65、PL.20)

位置 $X26 \cdot 27$ 、 $Y146 \cdot 147$ グリッド 主軸方向 N-76°-E 形状等 方形と推測される。東西 (3.94) m、南北 (4.02) m、壁現高16cmを測る。 面積 (10.45) m³ 床面 平坦で部分的に堅緻な床面。 炉 北より地床炉が検出され、長軸方向N-18°-W、長軸74cm、短軸73cm、深さ14cmを測る。 重複 $H-54 \cdot 55$ と重複しており、新旧関係は本遺構 $\rightarrow H-54 \cdot 55$ の順である。 出土遺物 総数165点。そのうち、鉢1点、甕2点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。

H-69号住居跡 (Fig.37 · 65、PL.20)

位置 X28・29、Y142グリッド 主軸方向 N−80°−E 形状等 方形と推測される。東西(1.90)m、南北(0.92)m、壁現高40㎝を測る。 面積 (1.20)㎡ 床面 平坦な床面。 竈 検出されず。 重複 H−71と重複しており、新旧関係は本遺構→H−71の順である。 出土遺物 総数3点。そのうち、坏2点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から6世紀中葉と考えられる。

H-70号住居跡(Fig.27)

位置 X28・29、Y136・137グリッド 主軸方向 N−99°−E 形状等 方形と推測される。東西 (2.32) m、南北(3.05) m、壁現高39cmを測る。 面積 (4.43) m³ 床面 平坦な床面。 竈 検出されず。 重複 H−44・73と重複しており、新旧関係は本遺構→H−44・73の順である。 出土遺物 総数273点。 備考 時期は埋土や重複関係から Hr-FP 降下から 9 世紀中葉と考えられる。

H-71号住居跡 (Fig.37)

位置 X29、Y142グリッド 主軸方向 N−91°-E 形状等 方形と推測される。東西(2.54) m、南北(1.71) m、壁現高58cmを測る。 面積 (2.55) m° 床面 平坦な床面。 竈 検出されず。 重複 H−69と重複しており、新旧関係はH−69→本遺構の順である。 出土遺物 総数15点。 備考 時期は埋土や重複関係から6世紀中葉から Hr-FP 降下以前と考えられる。

H-72号住居跡 (Fig.37・66、PL.20)

位置 $X27 \cdot 28$ 、 $Y133 \cdot 134$ グリッド **主軸方向** N-91°-E **形状等** 正方形。東西4.38m、南北4.19m、壁 現高35cmを測る。 **面積** 16.90m³ 床面 平坦な床面。 電 東壁南より検出され、主軸方向N-91°-E、全長 73cm、最大幅101cm、焚口部幅47cmを測る。構築材として、粘土を使用している。 **重複** $H-20 \cdot 56$ と重複して おり、新旧関係は $H-20 \cdot 56 \rightarrow$ 本遺構の順である。 出土遺物 総数550点。そのうち、かわらけ 1 点、羽釜 1 点を図示した。 **備考** 時期は埋土や出土遺物から10世紀第 4 四半期と考えられる。

H-73号住居跡 (Fig.38・67、PL.20)

位置 X27・28、Y136・137グリッド 主軸方向 N−93°−E 形状等 長方形。東西 [3.89] m、南北 [3.42] m、壁現高38cmを測る。 面積 [12.45] m³ 床面 ほぼ平坦な床面。 竈 東壁中央より検出され、主軸方向 N−102°−E、全長88cm、最大幅88cm、焚口部幅72cmを測る。構築材として、粘土、凝灰岩を使用している。 重複 H−28・45・70と重複しており、新旧関係はH−45・70→本遺構→H−28の順である。 出土遺物 総数1178点。そのうち、高台皿 2 点、甕 1 点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第 2 四半期と考えられる。

H-74号住居跡 (Fig.30 ⋅ 65、PL.20)

位置 X22・23、Y139・140グリッド 主軸方向 N−92°−E 形状等 長方形と推定される。東西 (3.18) m、南北 (3.92) m、壁現高54cmを測る。 面積 (6.38) m° 床面 平坦で堅緻な床面。 竈 検出されず。 重複 H−49・50と重複しており、新旧関係はH−49→本遺構→H−50の順である。 出土遺物 総数236点。そのうち、高台皿1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第2四半期と考えられる。

H-75号住居跡 (Fig.36 · 65)

位置 X28・29、Y134・135グリッド **主軸方向** N−79°−E **形状等** 方形と推測される。東西(1.36)m、南北(3.93)m、壁現高53㎝を測る。 **面積** (4.53)㎡ **床面** 平坦な床面。 **竈** 検出されず。 **重複** H−67・77重複しており、新旧関係は本遺構→H−77→H−67の順である。 出土遺物 総数30点。そのうち、高台皿1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第2四半期と考えられる。

H-76号住居跡 (Fig.39・65、PL.10・20)

位置 $X26 \cdot 27$ 、 $Y140 \sim 142$ グリッド 主軸方向 N-61°-E 形状等 長方形と推定される。東西 (4.54) m、南北 (3.77) m、壁現高34cmを測る。 面積 (15.01) m 床面 ほぼ平坦な床面。 炉 中央北より地床炉が検出され、長軸方向N-56°-E、長軸76cm、短軸56cm、深さ8cmを測る。 重複 H-79と重複しており、新旧関係は本遺構 $\rightarrow H-79$ の順である。 出土遺物 総数473点。そのうち、坩1点、高坏1点、器台1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。

H-77号住居跡 (Fig.36 · 65、PL.20)

位置 $X28 \cdot 29$ 、 $Y134 \cdot 135$ グリッド 主軸方向 N-52°-E 形状等 方形と推測される。東西 (3.08) m、南北(2.92) m、壁現高40cmを測る。 面積 (6.26) m 床面 平坦な床面。 竈 検出されず。 重複 H-67・75と重複しており、新旧関係はH-75→本遺構 $\rightarrow H-67$ の順である。 出土遺物 総数95点。そのうち、かわらけ 1点を図示した。 備考 時期は埋土や重複関係から10世紀中葉と考えられる。

H-78号住居跡 (Fig.40 ⋅ 66、PL.20)

位置 $X25 \cdot 26$ 、 $Y136 \cdot 137$ グリッド 主軸方向 N-82°-E 形状等 方形と推測される。東西 (2.20) m、南北 (2.49) m、壁現高35cmを測る。 面積 (4.41) m 床面 平坦な床面。 電 東壁中央南より検出され、主軸方向N-89°-E、全長100cm、最大幅91cm、焚口部幅51mを測る。構築材として、粘土を使用している。 重複 $H-15 \cdot 38$ と重複しており、新旧関係は本遺構 $\rightarrow H-38 \rightarrow H-15$ の順である。 出土遺物 総数361点。そのうち、坏2点、甕1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第2四半期と考えられる。

H-79号住居跡 (Fig.39 · 66、PL.11 · 20)

位置 $X24\sim26$ 、 $Y140\cdot141$ グリッド 主軸方向 $N-70^\circ-E$ 形状等 長方形。東西 [4.75] m、南北 [5.28] m、壁現高55cmを測る。 面積 [21.50] m² 床面 平坦な床面。 竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向 $N-53^\circ-E$ 、全長138cm、最大幅120cm、焚口部幅46cmを測る。構築材として、粘土、天井石に凝灰岩を使用している。 重複 $H-47\cdot76$ と重複しており、新旧関係はH-76→本遺構 $\to H-47$ の順である。 出土遺物 総数601点。そのうち、坏1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から6世紀第2四半期と考えられる。

H-80号住居跡 (Fig.41 ⋅ 66、PL.20)

位置 $X23 \cdot 24$ 、 $Y140 \cdot 141$ グリッド 主軸方向 $N-65^\circ-E$ 形状等 長方形と推定される。東西 (3.69) m、南北 (3.04) m、壁現高70cmを測る。 面積 (7.91) m 床面 平坦な床面。 炉 北より地床炉が検出され、長軸方向 $N-10^\circ-W$ 、長軸60cm、短軸46cm、深さ6 cmを測る。南側に川原石1石有。 重複 $H-7 \cdot 47 \cdot 48$ と重複しており、新旧関係は本遺構 $\rightarrow H-7 \cdot 47 \cdot 48$ の順である。 出土遺物 総数211点。そのうち、鉢1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。

H-81号住居跡 (Fig.16)

位置 X23、Y136グリッド 主軸方向 N-64°-E 形状等 方形と推測される。東西(1.42) m、南北(2.33) m、壁現高58cmを測る。 面積 (2.18) m 床面 平坦な床面。 竈 検出されず。 重複 $H-23 \cdot 51$ と重複しており、新旧関係は本遺構 $\rightarrow H-23 \cdot 51$ の順である。 出土遺物 総数134点。 備考 時期は埋土や出土遺物、重複関係から 4 世紀中葉から 6 世紀後半と考えられる。

H-82号住居跡 (Fig.66)

位置 $X24 \cdot 25$ 、 $Y139 \cdot 140$ グリッド 主軸方向 N-86°-E 形状等 正方形と推定される。東西 [3.21] m、南北 [3.10] m、壁現高43cmを測る。 面積 [9.47] m 床面 ほぼ平坦な床面。 竈 H-46に壊されていたが、掘り方より東壁中央より検出され、主軸方向 $(N-83^{\circ}-E)$ 、全長 (72) cm、最大幅 (92) cmを測る。 重複 $H-46 \cdot 48$ と重複しており、新旧関係は $H-48 \rightarrow$ 本遺構 $\rightarrow H-46$ の順である。 出土遺物 総数475点。そのうち、蓋 1点、坏1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から 9世紀第 1 四半期と考えられる。

H-83号住居跡 (Fig.40 ⋅ 66、PL.20)

位置 $X25\sim27$ 、 $Y139\cdot140$ グリッド 主軸方向 $N-53^\circ-E$ 形状等 方形と推測される。東西 (4.10) m、南北 (5.21) m、壁現高67cmを測る。 面積 (13.64) m 床面 ほぼ平坦な床面。 炉 中央北より地床炉が検出され、長軸方向 $N-37^\circ-W$ 、長軸69cm、短軸66cm、深さ11cmを測る。南寄りに川原石 1 石有。 重複 $H-16\cdot22\cdot40\cdot85$ と重複しており、新旧関係は本遺構 $H-16\cdot22\cdot40\cdot85$ の順である。 出土遺物 総数293点。そのうち、鉢 1 点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から 4 世紀後半と考えられる。

H-84号住居跡 (Fig.41 ⋅ 67、PL.20)

位置 $X25\sim27$ 、 $Y134\sim136$ グリッド 主軸方向 $N-73^\circ-E$ 形状等 正方形。東西 [4.76] m、南北 [4.95] m、壁現高96cmを測る。 面積 [22.02] m 床面 平坦で堅緻な床面。周溝有。 f 中央北より検出され、長軸方向 $N-23^\circ-W$ 、長軸104cm、短軸78cm、深さ12cmを測る。川原石 2 石有。中央部にもやや床面より落ち込む部分があるが炉とは断定できない。 重複 $H-11\cdot26\cdot56$ と重複しており、新旧関係は本遺構 $\rightarrow H-11\cdot26\cdot56$ の順である。 出土遺物 総数490点。そのうち、鉢 2 点、甕 2 点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から 4 世紀後半と考えられる。

H-85号住居跡 (Fig.70、PL.21)

位置 X25、Y139 • 140グリッド 出土遺物 総数125点。そのうち、鉄製品の鍬 1 点を図示した。 **備考** H-83 の北西に住居西壁の立ち上がりのみ確認できた。新旧関係はH-83→本遺構→H-16の順である。

2 溝 跡

W-1号溝跡 (Fig.42、PL.11)

位置 $X20\sim27$ 、 $Y144\cdot145$ グリッド 主軸方向 $N-84^\circ-E$ 、 $N-89^\circ-E$ 形状等 U字形。長さ25.7m、深 さ36.5cm、最大上幅155cm、最大下幅117cmを測る。 重複 $H-31\cdot32$ 、W-2 と重複しており、新旧関係は $H-31\cdot32$ 本遺構 W-2 の順である。 備考 流水の痕跡無し。時期は埋土から Hr-FP 降下以降から As-B 降下以前と考えられる。

W-2号溝跡 (Fig.42、PL.11)

位置 $X20\sim27$ 、 $Y145\cdot146$ グリッド 主軸方向 $N-77^\circ-E$ 、 $N-86^\circ-E$ 、 $N-84^\circ-E$ 形状等 U字形。長さ27.1m、深さ48.5cm、最大上幅85cm、最大下幅48cmを測る。 重複 H-30、W-1 と重複しており、新旧関係はH-30、W-1 →本遺構の順である。 備考 流水の可能性有。時期は埋土から As-B 降下以降と考えられる。

3 土 坑 (Fig.43 · 46 · 67 · 68 · 70、PL.1 · 11 · 12 · 20 · 21)

土坑については、Tab.4 土坑計測表 (P29) を参照のこと。

縄文土坑からは、縄文時代中期の加曽利及び曽利の遺物が出土している。なお、 $JD-1 \cdot 2 \cdot 5 \cdot 11$ の深鉢 4点を図示した。

D-2からは2つの高台椀が上下重ねた状態で出土し、上の高台椀の底部には尖孔が1つある。また、赤味を帯びた石が周りに敷かれており、その1つには文字が書かれてある。詳細については「VI まとめ」で記述する。

なお、D-2の高台椀2点、石1点を図示した。また、D-8の鎌2点を図示した。

4 グリッド等出土遺物

小破片を含め総数14,564点の遺物を出土した。なお、瓦1点を図示した。

Tab. 2 竪穴住居跡一覧表(1)

Tab. 2	竪八任	主居跡一!	覧表(1)							
遗構名		規模(m)	777 Fals (2)	+ あたたち	炉・篭	周	主	な出土遺	物
退件石	東西(長径)	南北(短径)	壁現高	面積(m²)	主軸方向	位置・素材等	溝	土 師 器	須恵器	その他
J-1	4,63	4.57	0.65	16.57	N-70°-E	中央やや西・地床炉	-			深鉢・打製石斧
J-2	(5.48)	(5.30)	0.81	(22.11)	N-90°-E	中央やや南・石囲い炉	_			深鉢
H-1	(3:07)	(2.97)	0.20	(6.20)	N-39°-E	東壁中央やや南	-			
H-2	(3.68)	(5,16)	0.50	(14.52)	N-64°-E	東壁中央やや南・粘土、凝灰岩	0	坏・甕		
H-3	(1.04)	(2.25)	0.18	(2.22)	N-86°-E	東壁南隅・粘土、川原石	-			瓦
H-4	(1,49)	(4,42)	0.33	(4.76)	N-93°-E	東壁中央南・粘土、凝灰岩、瓦	-	台付甕	蓋•坏	刀子
H-5	(1.45)	(2.19)	0.24	(3.01)	N-82°-E	=	_		坏	
H-6	3.05	2.58	0.31	6.93	N-83°-E	東壁中央やや北・粘土	-			
H-7	3.92	3.53	0.66	12.70	N-74°-E	東壁中央やや南・粘土、凝灰岩	0	坏•甕		
H-8	5.72	4.74	0.80	25.53	N-70°-E	東壁中央やや南・粘土、凝灰岩	_	坏・鉢・甕		
H-9	[2,91]	2.56	0.37	[6.84]	N-89°-E	東壁中央やや北・粘土	_		坏	
H-10		in The				欠 番			1	
H-11	5.09	4.47	0.32	21.38	N-83°-E	東壁中央・粘土、川原石			かわらけ・高台椀	釘·瓦
H-12	7.51	7,58	0.49	53,36	N-65°-E	東壁中央やや南・粘土	0	坏・高坏	as a section	27 24
H-13	3.79	4.69	0.43	16,55	N-83°-E	東壁中央やや南・粘土	0	坏		砥石
H-14	(2.99)	(3.08)	0.39	(6.98)	N-76°-E	東壁・粘土、川原石、瓦			坏・高台椀・羽釜	NEX.17
H-15	3.24	3.48	0.39	9.66	N-91°-E	東壁中央南・粘土、石、凝灰岩			耳皿・高台皿・遊・甑	瓦
H-16	(4,34)	(5.47)	0.60		N-81°-E	来至于大用· 和上、 4、 族八石			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	141
				(14.93)		お除われま 刈し 下 ア		THE	坏	立公松
H-17	3.37	3,98	0.43	12.10	N-89°-E	東壁中央南・粘土、瓦、石	-	甕		高台椀
H-18	2,45	2.90	0.48	6.51	N-100°-E	東壁中央やや南・粘土、石	_	ler.	高台椀・羽釜	瓦
H-19	[3.61]	[3.15]	0,42	[10.13]	N-96°-E	東壁中央・粘土、石、凝灰岩	-	坏	高台椀	
H-20	4.18	2.76	0.49	10,75	N-91°-E	東壁中央やや南	-	坏・甕	高台椀	
H-21	[3.10]	[3.61]	0.43	[10,68]	N-95°-E	東壁中央やや南・粘土、瓦	77	坏	坏・高台椀	
H-22	4.04	3,85	0,50	13.89	N-80°-E	東壁中央南・粘土	-	坏	坏・高台椀	斧
H-23	[4.19]	[4,35]	0.51	[16.86]	N-80°-E	東壁中央南・粘土	-	坏・鉢・甕		
H-24	3,37	3.67	0.32	11,22	N-103°-E	東壁中央やや南・粘土、石	-	坏・甕	坏•高台椀•羽釜	瓦
H-25	[5.18]	[3.89]	0 63	[17 61]	N-72°-E	北壁中央やや東・粘土、石	-	坏・甕	坏・高台椀	浄瓶
H-26	3.06	3.94	0.34	11.33	N-91°-E	東壁中央南・粘土	-	坏	坏•高台椀	飾り金具
H-27	4.42	5.05	0.42	20.87	N-90°-E	東壁中央やや南・粘土、石、瓦、凝灰岩	=	坏•甕	坏・高台椀	丸鞆
H-28	2,30	1.98	0.41	4.31	N-90°-E	東壁中央・粘土、石、瓦	=		高台椀	瓦
H-29	[3,40]	[4.04]	0.45	[12.67]	N-104°-E	東壁中央やや南・粘土、瓦	-	坏・甕	坏・高台椀	平瓶・瓦
H-30	(6,05)	(6.05)	0.31	(23.66)	N-62°-E		0	鉢		
H-31	(6,44)	(6.00)	0.32	(28.18)	N-99°-E	中央北・地床炉	-	鉢•坩		
H-32	(5.30)	(4.53)	0.73	(19.64)	N-58°-E	中央やや北・地床炉	-	器台・高坏・甕		
H-33	5.90	4.09	0.69	22,20	N-63°-E	東壁中央・粘土、石、凝灰岩	0		高台椀	Y.
H-34	4.07	2.90	0.43	10.85	N-87°-E	東壁中央南・粘土、石、凝灰岩		壺		
H-35	4.49	4.40	0.72	18,28	N-92°-E	西壁中央やや南	0	坏・甕		白玉
H-36	2.62	3.74	0.27	9,17	N-95°-E	東壁南		坏	坏•高台椀	
H-37	(2.03)	(2.88)	0.45	(5.16)	N-88°-E	東壁	_	坏•甕		高台椀
H-38	3.25	3,35	0.37	9,59	N-70°-E	東壁中央・粘土	_		高台椀·羽釜	白磁
H-39	(2,67)	(3,60)	0.36	(8,62)	N-87°-E	東壁南・粘土			蓋•坏	
H-40	4.10	4.29	0.77	15.93	N-87°-E	東壁中央やや南・粘土			坏•高台椀	刀装具
	111111111111111111111111111111111111111					東壁中央でで用・桁工			坏・同日機	八衣朵
H-41	(3.04)	(1,52)	0.39	(3.00)	N-87°-E			Table 1		好企士
H-42	4.64	3.73	0.39	16.16	N-76°-E	東壁南・粘土	-	AT THE	蓋・高台皿	紡錘車
H-43	(4.59)	(3.58)	0.42	(15.33)	N-78°-E	東壁・粘土、瓦		坏・甕	高台皿	瓦

Tab. 2 竪穴住居跡一覧表(2)

rab. z		上店助一		7	ľ	u≕ ede		主 な 出 土 遺 物			
遺構名		規模(m)		面積(m²)	主軸方向	炉・竈	周溝		1 1		
77. 44		南北(短径)		(5.04)	M 1151 D	位置・素材等	-	土 師 器	須恵器	その他	
H-44 H-45	[3.91]	[3.12]	0.54	(5 _* 34) [10 _. 87]	N-115°-E N-89°-E	東壁・粘土、瓦	-	雑	坏・高台椀 坏・		
			0.44					714	1 1	т-	
H-46	4.02	5.31	0.58	19,44	N-84°-E	東壁中央やや南・粘土、石、瓦	_	甕	坏 京小中 班	瓦	
H-47	5.18	6.44	0.72	29.36	N-70°-E	東壁中央南・粘土、凝灰岩	0	坏	坏・高台椀・甕		
H-48	3,56	4.24	0.51	14.75	N-91°-E	東壁中央南・粘土	-	坏・甕	坏·甕	鉄鏃・瓦	
H-49	3,54	4,80	0.59	15.81	N-80°-E	東壁中央南・粘土、凝灰岩	-	甕	坏・高台椀・壺	W 100 2000	
H-50	3.40	4,46	0.44	14.16	N-93°-E	東壁中央南・粘土、川原石、瓦	-	坏・甕	高台椀	転用硯	
H-51	4.74	4.90	0.70	21.52	N-101°-E	東壁中央・粘土、瓦、安山岩	-	坏・甕	坏・高台椀	砥石	
H-52	(3.44)	(3.68)	0.46	(11.81)	N-81°-E	東壁中央南・粘土、安山岩	-		高台椀	鉄鏃	
H-53	3.21	2.68	0.39	7.37	N-85°-E	南壁中央・粘土・石	-		高台椀・羽釜	瓦	
H-54	4.28	4.84	0.37	18,47	N-78°-E	東壁中央南・粘土、川原石	-	坏•甕		凹石	
H-55	(2,36)	(1.48)	0.33	(2,25)	N-62°-E	-	-			瓦	
H-56	(4.12)	(5.15)	0.34	(14.05)	N-85°-E	_	-		かわらけ		
H-57	[2.72]	[2,23]	0.31	[5,71]	N-95°-E	東壁中央	-				
H-58						セクションのみ			ile.		
H-59	4.48	3.88	0.61	16,18	N-73°-E	中央北・地床炉、川原石		鉢・甕・壺			
H-60	3,30	4.40	0.45	13,19	N-78°-E	東壁中央やや南・粘土、瓦	-	坏	高台皿	瓦	
H-61	(1.78)	(2.60)	0.20	(4.01)	N-75°-E	東壁中央南・粘土、凝灰岩			羽釜		
H-62	(2.12)	(2.09)	0.17	(2,38)	N-95°-E		-		坏・高台椀		
H-63					30	欠番	1				
H-64	(3,42)	(4.94)	0.61	(15.73)	N-86"-E	東壁中央やや南・粘土	-	鉢	坏		
H65	(1.39)	(4.65)	055	(5.64)	N-80°-E	-	-				
H-66	(5.49)	(6.32)	0.78	(29.99)	N-56°-E	中央北・地床炉	-	坩・甕		-	
H-67	(2.98)	(4.53)	0.45	(11.11)	N-91°-E	14			高台椀		
H-68	(3.94)	(4.02)	0.16	(10.45)	N-76°-E	北・地床炉	-	鉢・甕			
H-69	(1.90)	(0.92)	0.40	(1,20)	N-80°-E	=		坏			
H-70	(2.32)	(3.05)	0.39	(4.43)	N-99°-E	-	_				
H-71	(2.54)	(1,71)	0.58	(2.55)	N-91°-E	_	-				
H-72	4.38	4.19	0.35	16.90	N-91°-E	東壁南・粘土	_		かわらけ・羽釜		
H-73	[3.89]	[3.42]	0.38	[12.45]	N-93°-E	東壁中央・粘土、凝灰岩			高台皿・甕	高台皿	
H-74			0.54	(6.38)	N-92°-E	水里 1 八 相 1 1 W 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			高台皿	led (7) mr	
H-75	(1.36)	(3.93)	0.53	(4,53)	N-79°-E	12			led Claur	高台皿	
H-76	(4.54)	(3.77)	0.34	(15.01)	N-61°-E	中央北・地床炉		坩・器台		led C1 mm	
H-77					N-61 - E N-52°- E	中大礼,也体》。		20. 处口	to to 2.14		
	(3,08)	(2.92)	0.40	(6,26)		市路中市市 - 北上		zh:	かわらけ		
H-78	(2.20)	(2.49)	0.35	(4.41)	N-82°-E	東壁中央南・粘土			坏		
H-79	(4.75)	[5.28]	0.55	[21.50]	N-70°-E	東壁中央やや南・粘土、凝灰岩	_	坏			
II—80	(3,69)	(3.04)	0.70	(7.91)	N-65°-E	北・地床炉、川原石	-				
H -81	(1.42)	(2,33)	0.58	(2.18)	N-64°-E	=	-		l		
H-82	[3,21]	[3.10]	0.43	[9.47]	N-86°-E	東壁中央	-		蓋		
H-83	(4:10)	(5,21)	0.67	(13,64)	N-53°-E	中央北・地床炉、川原石	-	鉢			
H-84	[4.76]	[4.95]	0.96	[22.02]	N-73°-E	中央北・地床炉、川原石		鉢・甕			
H-85						西壁立ち上がりのみ確認					

Tab. 3 溝跡計測表

`鬼# <i>力</i>	位 置	長さ	深さ	(cm)	上幅	(cm)	下幅	(cm)	+ 14	形状	備考
遺構名	位置	(m)	最大	最小	最大	最小	最大	最小	方 位	カシ4人	覆土・遺物
W-1	X20~27 Y144,145	25.7	36.5	2.5	155	76	117	51	西側より N-84°-Eの方向に19.3m 進み、そこから N-89°-Eの方向に 6.4m進んで東壁にぶつかる	U字形	古代
W-2	X20~27 Y145,146	27.1	48.5	23.5	85	65	48	41	西壁よりN-77°-Eの方向に7.4m進み、そこからN-86°-Eの方向に10m 進み、さらN-84°-Eの方向に9.7m 進んで東壁にぶつかる	U字形	中世

Tab. 4 土坑計測表

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	備考
JD-1	X21, Y137	117	116	38	円形	
JD— 2	X22, Y139	120	115	79	円 形	
JD— 3	X21, Y140	114	104	22.5	円 形	
JD— 4	X23、Y139	148	110	44.5	楕円形	
JD- 5	X21、Y145	66	35	23.5	楕円形	
JD— 6	X21、Y145	63	50	37.5	楕 円 形	
JD— 7	X21, Y145	78	65	19.5	楕円形	
JD-8	X23,24, Y139	196	120	96.5	楕円形	
JD— 9	X20, Y143	12	11	9.5	円形	
JD—10	X20,21, Y144	32	30	18	円形	
JD11	X23、Y137	27	25	31	円形	
D - 1	X26, Y139,140	126	116	26.5	円形	
D-2	X27, Y133	57	44	21	楕円形	
D-3	X24、Y139	86	67	99	楕円形	
D-4	X22, Y138	120	51	9.5	楕円形	
D-5	X22, Y146,147	(113)	(68)	(85)	不整形	
D-6	X25,26, Y144	80	60	31	楕円形	
D - 7	X25, Y139	75	70	46.5	正方形	
D-8	X25, Y140	70	62	67.5	楕円形	
D-9	X26, Y135,136	174	120	108	楕円形	

Tab. 5 縄文時代出土土器観察表

		_	-		-				
番号	遺構番号/層位	器	種	①口径②	器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備	考
1	J-1-1 埋土	深	鉢			①中粒②良好③暗褐色 ④1/2	平口縁。全面L斜縄文。口縁部4ヶ所に長さ3.5cm、幅1.4cmの耳たぶ状の突起。底部径8.0cmの平底。	諸磯(3
2	J-1-2 埋土	深	鉢			①粗粒②良好③暗褐色 ④口縁・胴部破片	平口縁。口縁端部に深い押捺の爪形文、口縁部は集合条線を横方向に巡 らせ、胴部は集合条線を縦・斜・鋸歯状に施す。	諸磯(2
3	J-1-3 埋土	深	鉢			①中粒②良好③暗褐色 ④口縁破片	平口縁。口縁端部に深い押捺の爪形文、2つ1組の径2cmの円形状の突起。口縁部は上位に集合条線を横方向に巡らせ、下位に鋸歯状の集合条線を巡らせる。胴部は集合条線を縦・斜に施す。	諸磯(2
4	J-1-4 埋土	深	鉢			①中粒②良好③にぶい 褐色④口縁破片	平口縁。口縁部は集合条線を横方向に巡らせ、頸部にボタン状貼付文・ 棒状貼付文。胴部は縦・横・横方向に弧を描いた集合条線。	諸磯(2
5	J-1-5 埋土	深	鉢			①中粒②良好③暗褐色 ④口縁破片	平口縁。全面撚糸文R。	諸磯(3
6	J-1-6 埋土	深	鉢		3.6)	①中粒②良好③暗褐色 ④口縁破片	平口縁。全面に刺突文を施す。	興津	
7	J-1-7 埋土	深	鉢	① ②	Ξ	①中粒②良好③浅黄橙 色④口縁破片	大波状口縁。口縁部に突帯を有し、その上・下面は横方向の集合条線。 隆帯の下は横・縦・鋸歯状の集合条線。	諸磯(3
8	J-1-8 埋土	深	鉢		_	①中粒②良好③浅黄橙 色④胴部破片	上位は鋸歯状の集合条線の中にボタン状貼付文。下位は横方向の集合条 線。	諸磯(2
9	J-1-9 埋土	深	鉢		_	①中粒②良好③浅黄橙 色④突起部破片	大波状口縁の突起部。三角錐状で、外面集合条線にボタン状貼付文。	諸磯(2
10	J-1-10 埋土	深	鉢	200	_	①粗粒②良好③浅黄橙 色④突起部破片	三角形状の透かし孔有。外面集合条線。	諸磯(c
11	J-2-1 埋土	深	鉢).0 .1)	①中粒②良好③にぶい 橙色④1/2	口縁部やや外傾する4単位の波状口縁。波状部下に隆帯渦巻文、その左側に隆帯による区画、区画内は網目状撚糸文。胴部網目状撚糸文、頸部より幅2.5~3.5cmの無文帯が6単位有。	加曽和	∜E 3
12	J-2-2 埋土	深	鉢			①中粒②良好③にぶい 橙色④口縁破片	4 単位の波状口縁。波状部の内面には向かい合う 2 個ずつの円形の窪み 有。波状部下に隆帯渦巻文、その両側に隆帯による区画、区画内はRL 斜縄文。 2 つの隆帯による区画の両端上に径 1 cmの円孔有。	加曽和	∜E 2
13	J-2-3 床直	深	鉢			①中粒②良好③黒褐色 ④口縁破片	平口縁。口縁部より逆U字状に区画、区画内はRL斜縄文、区画の間に 蕨手状の沈線。	加曽和	¶E 3
14	J−2−4 床直	深	鉢			①中粒②良好③にぶい 黄橙色④口縁破片	平口縁。口縁部に隆帯による区画、隆帯渦巻文。区画内はRL斜縄文。 隆帯による区画の下はRL斜縄文。隆帯下に幅1.4~1.8cmの無文帯有。	加曽和	利E 2
15	J-2-5 埋土	深	鉢	~ L		①粗粒②良好③にぶい 橙色④口縁破片	平口縁。口縁部無文帯、その下に 1 条の沈線を巡らせ、胴部縦方向の条 線。	加曽和	引E 4
16	J-2-6 埋土	浅	鉢	① ②	_	①中粒②良好③にぶい 橙色④口縁破片	波状口縁か。口縁端部肥厚し、肥厚部内面に沈線。	加曽和	∛B
17	JD—1—1 床直	深	鉢			①中粒②良好③灰褐色 ④口縁破片	平口縁。口縁部に隆帯による区画、隆帯渦巻文。区画内は条線。胴部に も隆帯による区画が続き、隆帯渦巻文、区画内は条線。	加曽和	刊E3
18	JD-2-1 床直	深	鉢			①中粒②良好③にぶい 橙色④ほぼ完形	平口縁。全面縦方向の条線。	加曽和	利E 3
19	JD-5-1 床直	深	鉢			①中粒②良好③にぶい 橙色④1/3	平口縁。口縁部に隆帯による4つの区画、区画内はRL斜縄文。胴部RL斜縄文に幅3cmの無文帯を垂下。	加曽和	刊E3
20	JD—11-1 床直	深	鉢			①中粒②良好③橙色④ 1/2	平口縁。キャリパー形。口縁部無文帯。全体がU字状・逆U字状の沈線で区画され、区画内はLR斜縄文。底部:径7.1cm平底。	加曽和	NE 4

注)①層位は、「床直」:床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」:床面より11cm以上の層位からの検出の2 段階に分けた。電内の検出については「竈内」と記載した。

- ②口径、器高の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を()、復元値を[]で示した。
- ③胎土は、細粒 (0.9mm以下)、中粒 $(1.0\sim1.9mm$ 以下)、粗粒 (2.0mm以上) とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
- ④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
- ⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳(小山・竹原1976)によった。

Tab. 6 古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

Tal	b. 6 古墳	• 奈良		平安時代	弋出土土器観察表			
番号	遺構番号/層位	器種	1	口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備	考
1	H-2-1 床直	坏 土師器	① ②	[11.4] (4.0)	①細粒②良好③橙色 ④1/4	口縁部:短く直立、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部:浅い丸底、 内面撫で、外面箆削り。		
2	H−2−2 床直	甕 土師器	(1) (2)		①中粒②良好③にぶい 黄橙色④1/6	口縁部:器最大径、直立から端部外反、内・外面横撫で。頸部にくびれ 無。胴部:内面撫で、外面縦箆削り。底部:欠損。		
3	H-4-1 埋土	蓋 須恵器	1)	[18.2] (3.4)	①細粒②良好③灰色 ④1/5	轆轤整形。天井部:水平から外傾、外面回転箆削り、端部内・外面撫で、返り無。摘み:小さい環状摘み。		
4	H-4-2 床直	坏 須恵器	① ②		①細粒②良好③灰色 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部:小さく外傾、内・外面撫で。底部:径8.2mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。		
5	H−4−3 床直	台付甕 土師器			①細粒②良好③にぶい 橙色④1/3	口縁部:直立気味から端部やや外反、内・外面横撫で。胴部:中位に器 最大径を持ち、内面撫で、外面斜め箆削り。台部:大きく外傾、端部欠 損。		
6	H-5-1 床直	坏 須恵器	1 2	[12.9] 3.6	①細粒②良好③褐灰色 ④1/4	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径7.5mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	外面に 釉	こ自然
7	H-7-1 床直	坏 土師器	(1) (2)	11.8 4.9	①細粒②良好③橙色 ④完形	口縁部:直立から端部やや外傾、内・外面横撫で。交換点に弱い稜有。 底部:浅い丸底、内面撫で、外面箆削り。		
8	H-7-2 床直	甕 土師器	① ②	14.0 (12.0)	①細粒②良好③橙色 ④2/3	口縁部:器最大径、外傾、内・外面横撫で。頸部にくびれ無。胴部:内面箆撫で、外面縦箆削り。底部:欠損。		
9	H-7-3 床直	甕 須恵器	① ②	26.4 (7.9)	①細粒②良好 ③灰色④口縁	轆轤整形。口縁部:外傾から外反、内・外面横撫で、口縁端部箆調整による2本の沈線有。外面に波状文が2段巡る。胴部・底部:欠損。		
10	H-8-1 床直	坏 土師器	1 2	12.7 5.0	①細粒②良好③にぶい 黄褐色④ほぼ完形	口縁部:短く直立、端部やや外反、内・外面横撫で。交換点に弱い稜有。 底部:丸底、内面撫で、外面箆削り。		
11	H-8-2 床直	鉢 土師器	1 2		①細粒②良好③にぶい 黄橙色④1/2	口縁部:短く直立、端部やや外反、内・外面横撫で。交換点に弱い稜有。 底部:丸底、内面撫で、外面箆削り。		
12	H−8−3 床直	甕 土師器	① ②		①細粒②良好③にぶい 黄褐色④1/6	口縁部:外傾、内・外面横撫で、口縁端部箆押さえ。頸部にくびれ有。 胴部:内面撫で、外面縦箆削り。底部:欠損。		
13	H−9−1 床直	坏 須恵器	1 2		①細粒②良好③灰色 ④2/3	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面横撫で、口縁端部箆押さえ。底部:径7.9mmの平底、内面撫で、外面箆調整か。		
14	H-11-1 床直	かわらけ	① ②		①細粒②良好③にぶい 橙色④2/3	轆轤整形。口縁・体部:大きく外傾、内・外面撫で。底部:径4.5mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。		
15	H-11-2 床直	かわらけ	① ②		①細粒②良好③灰白色 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径4.5mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。		
16	H-11-3 床直	かわらけ	① ②	11.0 3.4	①細粒②良好③橙色 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部:大きく外傾、内・外面撫で。底部:径5.0mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。		
17	H-11-4 床直	高台椀 須恵器	① ②		①細粒②良好③橙色 ④完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部やや外反・肥厚、内・外面横撫 で。底部:内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	酸化炸	2
18	H─11─ 5 床直	高台椀 須恵器			①細粒②良好③橙色 ④ほぽ完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面横撫で。底部:内面撫で、外面 回転糸切り後付け高台。	酸化炸	3
19	H-11-6 床直	高台椀 須恵器			①細粒②良好③にぶい 黄橙色④2/3	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面横撫で。底部:内面撫で、外面 回転糸切り後付け高台。	酸化炸	3
20	H-11-7 床直		1 2	(8.1)	①細粒②良好③灰オ リーブ色④1/3	轆轤整形。口縁・頸部:欠損。体部:内・外面撫で。底部:回転糸切り 後付け高台。		
21	H-11-8 床直	土 釜 土師器			①中粒②良好③にぶい 赤褐色④1/2	口縁部:大きく外傾、内・外面横撫で。胴部:内面撫で、外面箆削り。 底部:径11.4mmの平底、箆削り。		
22	H-12-1 床直	坏 土師器	① ②	12.8 4.5	①細粒②良好③橙色 ④ほぼ完形	口縁部:直立、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部:浅い丸底、内面 撫で、外面箆削り。底部内面に竹管文 1 つ有。		
23	H-12-2 床直	高 坏土師器		17.4 (11.5)	①細粒②良好③明赤褐 色④2/3	口縁部:外傾、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部:浅い丸底、内面 撫で、外面篦削り。脚部:外面縦篦削り。端部は欠損。		
24	H-12-3 床直	台付椀 土師器	1	[10.7] (17.9)	①細粒②良好③褐色 ④2/3	口縁部:内傾、内・外面横撫で。体部:内面撫で、外面箆削り。台部: 外傾から端部で大きく開く。外面上位箆削り、下位撫で。		
25	H-13-1 竈内	坏 土師器	1		①細粒②良好③にぶい 橙色④1/4	口縁部:短く直立気味、内・外面横撫で。底部:平底気味、内面撫で、 外面箆削り。		
26	H−13−2 床直	坏 土師器	① ②		①細粒②良好③橙色 ④1/4	口縁・体部:外傾、端部内・外面横撫で。内面撫で、外面箆削り。底部: 平底、外面箆削り。		
27	H-14-1 埋土	かわらけ	① ②		①細粒②良好③にぶい 橙色色④1/2	轆轤整形。口縁・体部:大きく外傾、内・外面撫で。底部:径4.4mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	漆付着	Ī
28	H-14-2 埋土	坏 須恵器	① ②		①細粒②良好③暗灰色 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径6.3mmの平底、内 面撫で、外面回転糸切り。	いぶしか	/焼月
29	H-14-3 床直	高台椀 須恵器			①細粒②良好③にぶい 褐色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:内面撫で、外面回 転糸切り後付け高台。	酸化焰	3
30		高台椀 須恵器			①細粒②良好③浅黄色 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:内面撫で、外面回 転糸切り後付け高台。	体部内書	可面是
			_					

番号	遺構番号/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
31	H-14-5 床直	羽 釜 須恵器	① [21.9 ② (19.6] ①細粒②良好③にぶい) 黄橙色④1/6	轆轤整形。口縁部:内傾、内・外面横撫で。鍔部:丸みを帯び、やや上 向きに付く。胴部:内・外面撫で。底部:欠損。	酸化焰
32	H-15-1 埋土	耳 皿 須恵器			轆轤整形。かわらけを使用。折り曲げ部の径3.4mm。	
33	H-15-2 埋土	高台皿 灰 釉			轆轤整形。口縁・体部:大きく外傾、口縁端部箆押さえ。底部:回転糸 切り後付け高台、箆調整。釉薬はつけがけ。	
34	H-15-3 床直	高台椀 須恵器			轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部やや外反・肥厚、内・外面撫で。 底部:回転糸切り後付け高台。	体部側面墨書
35	H-15-4 埋土	高台椀 須恵器		①中粒②良好③灰色 ④2/3	轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部: 回転糸切り後付け高台。	体部側面墨書
36	H-15-5 床直	高台椀 須恵器		①粗粒②良好③明赤褐色④1/3	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。口縁端部欠損。底部:回 転糸切り後付け高台。高台部は足高。	酸化焰
37	H-15-6 埋土	羽 釜 須恵器] ①中粒②良好③にぶい 黄橙色④1/5	轆轤整形。口縁部:内傾、内・外面撫で。鍔部:三角形、ほぼ水平に付く。胴部上位:内・外面撫で。底部:欠損。	酸化焰
38	H-15-7 床直	壺 須恵器	① [14.9 ② 32.6	①中粒②良好③灰色 ④1/2	轆轤整形。口縁部:外湾気味、内・外面撫で、口縁端部篷押さえ。胴部: 中位やや上に器最大径を持ち、内・外面撫で、外面下位篦削り。底部: 径14.0㎜の平底、内面撫で、外面篦削り。	
39	H-15-8 床直	甑 須恵器	① — ② (25.2	①粗粒②良好③橙色 ④1/4	轆轤整形。口縁部:欠損。胴部:内・外面撫で。底部:水平方向に大きく開く。底から約8㎝の所に円形状の窪み4つ有。	酸化焰
40	H−17− 1 床直	坏 須恵器] ①粗粒②良好③にぶい 橙色④1/2	轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部やや外反・肥厚、内・外面撫で。 底部:径6.7mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	酸化焰
41	H-17-2 床直	高台椀 灰 釉] ①細粒②良好③オリー ブ灰色④1/2	轆轤整形。口縁・体部:大きく外傾、内・外面撫で。底部:回転糸切り 後付け高台、箆調整。釉薬はつけがけ。	
42	H-17-3 埋土	甕 土師器		①中粒②良好③褐色 ④1/6	口縁部:やや内傾から外傾、内・外面横撫で。胴部上位:内面撫で、外面横箆削り。底部:欠損。	
43	H-18-1 床直	高台椀 須恵器		①中粒②良好③オリー ブ黒色④1/4	轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部やや肥厚、内・外面撫で。底部: 回転糸切り後付け高台。	
44	H—18— 2 床直	高台椀 須恵器		①中粒②良好③灰色 ④3/5	轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部: 回転糸切り後付け高台。	
45	H-18-3 床直	高台椀 須恵器			轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部やや肥厚、内・外面撫で。底部: 回転糸切り後付け高台。	酸化焰
46	H-18-4 床直	羽 釜 須恵器		①中粒②良好③灰色	轆轤整形。口縁部:短く内傾から直立、内・外面撫で。鍔部:三角形、ほぼ水平に付く。胴部上位:内・外面撫で。底部:欠損。	
47	H-19-1 床直	坏 土師器		①細粒②良好③にぶい 赤褐色④1/2	口縁・体部:外傾、口縁端部内・外面横撫で。体部内面暗文有、外面箆削り。底部:径5.9㎜の平底。	
48	H-19-2 埋土	高台椀 須恵器		①中粒②良好③オリー ブ黒色④破片	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で、口縁端部やや肥厚。底部: 回転糸切り後付け高台。	外面いぶし 焼成
49	H-20-1 床直	坏 土師器	① [12.6 ② (3.9] ①中粒②良好③にぶい 橙色④1/4	口縁・体部:外傾、口縁部内・外面横撫で、体部内面撫で、外面箆削り。 底部:平底。	
50	H-20-2 埋土	高台椀 須恵器	① [15.0 ② 5.3	①細粒②良好③灰色 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:回転糸切り後付け 高台。	外面自然釉
51	H-20-3 床直	甕 土師器	① [23.3 ② (6.5] ①中粒②良好③にぶい 橙色④破片	口縁部:直立から外反、内・外面横撫で。胴部上位:内面撫で、外面箆削り。	
52	H-21-1 床直	高台皿灰 釉		①細粒②良好③オリー ブ灰色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部:大きく外傾、口縁端部箆押さえ。底部:高台を 付けた後撫で調整。高台に緩い稜有。釉薬は刷毛塗り。	
53	H-21-2 床直	坏 土師器		①中粒②良好③橙色 ④ほぼ完形	口縁・体部:外傾、口縁端部内・外面横撫で。底部:径8.6mmの平底、箆削り調整。	
54	H-21-3 埋土	坏 須恵器	① 11.9 ② 3.7	①中粒②良好③明赤褐 色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径6.3mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	酸化焰
55	H-21-4 埋土	坏 須恵器	① 12.5 ② 3.3	①細粒②良好③灰色 ④完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径7.0nn の平底、内面撫で、外面回転糸切り。	
56	H-21-5 埋土	高台椀 須恵器	① [15.3 ② (5.0	①中粒②良好③灰色 ④1/4	轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部: 回転糸切り後付け高台だが高台部欠損。内面に線刻有。	底部内面線 刻
57	H-21-6 埋土	高台椀 須恵器		①中粒②良好③暗灰色 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部肥厚、内・外面撫で。底部:回 転糸切り後付け高台。	いぶし焼成
58	H-21-7 埋土	高台椀 須恵器		①中粒②良好③灰色 ④2/3	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:回転糸切り後付け 高台。	
59	H-22-1 埋土	坏 土師器	① [13.0 ② (3.0		口縁部:やや外傾、内・外面横撫で。底部:平底、内面撫で、外面箆削 り。	
60	H-22-2 埋土	坏 須恵器		①中粒②良好③灰色 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径6.9mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	

番号	遺構番号/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調①遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備 考
61	H-22-3 床直	坏 須恵器		①細粒②良好③灰色 ④破片	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。体部内面暗文有。底部: 欠損。	
62		高台椀須恵器	① [16.4]		轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:回転糸切り後付け 高台。	
63	H-23-1 床直	坏 土師器	① [12.0] ② 3.8	①中粒②良好③黒褐色 ④1/2	口縁部:短く直立、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部:浅い丸底、 内面撫で、外面篦削り。	
54	H−23−2 床直	坏 土師器	① [12.2] ② 5.9	①中粒②良好③淡黄色 ④ほぼ完形	口縁部:直立気味、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部:丸底でやや 突出気味、内面撫で、外面箆削り。	
65	H-23-3 床直	鉢 土師器		①中粒②良好③褐灰色 ④4/5	口縁部:やや外傾、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部:丸底、内面 撫で、外面箆削り。	
56	H-23-4 床直	甕 土師器	① 12.6 ② 3.1	①中粒②良好③橙色 ④1/3	口縁部:直立から短く外傾、内・外面横撫で。胴部:内面撫で後磨き、 外面箆削り後磨き。底部:欠損。	
67	H-24-1 埋土	坏 土師器		①中粒②良好③橙色 ④1/3	口縁・体部:外傾、口縁端部内・外面横撫で。底部:径7.5mmの平底、内面撫で、外面箆削り。	
58	H-24-2 埋土	坏 土師器	① 12.6 ② 5.5	①細粒②良好③橙色 ④ほぼ完形	口縁・体部:外傾、口縁端部内・外面横撫で。底部:径6.9mmの平底、内面撫で、外面箆削り。	
59	H-24-3 床直	坏 須恵器	① 12.2 ② 3.6	①中粒②良好 ③にぶい橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾から端部やや外反、内・外面撫で。底部: 径6.4mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	酸化焰
70	H-24-4 床直	高台椀 須恵器		①細粒②良好③にぶい 橙色④3/4	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内面磨き、外面撫で。底部:回転糸切り 後付け高台。	内黒 酸化焰
71	H−24−5 床直	高台椀 須恵器	① [23.1] ② (7.5)	①粗粒②良好③にぶい 橙色④1/3	轆轤整形。口縁・体部:直大きく外傾、内・外面撫で。底部:回転糸切り後付け高台だが高台部欠損。	酸化焰
72	H-24-6 床直	台付甕 土師器		①粗粒②良好③橙色 ④3/4	口縁部:短く直立から外傾、内・外面横撫で。胴部:中位やや上に器最 大径、内面撫で、外面箆削り。台部:大きく外傾、内・外面撫で。	
73	H-24-7 床直	甕 土師器	① [19.5] ② (13.0)	①粗粒②良好③明赤褐 色④破片	口縁部:短く内傾から外傾、内・外面横撫で。胴部:内面撫で、外面箆 削り。底部:欠損。	
74	H-24-8 床直	羽 釜 須恵器			轆轤整形。口縁部:内傾、内・外面撫で。鍔部:三角形、ほぼ水平に付 く。胴部:内・外面撫で。底部:欠損。	酸化焰
75	H-24-9 床直	慌 須恵器			轆轤整形。口縁部:直立、内・外面撫で。鍔部:三角形、ほぼ水平に付く。胴部:内・外面撫で。内面に爪形状の窪み2つ有。底部:欠損。	酸化焰
6	H-25-1 床直	坏 土師器		①中粒②良好③橙色 ④2/3	口縁部:直立、内・外面横撫で。底部:平底気味、内面撫で、外面箆削り。	
77	H-25-2 埋土	坏 須恵器	① 12.5 ② 3.8	①細粒②良好③灰白色 ④ほぽ完形	轆轤整形。口縁・体部:小さく外傾、内・外面撫で。底部:径7.7mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	
78	H-25-3 埋土	高台椀 須恵器	① [11.8] ② (3.7)		轆轤整形。口縁・体部:小さく外傾、内・外面撫で。底部:回転糸切り 後付け高台だが高台部欠損。	
79	II 25-4 埋土	浄 瓶灰 釉		①細粒②良好③4 リー ブ灰色④頸部	轆轤整形。頸部のみ。釉薬は刷毛塗り。	
30	H-25-5 床直	甕 土師器	① [20.9] ② (19.5)	①細粒②良好③にぶい 褐色④破片	口縁部:外傾、内・外面横撫で。頸部にくびれ有。胴部:器最大径、内 面撫で、外面箆削り。底部:欠損。	
31	H-26-1 床直	蓋 須恵器	① [14.3] ② 3.0	①細粒②良好③灰白色 ④ほぼ完形	轆轤整形。天井部:緩やかに外傾、外面回転箆削り、端部内・外面撫で、返り無。摘み:環状摘み。	
32	H−26− 2 床直	坏 土師器	① 12.2 ② 3.0	①細粒②良好③橙色 ④ほぽ完形	口縁部:直立気味、内・外面横撫で。底部:平底、内面撫で、外面箆削 り。	
3	H−26−3 床直	坏 土師器	① 11.9 ② 3.4	①細粒②良好③橙色 ④完形	口縁部:直立気味、内・外面横撫で。底部:平底、内面撫で、外面箆削り。	
34	H−26− 4 床直	坏 土師器	① 12.0 ② 3.5	①細粒②良好③橙色 ④ほぼ完形	口縁部:直立気味、内・外面横撫で。底部:平底、内面撫で、外面箆削り。	
15	H-26-5 床直	坏 須恵器	① 12.7 ② 4.0	①中粒②良好③灰白色 ④完形	轆轤整形。口縁・体部:大きく外傾、口縁端部やや外反、内・外面撫で。 底部:径6.2mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	
6		高台椀 須恵器		①細粒②良好③黄灰色 ④1/2	轆鱸整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:回転糸切り後付け 高台。	
7	H-27-1 床直	坏 土師器		①中粒②良好③橙色 ④1/4	口縁部:直立気味、内・外面横撫で。底部:平底、内面撫で、外面箆削り。	
8	H-27-2 埋土	坏 須恵器	① [13.6] ② 3.8	①中粒②良好③灰黄 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部:大きく外傾、内・外面撫で。底部:径6.4mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	
9	H-27-3 床直	高台椀 須恵器	① [14.3] ② 6.0	①中粒②良好③にぶい 黄橙色④2/3	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:回転糸切り後付け 高台。	酸化焰
0		高台椀 須恵器	① 15.0	①粗粒②良好③橙色 ④完形	轆轤整形。口縁・体部:大きく外傾、内面磨き、外面撫で。底部:回転 糸切り後付け高台。	内黒 酸化焰

番号	遺構番号/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
91	H-27-5 床直	高台椀 須恵器		①細粒②良好③暗灰色 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:回転糸切り後付け 高台。	いぶし焼成か
92		高台椀須恵器	① 15.0		轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:回転糸切り後付け 高台。	
93	H-27-7 床直	甕 土師器	① [20.1] ② (17.2)	①中粒②良好③にぶい 褐色④1/2	口縁部:直立から外傾、端部箆押さえ、内・外面横撫で。胴部:器最大 径、内面撫で、外面斜め箆削り。底部:欠損。	
94	H-28-1 床直	高台椀 須恵器		①粗粒②良好③灰黄褐 色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部: 回転糸切り後付け高台。	酸化焰
95	H-29-1 床直	坏 土師器	① 12.4 ② 3.5	①中粒②良好③橙色 ④完形	口縁部:外傾、内・外面横撫で。底部:径8.8mmの平底、内面撫で、外面 篦削り。	
96	H−29−2 床直	坏 須恵器		①粗粒②良好③オリー ブ黒色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部: 径5.4mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	いぶし焼成
97	H−29−3 床直	坏 須恵器	① 12.3 ② 4.2	①細粒②良好③灰白色 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径6.1mmの平底、内 面撫で、外面回転糸切り。	
98	H-29-4 埋土	坏 須恵器	① — ② (1.3)	①中粒②良好③オリー ブ黒色④底部	轆轤整形。口縁・体部:欠損。底部:径6.4mmの平底、外面回転糸切り。 内面漆付着。	漆付着
99	H-29-5 床直	高台椀 須恵器		①中粒②良好③灰色 ④4/5	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:回転糸切り後付け 高台。	
100	H-29-6 床直	高台椀 須恵器		①細粒②良好③灰色 ④2/3	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:回転糸切り後付け 高台。	
101	H-29-7 竈内	高台椀 須恵器		①中粒②良好 ③灰白色④1/2	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:回転糸切り後付け 高台。	
102	H-29-8 埋土	高台椀 須恵器		①中粒②良好③灰白色 ④底部	轆轤整形。口縁・体部:欠損。底部:回転糸切り後付け高台。両面墨書 有。	底部両面墨書
103	H-29-9 床直	平 瓶灰 釉		①細粒②良好③オリー ブ灰色④1/2	轆轤整形。口縁部:やや外傾、端部水平に開く。体部:把手を有し、体 部上面の盛り上がりは弱く、上位から大きく内傾。底部:付け高台。	
104	H-29-10 床直	甕 土師器		①中粒②良好③にぶい 橙色④1/2	口縁部:直立から外傾、内・外面横撫で。胴部:器最大径、中位から大きく内傾、内面撫で、外面箆削り。底部:径2.8㎜の平底。	
105	H−30−1 床直	鉢 土師器	① [13.4] ② 5.3	①中粒②良好 ③赤褐色④1/2	口縁部:短く外傾、内・外面横撫で。底部:深い丸底、内面磨き、外面 箆削り。	
106	H-31-1 P 5	鉢 土師器	① 10.6 ② 5.2	①細粒②良好③橙色 ④ほぼ完形	口縁部:わずかに外傾、内・外面横撫で。底部:深い丸底、内面放射線 状の磨き、外面磨き。	
107	H-31-1 P 5	坩 土師器		①中粒②良好③にぶい 黄橙色④1/2	口縁部:外傾、内・外面磨き。体部:中位やや上に膨らみを持ち、外面磨き。底部:径2.6mmの平底。	
108	H-32-1 床直	器 台土師器		①細粒②良好③にぶい 橙色④ほぼ完形	器受部:端部外反から大きく屈曲して脚部に至る。底部に穿孔有。台部: 上位細身から八の字状に大きく開き、中位にやや膨らみ有。穿孔3つ有。	
109	H-32-2 床直	坩 土師器		①中粒②良好③にぶい 橙色④ほぼ完形	口縁部:外傾、内・外面篦磨き。体部:中位やや上に膨らみを持ち、外面磨き。底部:径2.6mmの平底。	
110	H-32-3 床直	坩 土師器		①中粒②良好③橙色 ④1/3	口縁部:外傾、内・外面磨き。体部上位:やや膨らむ。底部:欠損。	大型
111	H-32-4 埋土	壺 土師器	① 8.2 ② 8.5	①中粒②良好③にぶい 橙色④ほぼ完形	口縁・体部:上下方向に潰れた球形を呈す。内・外面撫で。底部:径3.6 mmの突出底。	
112	H-32-5 埋土	甑 土師器	① 13.5 ② 7.1	①中粒②良好③橙色 ④完形	口縁・体部:外傾、口縁端部内・外面横撫で、体部内面撫で、外面磨き。 底部:突出気味、中央に穿孔1つ有。	
113	H-32-6 床直		① — ② (6.4)	①中粒②良好③橙色 ④脚部	坏部:欠損。脚部:接合部から八の字状に大きく開く。内面刷毛調整後 撫で、外面磨き。	
114	H─32─ 7 床直	甕 土師器	① 14.4 ② (12.1)	①中粒②良好③にぶい 橙色④1/4	口縁部:小さく外傾、内面横撫で、外面粘土帯 4 段有。体部上位:内・ 外面磨き。底部:欠損。	赤井戸系
115	H-32-8 床直	台付甕 土師器	① 13.8 ② 27.5	①中粒②良好③にぶい 橙色④3/5	口縁部: S字状でやや外傾、内・外面横撫で。体部: 上位に器最大径を持ち、そこから大きく内傾して底部に至る。台部: 端部内側に折り返し有。	
116	H-32-9 埋土	台付甕 土師器		①中粒②良好③にぶい 黄橙色④ほぼ完形	口縁部:S字状でやや外傾、内・外面横撫で。体部:中位やや上に器最大径を持ち、そこから緩やかに内湾しながら底部に至る。台部:端部欠損。	
117	H-33-1 埋土	高台椀 須恵器		①粗粒②良好③灰色 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部:外傾から口縁端部外反、内・外面撫で。底部: 回転糸切り後付け高台。	
118	H−34−1 床直	壶 土師器		①中粒②良好③にぶい 褐色④1/2	口縁部:外傾、内・外面横撫で。胴部:中位に器最大径を持ち、内面撫 で、外面横篦削り。底部:平底。	
119	H-35-1 床直	坏 土師器		①中粒②良好③橙色 ④2/3	口縁部:やや外傾、内・外面横撫で。交換点に弱い稜有り。底部:浅い 丸底、内面撫で、外面篦削り。	
120	H−35−2 床直	坏 土師器	① 11.4 ② 3.9	①細粒②良好③橙色 ④ほぼ完形	口縁部:やや外傾、内・外面横撫で。交換点に弱い稜有り。底部:浅い 丸底、内面撫で、外面篦削り。	

番号	遺構番号/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調①遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
121	H-35-3 埋土	坏 土師器	① 11.6 ② 3.6	①中粒②良好③橙色 ④ほぼ完形	口縁部:外傾、内・外面横撫で。交換点に弱い稜有り。底部:浅い丸底、 内面撫で、外面篦削り。	
122	H-35-4 床直	丸底甕 土師器		 ①中粒②良好③暗赤褐 色④1/4	口縁部:直立、端部短く外反、内・外面横撫で。胴部:中位やや上に器 最大径を持ち、内面撫で、外面斜め篦削り。底部:丸底。	
123	H−36−1 床直	坏 土師器	① [11.2] ② (3.7)	①細粒②良好③にぶい 赤褐色④3/4	口縁・体部:外傾、口縁端部内・外面横撫で。底部:径5.6mmの平底。内 面撫で、外面篦削り。	
124	H-36-2 埋土	坏 須恵器		①粗粒②良好③灰白色 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部:外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部:径5.6mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	
125	H-36-3 埋土	高台椀 須恵器		①粗粒②良好③褐灰色 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部:外傾から口縁端部やや肥厚、内・外面撫で。底部:回転糸切り後付け高台。	
126	H−37−1 床直	坏 土師器			口縁・体部:外傾、内・外面横撫で。底部:平底、内面撫で、外面篦削 り。	
127	H-37-2 埋土	高台椀 灰 釉			轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部やや肥厚、内・外面撫で。底部: 付け高台。釉薬はつけがけ。	
128	H-37-3 床直	甕 土師器	① [19.6] ② (5.8)	①中粒②良好③名赤褐色④破片	口縁部:直立から外反、内・外面撫で。体部上位:内面撫で、外面篦削 り。底部:欠損。	
129	H-38-1 埋土	坏白 磁	① — ② —	①細粒②良好③灰白色 ④破片	轆轤整形。	
130	H−38− 2 床直	高台椀 緑 釉		①細粒②良好③オリー ブ灰色④破片	轆轤整形。口縁・体部:欠損。底部:内面中央部が円形に窪み、周囲に 花文有。高台部:U字形で内面に弱い稜有。	
131	H-38-3 床直	高台椀 緑 釉		①細粒②良好③オリー ブ灰色④破片	轆轤整形。口縁・体部:欠損。底部:内面中央部に円形の沈線有。高台部:U字形。	
132	H−38− 4 床直	高台椀 灰 釉			轆轤整形。口縁・体部:大きく外傾、口縁端部外反、内・外面撫で。底部:U字形の付け高台。	
133	H-38-2 竈内	高台椀 須恵器		①中粒②良好③オリー ブ黒色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部: 回転糸切り後付け高台。	いぶし焼成
134	H-38-3 床直	羽 釜 須恵器	① [16.9] ② (10.1)	①中粒②良好③灰色 ④破片	轆轤整形。口縁部:内傾、内・外面撫で。鍔部:三角形、やや上向きに 付く。胴部:内・外面撫で。底部:欠損。	
135	H−39−1 床直	蓋 須恵器		①粗粒②良好③灰色 ④1/2	轆轤整形。天井部:短く水平から外傾、外面回転箆削り、端部内・外面 撫で、返り無。摘み:環状摘み。	
136	H-39-2 床直	坏 須恵器		①中粒②良好③黄灰色 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径7.6mmの平底、内 面撫で、外面回転糸切り後撫で。	
137	H-40-1 埋土	坏 須恵器	① 12.6 ② 3.5	①中粒②良好③青灰色 ④完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部: 径7.3mmの平底、内面撫で、外面手持ち篦削り調整。	
138	H-40-2 埋土	坏 須恵器	① 13.1 ② 3.7	①中粒②良好③灰色 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径8.1mmの平底、内 面撫で、外面回転篦削り調整。	
139	H-40-3 埋土	CT PP	① [16.0] ② (5.9)		轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:回転糸切り後付け 高台。	
140	H−41−1 床直	坏 須恵器		①粗粒②良好③にぶい 橙色④3/4	轆轤整形。口縁・体部:大きく外傾、口縁端部やや肥厚、内・外面撫で。 底部:径5.8mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	
141	H−41− 2 床直	高台椀 須恵器		①粗粒②良好③にぶい 橙色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部:やや内彎しながら外傾、口縁端部やや肥厚、内・ 外面撫で。底部:回転糸切り後付け高台。	
142	H−41−3 床直	羽 釜 須恵器		①中粒②良好③にぶい 橙色④破片	轆轤整形。口縁部:内傾、口縁端部箆押さえ、内・外面撫で。鍔部:三 角形、水平に付く。胴部上位:内・外面撫で。底部:欠損。	酸化焰
143	H-42-1 埋土	蓋須恵器	① [15.7] ② 2.6	①中粒②良好③灰白色 ④1/2	轆轤整形。天井部:水平から外傾、端部外反、外面回転篦削り、端部内・ 外面撫で、返り無。摘み:環状摘み。	
144		高台皿 須恵器		①中粒②良好③灰色 ④完形	轆轤整形。口縁・体部:大きく外傾、内・外面撫で。底部:回転糸切り 後付け高台。	
145	H-42-3 埋土	高台椀 須恵器			轆轤整形。口縁部:欠損。体部:外傾、内・外面撫で。底部:回転糸切り後付け高台。	
146	H-42-4 埋土	甕 土師器		①中粒②良好③にぶい 橙色①破片	口縁部:直立から大きく外傾、内・外面横撫で。体部上位:内面撫で、 外面篦削り。底部:欠損。	
147	H-43-1 床直	坏 土師器		①中粒②良好③にぶい 橙色④1/2	口縁・体部:外傾、内・外面横撫で。底部:平底、内面撫で、外面篦削 り。	
148	H-43-2 埋土	坏 須恵器	① [12.6] ② (3.3)		轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径6.4mmの平底、内 面撫で、外面回転糸切り。	
149	H-43-3	高台皿 須恵器	① [13.4]	①中粒②良好③灰色	轆轤整形。口縁・体部:大きく外傾、内・外面撫で。底部:回転糸切り 後付け高台。	
150	H-43-5		① [21.0]	①粗粒②良好③にぶい 褐色④1/2	口縁部:直立から大きく外傾、内・外面横撫で。胴部:上位に器最大径 を持ち、、内面撫で、外面篦削り。底部:欠損。	
	e is its		· (21.0)		-14 - 22 Abrillion - 2 Market 123 \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	

番号	遺構番号/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備	考
151	H-44-1 埋土	坏 須恵器		①中粒②良好③灰白色 ④2/3	轆轤整形。口縁・体部:大きく外傾、口縁端部箆押さえ、内・外面撫で。 底部:径5.6mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。		
152	H-44-2 埋土	高台椀 須恵器		①中粒②良好③浅黄色 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部やや肥厚、内・外面撫で。内外 面媒付着。底部:回転糸切り後付け高台。		
153	H-44-4 埋土	甕 土師器	① [20.0] ② (8.0)	①中粒②良好③にぶい 橙色④破片	口縁部:直立から大きく外傾、内・外面横撫で。胴部上位:内面撫で、 外面篦削り。底部:欠損。		
154	H-45-1 床直	坏 須恵器			轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径6,5mmの平底、内 面撫で、外面回転糸切り。	いぶし か	焼成
155	H-46-1 埋土	坏 須恵器	① [15.5] ② 3.9	①粗粒②良好③灰白色 ④2/3	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径6.1mmの平底、内 面撫で、外面回転糸切り。		
156	H−46−2 床直	坏 須恵器	① [13.4] ② 5.2	①中粒②良好③灰黄色 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径7.6mmの平底、内 面撫で、外面回転糸切り。		
157	H-46-3 埋土	甕 土師器		①中粒②良好③にぶい 褐色④破片	口縁部:直立から外傾、内・外面横撫で。胴部上位:内面撫で、外面箆 削り。底部:欠損。		
158	H-47-1 埋土	蓋 須恵器	① 11.9 ② (2.2)	①粗粒②良好③灰色 ④ほぼ完形	轆轤整形。天井部:水平から外傾、外面回転篦削り、端部内·外面撫で、 返り無。摘み:宝珠摘みか。		
159	H-47-2 埋土	坏 土師器	① 13.0 ② 3.7	①中粒②良好③橙色 ④完形	口縁部:短く直立、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面箆削 り。		
160	H-47-3 埋土	坏 土師器		①中粒②良好③橙色 ④1/4	口縁部:短く直立、端部箆押さえ、内・外面横撫で。底部:丸底、内面 撫で、外面箆削り。		
161	H−47−4 床直	坏 土師器		①中粒②良好③橙色 ④1/2	口縁・体部:外傾、口縁端部内・外面横撫で。体部内面放射線状の磨き。 底部:平底、内面撫で、外面箆削り。		
162	H-47-5 埋土	坏 須恵器		①中粒②良好③褐灰色 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径7.6mmの平底、内・ 外面撫で。		
163	H-47-6 床直	坏 須恵器		①中粒②良好③灰色 ④2/3	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径7.1mmの平底、内 面撫で、回転箆切り後撫で。		
164	H-47-7 埋土	坏 須恵器	① 13.3 ② 4.0	①細粒②良好③灰色 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径7.8mmの平底、内 面撫で、外面回転箆切り後撫で。		
165	H—47— 8 床直	坏 須恵器		①中粒②良好③灰色 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径6.9mmの平底、内 面撫で、外面箆撫で。		
166	H-47-9 埋土	坏 須恵器		①中粒②良好③灰色 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径7,8mmの平底、内面撫で、外面回転箆切り後撫で。		
167	H-47-10 床直	高台椀 須恵器		①中粒②良好③灰色 ④2/3	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。口縁端部から 1 cmの所に 工具痕の沈線が巡る。底部:高台付け後回転箆調整。		
168	H-47-11 埋土	高台盤 須恵器		①中粒②良好③灰色 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部:大きく外傾、内・外面撫で後外面のみ工具による撫で。底部:高台付け後回転箆調整。		
169	H-47-12 P 5	大 甕 須恵器			轆轤整形。口縁部:欠損:胴部:上位に器最大径を持ち、そこから大き く内傾して底部に至る。内面小型の工具による叩き目痕、外面叩き後撫 で調整。底部:小さい丸底。		
170	H-48-1 埋土	坏 土師器		①中粒②良好③にぶい 褐色④1/4	口縁部:短く外傾、内・外面撫で。底部:丸底、内面撫で、外面箆削り。		
171	H−48−2 床直	坏 土師器	① 12.3 ② 3.9	①細粒②良好③にぶい 橙色④ほぼ完形	口縁部:やや外傾、内・外面撫で。底部:平底気味、内面撫で、外面箆 削り。		
172	H−48−3 床直	坏 須恵器	① [11.2] ② 4.0	①細粒②良好③灰色 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で、口縁端部剣先形。底部: 径7.0mmの平底、内面撫で、外面回転箆調整。		
173	H-48-4 床直	坏 須恵器	① 12.5 ② 4.1	①中粒②良好 ③灰色④ほぱ完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部: 径6.6mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	外面自	自然釉
174	H−48−5 床直	高台椀 須恵器			轆轤整形。やや外傾、内・外面撫で。底部:回転糸切り後付け高台。		
175	H-48-6 床直	甕 土師器	① [18.2] ② (7.4)	①中粒②良好③にぶい 赤褐色④破片	口縁部:外傾、内・外面横撫で。胴部上位:内面撫で、外面箆削り。底 部:欠損。		
176	H-48-7 床直	大 甕 須恵器		①中粒②良好③灰色 ④口縁	轆轤整形。口縁部:外傾、端部やや外反、内•外面撫で。端部箆押さえ。 胴部上位:内面叩き目痕、外面叩き後撫で調整。		
177	H-49-1 埋土	坏 須恵器		①中粒②良好③褐灰色 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径8.2mmの平底、内 面撫で、外面回転箆切り。		
178	H-49-2 埋土	高台椀 須恵器		①粗粒②良好③灰白色 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:回転箆切り後付け 高台。		
179	H—49— 3 床直	短頸壺 須恵器		①中粒②良好③灰色 ④完形	轆轤整形。口縁部:短く直立、内・外面撫で。体部:中位に器最大径を持ち、上位内・外面撫で、下位外面箆削り。底部:平底気味、内面撫で、 外面箆削り。	小型	
180	H-49-4 P 5	甕 土師器	① [19.6] ② 29.1	①中粒②良好③にぶい 橙色④ほぼ完形	口縁部:外傾、内・外面横撫で。胴部:中位やや上に器最大径を持ち、 内面撫で、外面斜め箆削り。底部:小さい平底。		

亚口	遺構番号/層位	器種	①口径②	7.98年	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備	- -
-	現件曾与/ 眉世 H ─ 50 ─ 1				①粗粒②良好③橙色	品種の付旗・電ル・調整技術 口縁部:外傾、内・外面横撫で。端部内・外面に煤付着。底部:平底、	VHI	75
	床直	本 土師器	2	100	④完形	内面撫で、外面箆削り。		_
182	H-50-2 床直	高台椀 須恵器	① [1 ②		①粗粒②良好③灰色 ④2/3	轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部やや肥厚、内・外面撫で。底部: 回転糸切り後付け高台。		
183	H−50− 3 床直	高台椀灰 釉		1.8)	①中粒②良好③灰白色 ④一	高台部径9.2mm。体部内面より高台部に沿って細かく割る。使用部は非常に滑らか。調整痕中にわずかに墨が認められる。	転用硯	(
L84	H-50-4 床直	甕 土師器	① [1 ② (①粗粒②良好③灰黄褐 色④破片	口縁部:直立からやや外傾、内・外面横撫で。胴部上位:内面撫で、外 面箆削り。底部:欠損。		
185	H-51-1 床直	坏 土師器		3.6 4.7	①中粒②良好③にぶい 褐色④ほぼ完形	口縁部:外傾、内・外面横無で。体部:大きく外傾、内面撫で、外面箆削り。底部:径3.4mmの平底。高台を有し、取れた可能性あり。		
186	H-51-2 埋土	坏 須恵器			①粗粒②良好③灰白色 ④2/3	轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部肥厚して外反、内・外面撫で。 底部:径6.0mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。		
87	H-51-3 床直	坏 須恵器		3.8 3.9	①粗粒②良好③黄灰色 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部:大きく外傾、内・外面撫で。底部:径6.3mmの平 底、内面撫で、外面回転糸切り。		
88	H−51−4 床直	高台椀 須恵器		4.6 6.2	①中粒②良好③灰色 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:回転糸切り後付け 高台。		
189	H−51−5 床直	高台椀 須恵器		4.6)	①粗粒②良好③灰白色 ④底部	轆轤整形。口縁部:欠損。体部:外傾、内・外面撫で。内面漆付着。底部:回転糸切り後付け高台。	漆付着	
190	H─51─6 床直	甕 土師器		9.7 4.6)	①中粒②良好③にぶい 赤褐色④1/3	口縁部:直立気味から外傾、内・外面横撫で、外面直立部の上下に工具 痕有。胴部上位:内面撫で、外面箆削り。底部:欠損。		
.91	H-52-1 竈内	高台椀 須恵器			①粗粒②良好③灰色 ④完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部やや肥厚、内・外面撫で。底部: 回転糸切り後付け高台。		
192	H-52-2 竈内	高台椀 須恵器		4.5 5.8	①粗粒②良好③にぶい 橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:回転糸切り後付け 高台。	酸化焰	1
93	H-53-1 床直	高台椀 須恵器	① [1 ②		①中粒②良好 ③にぶい橙色④2/3	轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部やや肥厚、内・外面撫で。底部: 回転糸切り後付け高台。	酸化焰	i
.94		羽 釜須恵器		9.1 4.4)	①粗粒②良好③にぶい 橙色④3/4	轆轤整形。口縁部:内傾、端部箆押さえ、内・外面撫で。鍔部:三角形、 やや上向きに付く。胴部:内・外面撫で。底部:欠損。	酸化煌	1
.95	H-54-1 床直	坏 土師器			①中粒②良好③橙色 ④2/3	口縁部:短く直立、内・外面横撫で。底部:浅い丸底、内面撫で、外面 篦削り。		
.96	H−54− 2 床直	坏 土師器			①中粒②良好③橙色 ④ほぽ完形	口縁部:短く直立気味、内・外面横撫で。底部:浅い丸底、内面撫で、 外面箆削り。		
197	H-54-3 床直	坏 須恵器			①中粒②良好③灰色 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部:やや外傾、内・外面撫で。底部:径8.2mmの平底、 内面撫で、外面箆調整。		
.98	H-54-4 竈内	甕 土師器			①中粒②良好③橙色 ④ほぽ完形	口縁部:器最大径、大きく外反、内・外面横撫で、頸部にくびれ有。胴部:内面撫で、外面縦箆削り。底部:径4.2mmの平底。		
.99	H-54-5 竈内	甕 土師器	① 2 ② (3		①中粒②良好③にぶい 橙色④底部欠損	口縁部:大きく外傾、内・外面横撫で、頸部にくびれ無。胴部:内面撫 で、外面縦箆削り。底部:欠損。		
00	H-56-1 床直	かわらけ			①中粒②良好③にぶい 橙色④完形	轆轤整形。口縁部:大きく外傾、内・外面撫で。底部:径4.4mmの平底、 内面撫で、外面回転糸切り。		
01	H-56-2 床直	かわらけ		1.2 3.4	①粗粒②良好 ③浅黄橙色④3/4	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径5.5mmの平底、内 面撫で、外面回転糸切り。		
02	H-56-3 埋土	かわらけ			①粗粒②良好③浅黄橙 色④3/4	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径5.2mmの平底、内 面撫で、外面回転糸切り。		
03	H−56−4 床直	かわらけ			①中粒②良好③浅黄橙 色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径5.1mmの平底、内 面撫で、外面回転糸切り。		
04	H-56-5 床直	かわらけ			①中粒②良好③浅黄橙 色④完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径5.4mmの平底、内 面撫で、外面回転糸切り。		
05	H-59-1 床直	鉢 土師器			①中粒②良好③橙色 ④3/4	口縁・体部:短く直立から緩やかに底部に至る。口縁端部内・外面横撫 で、体部内面放射線状の磨き、体部外面横方向磨き。底部:小さい平底、 突出気味。		
06	H-59-2 床直	甕 土師器	① 10 ② 12		①粗粒②良好③橙色 ④ほぼ完形	口縁部:器最大径、外傾、内・外面撫で。胴部:中位にやや膨らみを持 ち、内・外面撫で。底部:平底、突出気味。	小型	
07	H-59-3 床直	壺 土師器			①中粒②良好③橙色 ④ほぽ完形	口縁部:しまった頸部から大きく外反、端部外面に折り返し、内・外面 撫で。胴部:中位に器最大径を持つ球形、内・外面磨き。底部:小さい 平底、突出気味。	小型	
808		高台皿 須恵器			①中粒②良好③灰色 ④完形	轆轤整形。口縁・体部:大きく外傾、内・外面撫で。口縁部付近に 3 mm の孔有。内面煤付着。底部:回転糸切り後付け高台。		
09		高台皿 須恵器				轆轤整形。口縁・体部:大きく外傾、口縁端部やや肥厚、内・外面撫で。 底部:回転糸切り後付け高台。		
	H-60-3	坏	(I)	_	①中粒②良好③橙色	底部外面墨書有。	底部外	面

番写	遺構番号/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
211	H-60-4 埋土	坏 土師器	① — ② —	①中粒②良好③橙色 ④破片	底部内面墨書有。	底部内面墨
212	H-60-5 埋土	坏 須恵器	① 12.6 ② 3.8	①中粒②良好③灰白色 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部箆押さえ、内・外面撫で。底部: 径6.2mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	
213	H-60-6 埋土	高台椀 須恵器		①粗粒②良好③灰白色 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:回転糸切り後付け 高台。	
214	H-61-1 埋土	羽 釜 須恵器		①中粒②良好③にぶい 黄橙色④1/3	轆轤整形。口縁部:大きく内傾、端部箆押さえ、内・外面撫で。鍔部: 三角形、やや上向きに付く。胴部:内・外面撫で。底部:欠損	酸化焰
215	H−62−1 床直	坏 須恵器	① [11.4] ② 4.3	①中粒②良好③喑灰色 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径5.6mmの平底、内 面撫で、外面回転糸切り。	
216	H-62-2 床直	高台椀 須恵器		①粗粒②良好③灰色 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部肥厚、内・外面撫で。体部側面 に墨書有。底部:回転糸切り後付け高台。	体部側面墨書
217	H-64-1 埋土	坏 須恵器	① 11.8 ② 3.9	①中粒②良好③灰白色 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径7.1㎜の平底、内 面撫で、外面回転箆切り後箆調整。	
218	H-64-2 床直	坏 須恵器	① 13.1 ② 3.8	①粗粒②良好③灰白色 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径8.0mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り後箆調整。	
219	H-64-3 床直	鉢 土師器		①中粒②良好③橙色 ④1/2	口縁部:大きく外反、内・外面横撫で。体部:頸部から緩やかに底部に 至る、内・外面撫で。底部:平底気味、外面箆削り。	
220	H−66−1 床直	坩 土師器		①中粒②良好③にぶい 黄橙色④1/3	口縁部:外傾、内・外面篦磨き。体部:頸部から緩やかに底部に至る、内・外面磨き。底部:径3.5mmの平底。	
221	H-66-2 床直	甕 土師器	① — ② (21.9)	①中粒②良好③にぶい 橙色④1/4	口縁部:欠損。胴部:頸部から緩やかに膨らむ、内・外面磨き。底部: 欠損。	
222	H−67−1 床直		① [12.0] ② (6.4)		轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:回転糸切り後付け 高台。	
223	H-68-1 床直	鉢 土師器		①細粒②良好③オリー ブ黒色④1/3	口縁・体部:口縁端部やや外反して緩やかに底部に至る、口縁端部内・ 外面横撫で、体部内・外面磨き。底部:小さい平底、突出気味。	
224	H-68-2 床直	甕 土師器	① 10.5 ② (9.4)	①中粒②良好③明赤褐 色④1/3	口縁部:器最大径、外傾、内・外面撫で。胴部:緩やかに膨らみ、内・ 外面撫で。底部:欠損。	小型
225	H-68-3 埋土	台付甕 土師器		①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/2	口縁部:外傾、内・外面横撫で。体部:中位に器最大径を持つ球形、内面撫で、外面刷毛目調整。台部:内・外面刷毛目調整。	
226	H-69-1 埋土	坏 土師器	① 11.7 ② 4.5	①中粒②良好③橙色 ④完形	口縁部:わずかに外傾、端部箆押さえ、内・外面横撫で。交換点に稜有。 底部:深い丸底、内面撫で、外面箆削り。	
227	H-69-2 床直	坏 土師器	① 13.4 ② 4.8	①中粒②良好③にぶい 橙色④完形	口縁部:わずかに外傾、内・外面横撫で、外面中央に段有。交換点に稜 有。底部:浅い丸底、内面撫で、外面箆削り。	
228	H-72-1 床直			①粗粒②良好③橙色 ④完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:径5.8mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	
229	H-72-2 床直	羽 釜 須恵器		①粗粒②良好③橙色 ④破片	轆轤整形。口縁部:内傾、端部箆押さえ、内・外面撫で。鍔部:三角形、 やや上向きに付く。胴部:内・外面撫で。底部:欠損	酸化焰
230	H-73-1 床直	高台皿 灰 釉		①中粒②良好③オリー ブ灰色④2/3	轆轤整形。口縁・体部:大きく外傾、口縁端部箆押さえ、内・外面撫で。 底部:付け高台。釉薬はつけがけ。	
231	H-73-2 埋土	高台皿 須恵器			轆轤整形。口縁・体部:大きく外傾、口縁端部やや肥厚、内・外面撫で。 底部:回転糸切り後付け高台。	
232	H-73-3 埋土	甕 須恵器	① [29.0] ② (15.7)		轆轤整形。口縁部:短く水平方法に開き、端部箆押さえ、内・外面撫で。 胴部上位:内・外面撫で。底部:欠損。	
233	H-74-1 床直	高台皿 須恵器		①粗粒②良好③喑灰色 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部:大きく外傾、内・外面撫で。底部:付け高台。	
234	H-75-1 床直	高台皿 灰 釉		①細粒②良好③灰白色 ④1/4	轆轤整形。口縁・体部:大きく外傾、内・外面撫で。底部:付け高台。	
235	H-76-1 床直	坩 土師器		①中粒②良好③にぶい 褐色④1/3	口縁部:短く外傾、内・外面撫で。体部:頸部から緩やかに底部に至る、 外面暦き。底部:径3.0mmの平底。	
236	H-76-2 床直	高 坏土師器		①細粒②良好③にぶい 黄橙色④坏部	坏部:脚部より大きく外に開く。口縁部内・外面横撫で、体部内面磨き、 外面刷毛目調整。脚部:欠損。	
237	H-76-3 床直	器 台 土師器		①中粒②良好③明赤褐 色④台部	器受部:ほぼ欠損。底部に穿孔有。台部:接合部から八の字状に大きく 開く。上下2つの穿孔3ヶ所有。	
238	H−77−1 床直	かわらけ	① 10.2 ② 3.1	①粗粒②良好③暗灰色 ④完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部肥厚、内・外面撫で。底部:径 6.0mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	いぶし焼成
239	───── H−78−1 床直	坏 須恵器	① [10.7] ② (4.7)	①粗粒②良好③にぶい 橙色④1/3	轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部外反、、内・外面撫で。底部:径 6.0mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	酸化焰

番号	遺構番号/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
240	H-78-2 床直	坏 須恵器			轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部: 径6.3mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	
241	H−78−3 床直	甕 土師器		①粗粒②良好③橙色 ④1/2	口縁部:短く直立から外傾、内・外面横撫で。胴部上位:内面撫で、外 面斜め箆削り。底部:欠損。	
242	H-79-1 竈内		① [18.0] ② (8.0)	①中粒②良好③にぶい 橙色④1/2	口縁部:直立、端部やや外傾、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部: 深い丸底、内面撫で、外面箆削り。	
243	H-80-1 埋土			①中粒②良好③橙色 ④2/3	口縁・体部:口縁端部直立から緩やかに底部に至る、体部内・外面磨き。 底部:小さい平底。	
244	H−82−1 床直	蓋 須恵器		①中粒②良好③灰白色 ④1/3	轆轤整形。天井部:緩やかに外傾、外面回転篦削り、端部内・外面撫で、返り無。摘み:環状摘み。	
245	H—82— 2 床直	坏 土師器		①中粒②良好③橙色 ④1/5	口縁・体部:外傾、口縁端部内・外面横撫で、体部内面撫で、体部外面 箆削り。底部:径8.8mmの平底、内面撫で、外面箆削り。	
246	H−83−1 床直			①中粒②良好③橙色 ④3/4	口縁・体部:口縁部短く外傾、内・外面横撫で。体部緩やかに底部に至る、内・外面磨き。底部:平底気味。	
247	H-84-1 埋土	鉢 土師器		①中粒②良好③にぶい 黄褐色④1/3	口縁部:外傾、内・外面横磨き。体部:緩やかに底部に至る、内・外面 磨き。底部:欠損。	
248	H-84-2 埋土	鉢 土師器		①中粒②良好③にぶい 赤褐色④1/2	口縁部:外傾、内・外面横撫で。体部:緩やかに底部に至る、内・外面 磨き。底部:丸底気味。	
249	H-84-3 埋土	甕 土師器		①中粒②良好③浅黄橙色④口縁	口縁部:外反気味、端部箆押さえ、内・外面横撫で。胴部上位:内面撫 で、外面箆削り。底部:欠損。	
250	H-84-4 埋土	甕 土師器		①中粒②良好③橙色 ④口縁	口縁部:外傾、端部折り返し、内面横撫で、外面刷毛目調整。胴部・底部:欠損。	
251		高台椀 須恵器		①粗粒②良好③にぶい 黄色④完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部肥厚、内・外面撫で。底部:回 転糸切り後付け高台、径1㎝の穿孔有。	
252		高台椀 須恵器		①粗粒②良好③にぶい 黄橙橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、口縁端部肥厚、内・外面撫で。体部側面 墨書か。底部:回転糸切り後付け高台。	体部側面 書か

注)①層位は、「床直」:床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」:床面より11cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。竈内の検出については「竈内」と記載した。

②口径、器高の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を()、復元値を[]で示した。

③胎土は、細粒 (0.9 mm以下)、中粒 $(1.0 \sim 1.9 \text{mm以下})$ 、粗粒 (2.0 mm以上) とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。

④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。

⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳(小山・竹原1976)によった。

Tab.7 石器観察表

番号	遺構・層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	重き	石材	依存度	備考
1	J-1•埋土	打製石斧	13.5	5.4	1.4	105.0	黒色頁岩	ほぼ完形	短冊形
2	J − 1 • 埋土	打製石斧	8.1	5.8	2.0	103.0	黑色頁岩	不 明	短冊形
3	J-1・床直	多孔石	0.0	0.0	0.0	21000.0	安山岩	完 形	床面に設置されている。

注)①層位は、「床直」:床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」:床面より11cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。 ②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を()で示した。

Tab. 8 石製品·土製品観察表

番号	遺構・層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	依存度	備考		
1	H-13·埋土	砥 石	4.7	3.5	2.7	31.6	凝灰岩	完 形	上部中央に径0.4㎝の穿孔有。 5 面使用。		
2	H-27 ⋅ 床直	丸 鞆	2.7	3.3	0.8	12.2	瑪瑙か	完 形	0.2cmの孔2つ1組で、裏面3ヶ所に有。		
3	H-28·埋土	砥 石	4.0	3.8	2.3	46.2	瓦	不 明	砥石に転用か。6面使用。		
4	H−35・床直	白玉	2.3	2.2	1.0	7.3	滑石	不 明	中央部に径0.3cmの穿孔有。		
5	H-50·床直	砥 石	15.9	9.1	8.6	1140.0	凝灰岩	不 明	3 面使用。		
6	H-51·埋土	砥 石	3.9	3.7	2.7	61.0	凝灰岩	不 明	上部中央に径0.7の穿孔有。上部にU字形の 窪み有。 4 面使用。		
7	H−51・床直	砥 石	5.8	3.8	1.5	50.0	凝灰岩	不 明	4 面使用。		
8	H-54・床直	凹石	15.4	11.0	7.3	1190.0	安山岩	完 形	径7.3cm、深さ4.5cmの窪み有。		
9	D-2 · 床直	石	10.2	6.4	6.3	620.0	安山岩	完 形	下部に墨書有。		

注) ①層位は、「床直」: 床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」: 床面より11cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。 ②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を() で示した。

Tab. 9 鉄器·鉄製品観察表

番号	遺構・層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	重 さ	依存度	備考
1	H−4・床直	刀 子	(8.5)	(1.4)	(0.3)	8.6	破片	柄部に木質付着
2	H-11・埋土	釖	7.8	0.6	0.5	11.9	完 形	頭部平らに折れる
3	H−21・床直	鉄 鏃	(8,0)	(3.2)	(0.4)	18.1	破片	
4	H-22 ⋅ 埋土	斧	8.2	4.1	1.8	148.0	完 形	先端部厚0.1cmでV字状、接合部を袋状に折り曲げる
5	H-26 · 埋土	飾り金具	10.8	2.5	0.2	25.4	ほぼ完形	両端部に径0.5cmの穿孔有。
6	H-27・埋土	刀子	(15.4)	(1.5)	(0.4)	22.9	破片	刃部先端はよく研磨されているが、幅が狭い。
7	H-40 · 床直	刀装具	5.2	1.9	0.2	10.4	ほぼ完形	上部に径0.6cmの孔有
8	H−42・床直	紡錘車	(29.0)	(5.3)	(0.2)	71.5	破片	
9	H-48 ⋅ 埋土	鉄 鏃	7.8	2.9	0.3	13.6	完 形	
10	H-50 · 床直	鉄 鏃	(15.1)	(1.0)	(0.4)	18.0	破片	
11	H-52 ⋅ 床直	鉄 鏃	(10.8)	(1.8)	(0.4)	19.0	破片	
12	H-85 · 埋土	鋷	(11.0)	(3.2)	(1.2)	93.7	破片	
13	D-8 ⋅ 床直	鎌	23.0	3.5	1.1	91.5	ほぼ完形	刃部に繊維付着。接合部を三角形に0.8cm折り曲げる。
14	D-8・床直	鎌	20.9	3.4	1.3	75.0	ほぼ完形	接合部を1.0㎝折り曲げる。

注)①層位は、「床直」:床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」:床面より11cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。 ②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を()で示した。

Tab.10 瓦観察表

ı aı	0.10 上山町	1/1/2						
番号	遺構番号/層位	器	種	①長	き20厚さ	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
1	H−3−1 床直	平	瓦	1 2			一枚作り。凹面:布目有。にぶい橙色粘土付着。凸面:撫で、箆書き文字有。側面:面取り1回。	箆書き文字
2	H—11—1 床直	平	瓦	① ②		①粗粒②良好③にぶい 橙色④破片	一枚作りか。凹面:布目有。凸面:撫で、箆書き文字有。	箆書き文字 酸化焰
3	H-11-2 埋土	平	瓦	1 2		①粗粒②良好③灰色 ④破片	一枚作りか。凹面:布目有。凸面:撫で、箆書き文字有。	箆書き文字
4	H-15-1 竈内	平	瓦	① ②		①粗粒②良好③灰色 ④破片	一枚作りか。凹面:布目有。にぶい橙色粘土付着。凸面:平行叩き目痕 有。押印文字有。側面:面取り3回。	押印文字
5	H-18-1 竈内	軒才	瓦瓦	1 2	(2.8)	①粗粒②良好③灰色 ④瓦当破片	単弁 8 葉文。弁区径 10.0 cm、中房は細い圏線であらわされ径 3.8 cm、周縁は幅 1.4 ~ 1.7 cmで削り無文。瓦当裏面は撫で。	上野国分寺 E109か
6	H-21-1 竈内	丸	瓦	① ②	39.3 3.0	①中粒②良好③灰色 ④ほぼ完形	玉縁式。桶巻き作り。下弦幅20.7cm。凹面:布目有、撫で。凸面:縄叩き後撫で。側面:面取り2回。	竈右壁に使 用
7	H-21-2 竈内	平	瓦	① ②		①粗粒②良好③灰色 ④破片	桶巻き作りか。凹面:布目有。にぶい橙色粘土付着。凸面:撫で、箆書 き文字有。側面:面取り1回。	箆書き文字
8	H-24-1 埋土	平	瓦	1 2	41.6 (3.2)	①粗粒②良好③灰色 ④破片	一枚作り。凹面:布目有、箆状工具による横方向の沈線上下に 2 ヶ所有。 箆書き文字・押印文字有。凸面:撫で。側面:面取り 3 回。	箆書き文字 押印文字
9	H-26-1 埋土	軒对	瓦瓦	1 2	(3.1)	①中粒②良好③灰褐色 ④瓦当破片	単弁4葉文。子葉の無い2重連弁、太くはっきりした隆線で文様をあらわす。周縁は幅1.2~1.4cmで撫で無文。瓦当裏面は有絞りの布目か。	上野国分寺 A106か
10	H-27-1 埋土	平	瓦	① ②		①中粒②良好③橙色 ④破片	一枚作り。凹面:布目有。にぶい橙色粘土付着。凸面:撫で、箆書き文 字有。側面:面取り2回。	箆書き文字 酸化焰
11	H-29-1 竈内	軒丸	瓦瓦	① ②	35.8 2.1	①粗粒②良好 ③灰色④瓦当部欠損	桶巻き作り。下弦幅14.5cm。凹面:布目有、にぶい橙色粘土付着。凸面: 撫で、にぶい橙色粘土付着。側面:面取り3回。	竈右袖に使 用
12	H-29-2 電内	軒马	冱	① ②		①粗粒②良好③灰色 ④瓦当破片	桶巻き作り。三重廓文。曲線顎。下弦幅27.4cm。凹面:布目有、模骨痕有。凸面:縄叩き後撫で。側面:面取り2回。	竈煙道に使 用
13	H-29-3 竈内	軒引	冱瓦	① ②		①細粒②良好③にぶい 黄色④瓦当破片	一枚作りか。瓦当部無文。曲線顎、顎部下に3条のU字形の沈線有。凹面:布目有、撫で。凸面:縄を巻き付けた縦3.5cm・横5.2cmの工具の叩き目文、撫で。	
14	H-29-4 埋土	平	瓦	① ②		①中粒②良好③にぶい 黄橙色④破片	凹面:布目有。凸面:撫で。箆書き文字有。	箆書き文字 酸化焰
15	H-40-1 床直	軒平	巫瓦	① ②	(18.4) (2.2)	①粗粒②良好③灰色 ④瓦当破片	一枚作り。偏向唐草文。2本の界線で囲まれ、無文の周縁は箆削り。段 顎。下弦幅26.8cm。凹面:布目有。凸面:撫で。側面:面取り2回。	
16	H-43-1 竈内	丸	瓦	① ②	42.9 2.2	①中粒②良好③灰色 ④ほぼ完形	行基式。一枚作り。下弦幅23.2cm。凹面:布目有、撫で。箆書き文字有。 凸面:撫で。側面:面取り3回。	箆書き文字
17	H-43-2 埋土	平	瓦	① ②	(20.3) (2.2)	①粗粒②良好③灰色 ④破片	一枚作り。凹面:布目有、撫で。箆書き文字有。凸面:撫で。側面:面 取り3回。	箆書き文字
18	H−46−1 竈内	平	瓦	① ②	39.0 (2.1)	①粗粒②良好③にぶい 橙色④破片	一枚作り。下弦幅23.3cm。凹面:布目有、撫で。箆書き文字有。凸面: 撫で。側面:面取り2回。	箆書き文字 酸化焰
19	H-46-2 竈内	平	瓦		(30.2) (2.5)	①中粒②良好③にぶい 橙色④破片	一枚作り。凹面:布目有、撫で。凸面:撫で。箆書き文字有。側面:面取り3回。	箆書き文字 酸化焰
20	H−46−3 竈内	平	瓦	① ②	(30.7) (1.8)	①粗粒②良好③灰色 ④破片	一枚作り。凹面:布目有。凸面:撫で。箆書き文字有。側面:面取り 2 回。	箆書き文字
21	H-46-4 埋土	平	瓦	① ②	(9.7) (2.5)	①粗粒②良好③灰色 ④破片	凹面:布目有。箆書き文字有。凸面:撫で。側面:面取り2回。	箆書き文字
22	H-48-1 床直	軒丈	瓦	① ②	(2.1)	①中粒②良好③灰色 ④瓦当破片	単弁5葉文。子葉のある二重連弁、中房は1本の圏線、連子は1+4、 周縁は幅1.2~1.7cmで撫で無文。瓦当裏面は無絞り布目。	上野国分寺 B101か
23	H-53-1 埋土	平	瓦	① ②		①粗粒②良好③灰色 ④破片	凹面:布目有。凸面:撫で。箆書き文字有。側面:面取り2回。	箆書き文字
24	H-55-1 埋土	平	瓦	① ②	(20.0) (2.1)	①粗粒②良好③灰白色 ④破片	一枚作り。凹面:布目有。箆書き文字有。凸面:縄叩き後撫で。側面: 撫で後面取り 2 回。	箆書き文字
25	H-60-1 床直	丸	瓦	① ②	37.0 2.1	①粗粒②良好③灰色 ④ほぼ完形	行基式。一枚作り。下弦幅19.4cm。凹面:布目有。凸面:撫で。箆書き 文字有。側面:面取り 2 回。	箆書き文字
26	H-60-2 竈内	平	瓦	① ②		①中粒②良好③灰白色 ④破片	桶巻き作り。下弦幅28.5㎝。凹面:布目有、撫で。模骨痕有。凸面:撫で。側面:面取り2回。	
27	H−60−3 床直	平		① ②	(5.7) (1.3)	①中粒②良好③灰色 ④破片	凹面:布目有。凸面:撫で。箆書き文字有。側面:面取り1回。	箆書き文字
28	グリッド	平	瓦		(11.4) (2.6)	①中粒②良好③灰色 ④破片	凹面:布目有。凸面:平行叩き目文、撫で。箆書き文字有。側面:面取 り 3 回。	箆書き文字
-> /	つ屋供は 「1		1) lo # 0	N. + - E // IA //	「押上」・庄南ト 111~以上の屋位からの絵出の 9 砂味に分けた	

注)①層位は、「床直」:床面より10㎝以内の層位からの検出、「埋土」:床面より11㎝以上の層位からの検出の2段階に分けた。

②長さ、厚さの単位はcmである。現存値を ()、復元値を [] で示した。 ③貼土は、細粒 (0.9mm以下)、中粒 (1.0~1.9mm以下)、粗粒 (2.0mm以上)とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。 ④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。 ⑤色調は瓦外面で観察し、色名は新版標準土色帳 (小山・竹原1976)によった。

VIまとめ

本遺跡は相馬ヶ原扇状地の東縁にあり、100m程南西には染谷川が北西から南東へ流下し、遺跡内の微地形も北西から南東に向かって約30cmほど低くなる。調査区の地層は、①20~30cmの現耕作土層、②10~20cmの As-B混土層、③20~30cmの As-C・HR-FP 混土層、④10cmの As-C混土層、⑤黄褐色砂質土層(総社砂層)で、④層は南側でははっきりと確認でき、⑥層は北・東側では粘性の高い黒褐色土層になる。遺構は⑤層まで掘り込んで構築されている。

本遺跡は推定国府域の西側に位置し、また、調査区の北西には国分僧寺、北には国分尼寺が存在する。本遺跡からは縄文時代前期から古墳時代、奈良・平安時代、中世の各時代にわたる多くの資料が得られた。

ここでは、元総社蒼海遺跡群の従来の分類に従い、I期(~7世紀前半:律令期以前)、II期(7世紀~10世紀初頭:律令期)、III期(10世紀前半~:律令期以後)の3期に大別して集落跡を概観する。

Ⅰ期(~7世紀前半)

縄文時代

縄文時代の遺構は、竪穴住居跡が2軒、土坑が11基検出された。竪穴住居跡は調査区北側で検出され、1軒は諸磯c式土器を伴う前期のもので、1軒は加曽利E3式土器を伴う中期のものである。土坑は調査区北・西側で検出され、加曽利および曽利式土器を伴う中期のものである。本遺跡すぐ北の「元総社小見II遺跡」では中期の竪穴住居跡が2軒検出されており、本調査区南側で遺構が検出されていないことから、縄文時代前期及び中期の集落は北側に広がっていくと考えられる。

また、調査区北・東側には、粘性の高い黒褐色土層があり、縄文土器・石器を多く検出した。当時この辺りが 谷地であったことが窺える。

4世紀

古墳時代前期の遺構は、竪穴住居跡が10軒検出された。形状は方形であるが、東西辺を基本とした主軸方向は N-53°-EからN-99°-E、東西辺の長さは3.69mから6.44mとばらつく。炉は9軒で地床炉が検出され、そのうち4軒では川原石を $1\sim2$ 個使用している。遺物は、突出底の鉢・S字状口縁の台付甕・折り返し口縁の甕などが出土した。また、H-32号住居跡からは赤井戸系の甕も出土した。「元総社小見II遺跡」の西側でもこの時期の住居跡が7軒検出されており、集落は染谷川に沿って北西に拡がっていくと考えられる。

6世紀

古墳時代後期の遺構は、竪穴住居跡が7軒検出された。主軸方向はN-64°-EからN-87°-E、東西辺の長さは3.92mから7.51mとなる。竈は6軒の住居跡で検出され、構築材は粘土で、凝灰岩を使用しているものもある。

II期(7世紀~10世紀初頭)

7世紀

この時期の竪穴住居跡は 2 軒検出され、ともに前半のものと想定される。主軸方向は $N-70^{\circ}-E$ と $N-92^{\circ}$

-E、東西辺の長さは5.72mと4.49m、竈は東竈と西竈である。遺物は、外稜の弱くなった坏、短胴化しやや膨らむ甕などが出土した。

8世紀

この時期の竪穴住居跡は10軒検出され、前半のものが3軒、中葉のものが1軒、後半のものが6軒である。主軸方向は $N-70^\circ-E$ から $N-93^\circ-E$ 、東西辺の長さは2.67mから5.18mとなる。竈は9軒が東竈で1軒が北竈、構築材は粘土・石・凝灰岩で、後半のH-4号住居跡だけ瓦を使用している。

9世紀

この時期の竪穴住居跡は24軒検出された。主軸方向はN-62°-EからN-115°-E、東西辺の長さは2.03mから5.90mとなる。19軒で竈が検出され、構築材は粘土・石・凝灰岩・瓦である。その中のH-29号住居跡は、竈の両袖・煙道の天井部・支脚に瓦を使用している。遺物は、H-29号住居跡から灰釉の平瓶、H-50号住居跡から灰釉の高台椀底部を欠いた転用硯、H-21・50号住居跡から鉄鏃、H-22号住居跡から鉄斧などが出土した。

III期(10世紀前半~)

10世紀

この時期の竪穴住居跡は20軒検出された。主軸方向はN-52°-EからN-103°-E、東西辺の長さは2.30mから5.09mとなる。15軒で竈が検出され、構築材は粘土・石・凝灰岩・瓦である。遺物は、崩れた高台の付く高台 椀が多くなり、羽釜が共伴する。また、H-15号住居跡から耳皿や甑、H-24号住居跡から鍔の付く甑、H-38号住居跡から白磁の破片などが出土した。

本遺跡地では、I期の縄文時代より人々の生活が営まれ、4世紀になると住居跡はやや増え、6世紀も同様な傾向で続く。II期の7世紀になると住居跡は極端に減り、8世紀になるとまた住居跡は少し増えてくる。そして、9世紀になると大幅に住居跡が増え、III期の10世紀へとつながっていく。しかし、11世紀以降の住居跡は検出されておらず、今後、近隣の調査成果と比較検討を行っていく必要がある。

今後も継続していく元総社蒼海遺跡群の発掘調査により、国府・国分僧寺・国分尼寺・さらには蒼海城と周辺 集落の関わりがより明らかになっていくことを期待したい。

D-2号土坑について

この土坑は調査区北部に位置し、石31点と高台椀2点を出土した。石と高台椀の出土状態は、まず、深さ30cm程の穴を掘り、底に土を入れ、土の上に石を敷き、その中央に高台椀を重ねて置き、更にその上に石を敷いて蓋をするような状態であった。

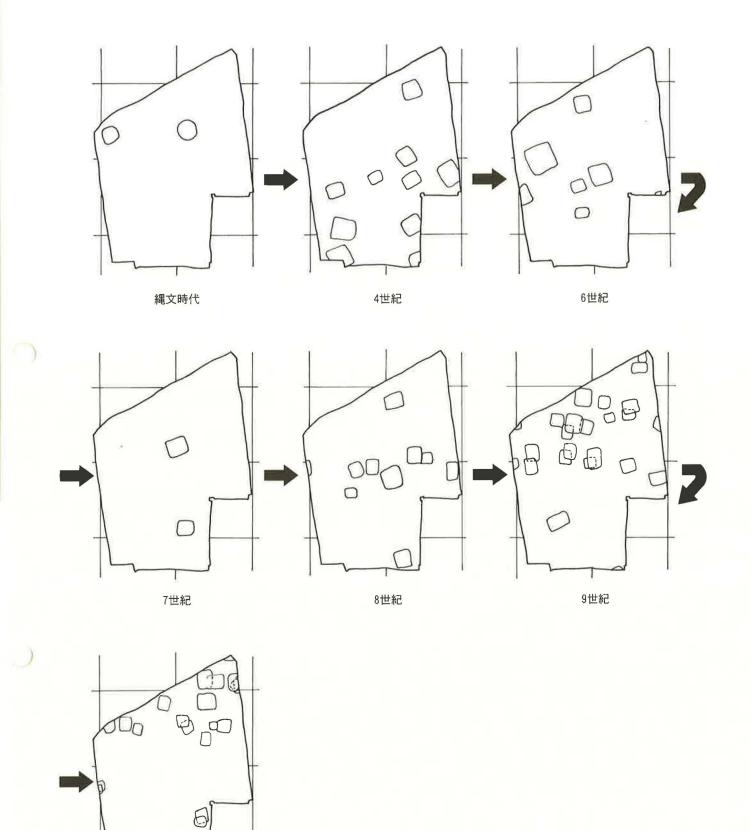
石はすべて川原石で、含有鉱物から供給源は利根川と思われる。形状に関しては、大きさ等はまちまちで、最大長は4.0cm \sim 13.5cm、重さは40g \sim 950gとなる。しかし、色に関しては均一で、すべて赤味を帯びている。また、その中の1点には『庄』あるいは『生』と判読できる墨書がある。(平面図上でどの石に墨書があったかは不明。)

2点の高台椀は、口縁同士を重ねて、下の高台椀を上の高台椀で蓋をするような状況で出土した。上の高台椀の底部には径1cmの穿孔があり、下の高台椀の側面には、判読はできないが墨書がある。

高台椀の形状から、この土坑は10世紀後半のものと考えられる。本遺跡の北側部には、同時期の住居跡が多くあり、この土坑は集落の南側に位置していたのであろうか。穿孔のある高台椀を中央に据え、その周りに赤味を帯びた石を並べるなどやや祭祀的なものを感じる。また、高台椀の墨書を『生』と読むとすると、H-15号住居跡からも「生」の墨書のある高台椀が出土しており関連が考えられる。しかし、「生」の字体がやや異なり、直接関連づけるには無理があろう。

不明な点が多くあり、今後、近隣の調査成果やこれからの調査成果と合わせて更に検討していきたい。

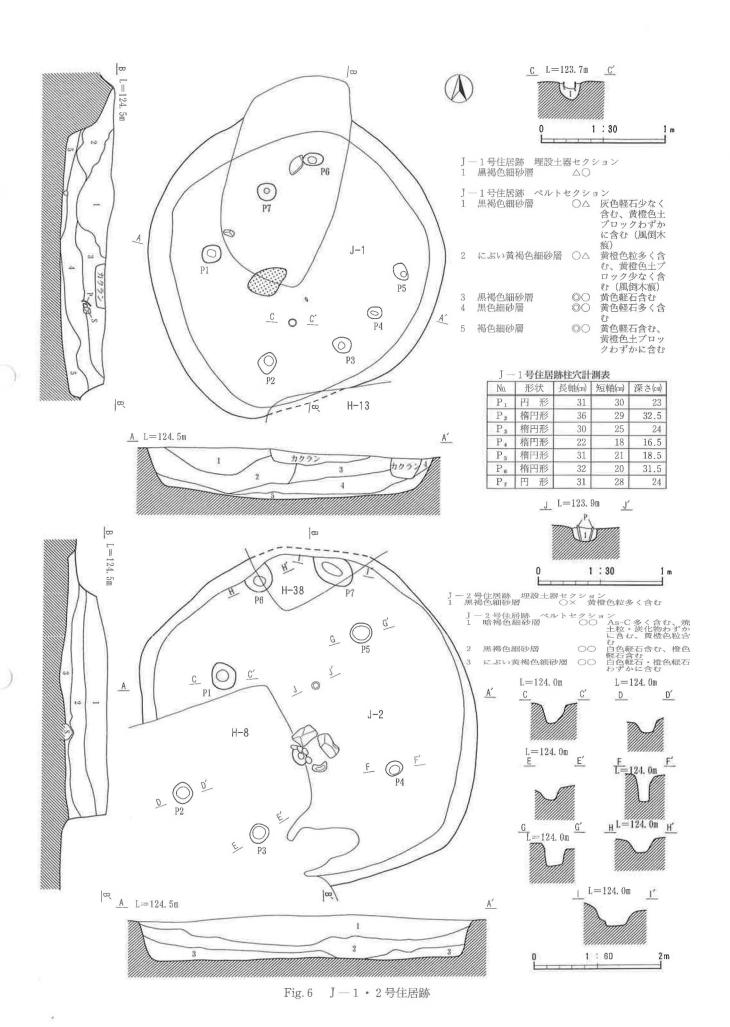
〈引用参考文献〉



時期別竪穴住居跡の推移

10世紀





- 49 -

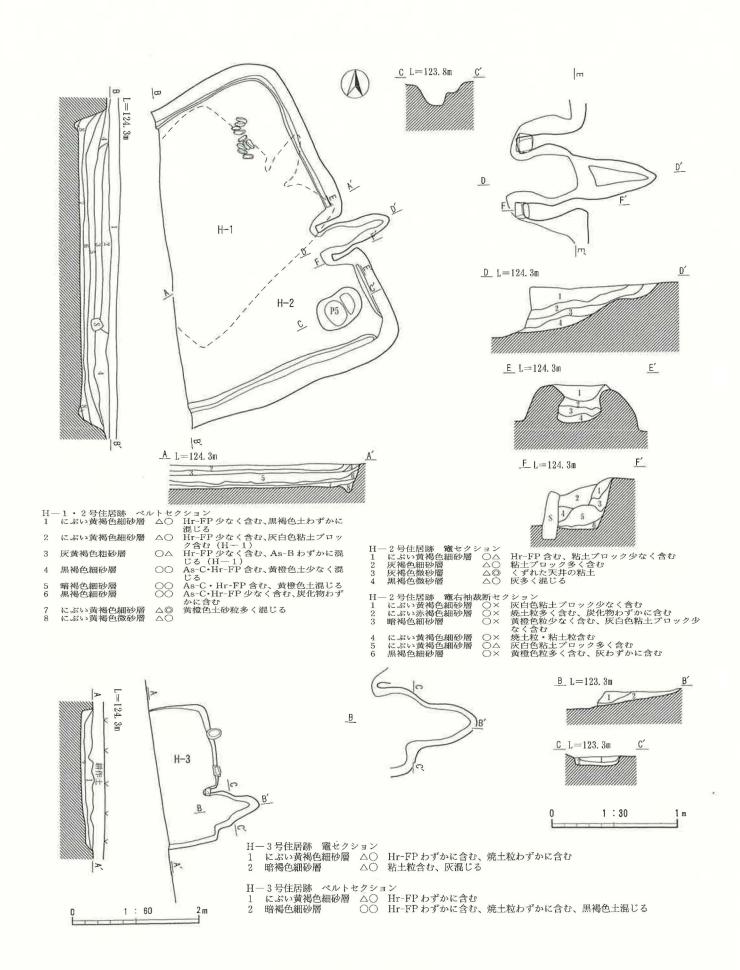


Fig. 7 H-1 \sim 3号住居跡

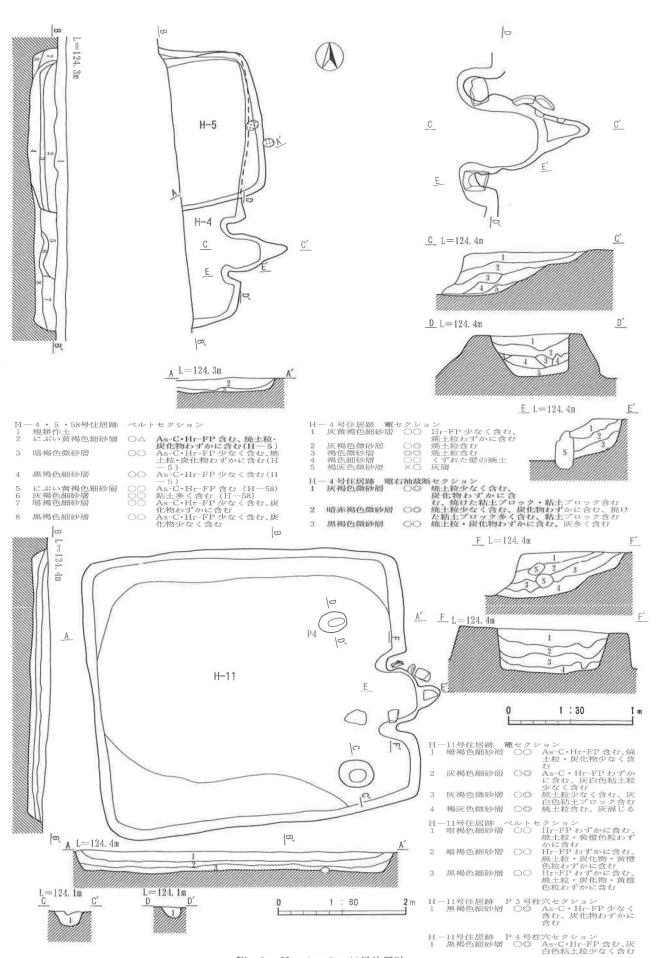
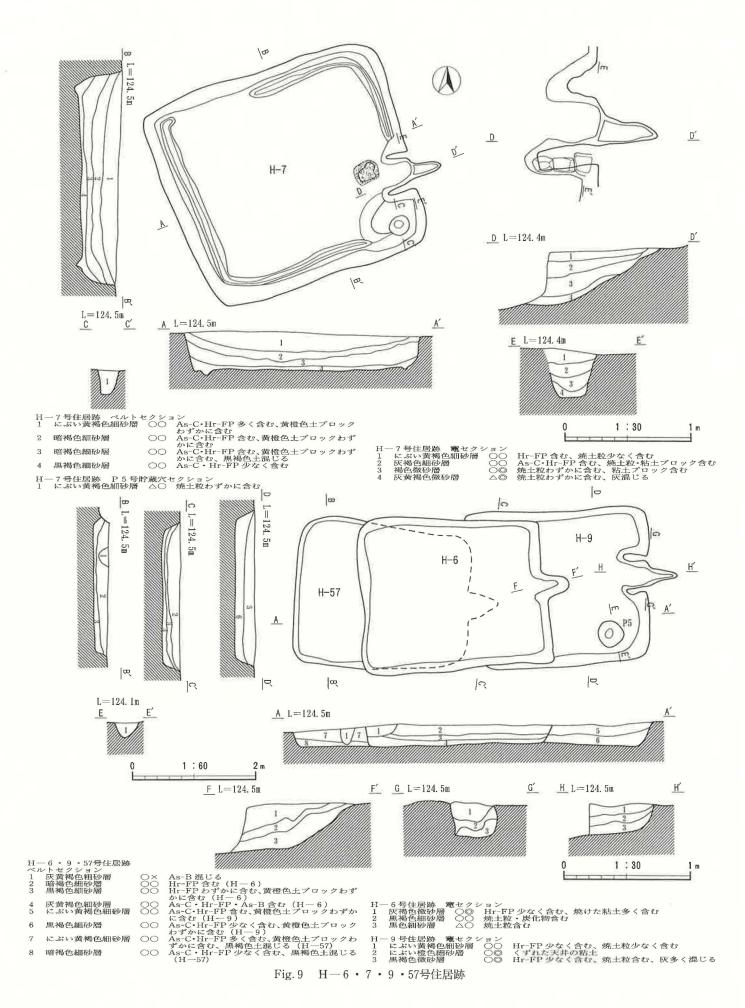


Fig. 8 H-4 · 5 · 11号住居跡



— 52 —

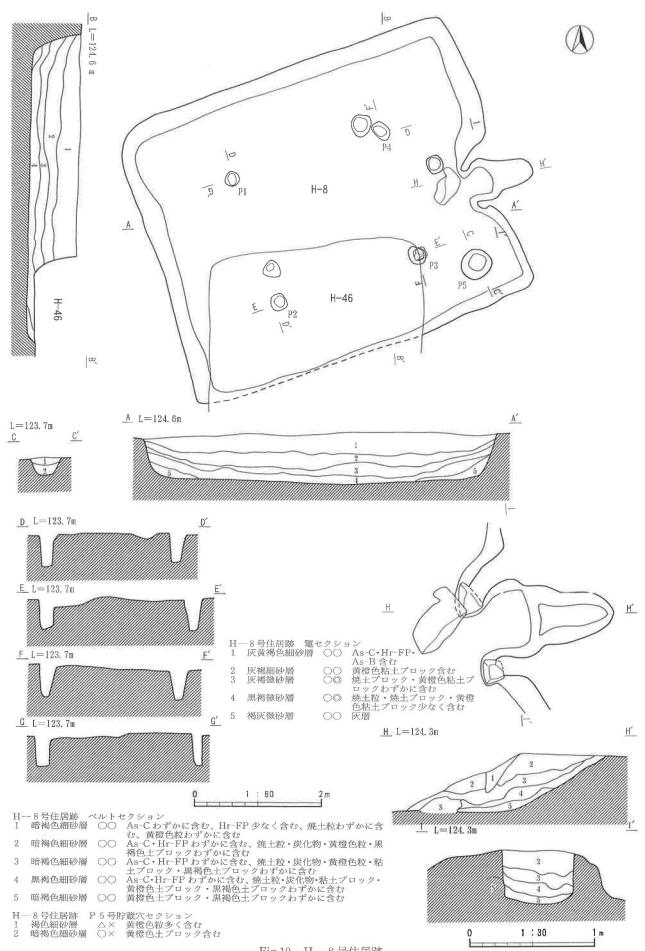


Fig.10 H-8号住居跡

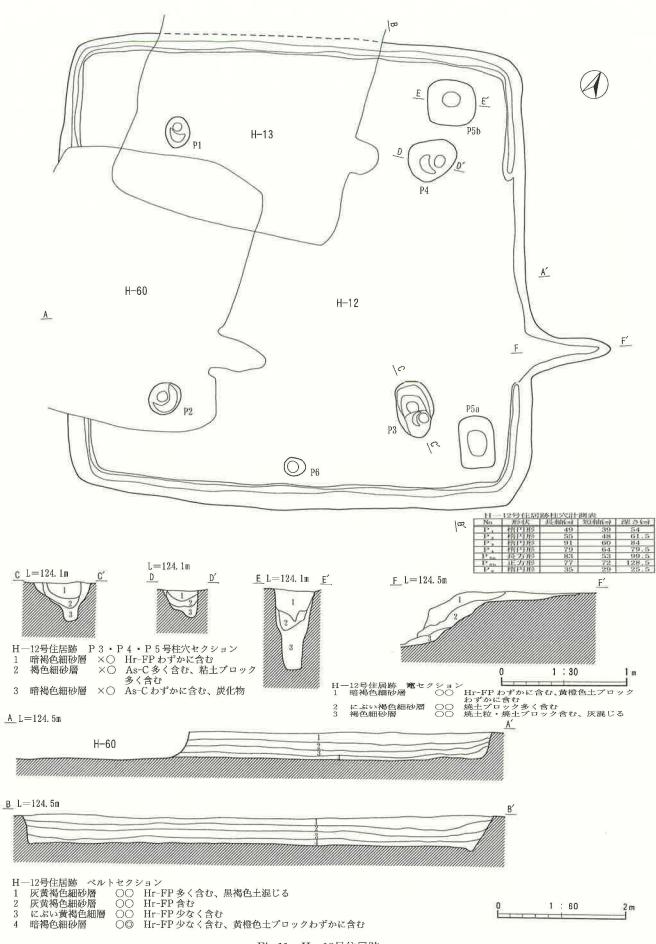


Fig.11 H-12号住居跡

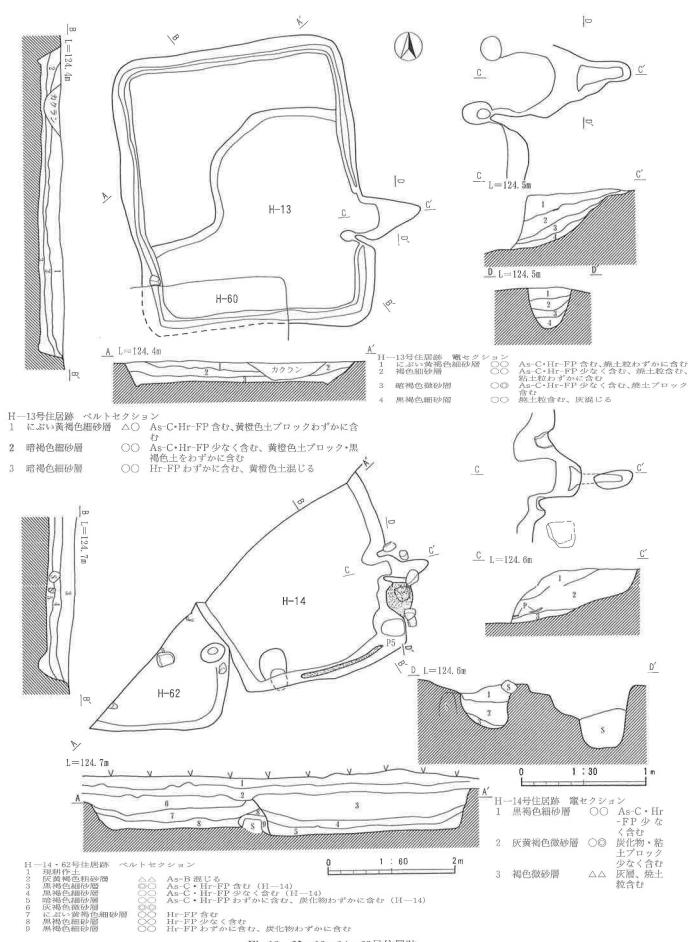
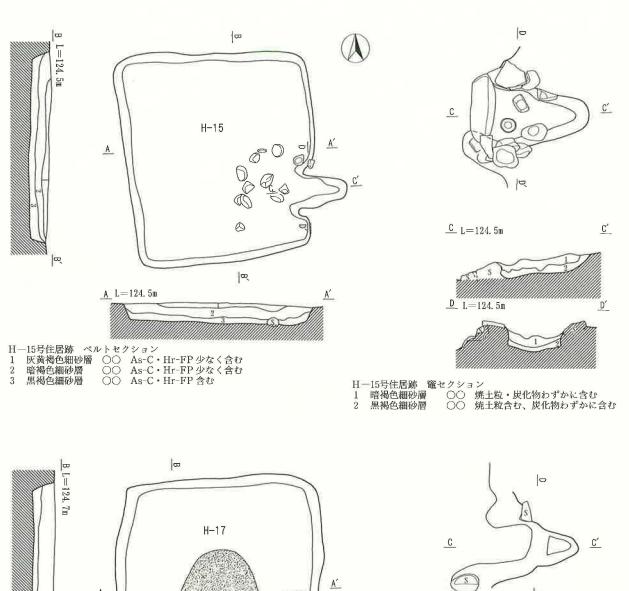


Fig.12 H-13 · 14 · 62号住居跡



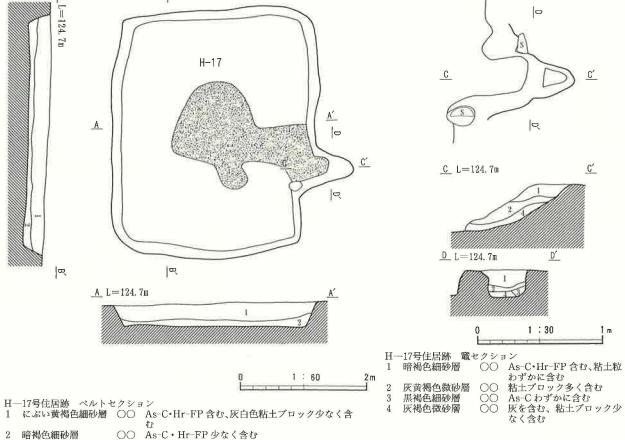
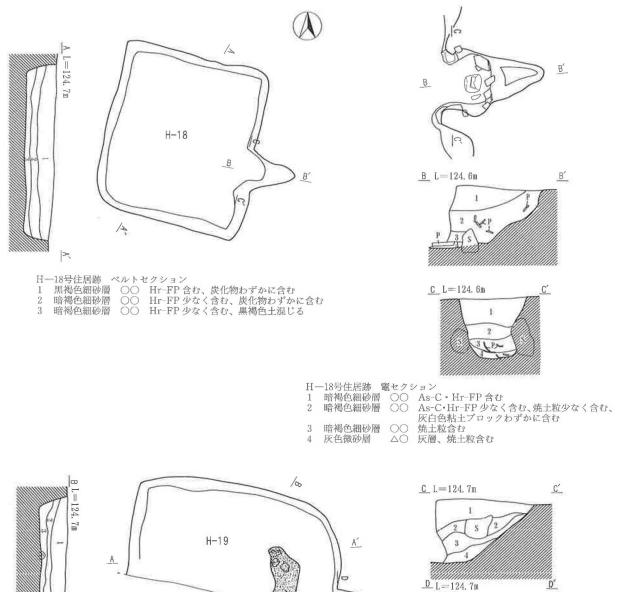


Fig.13 H-15·17号住居跡



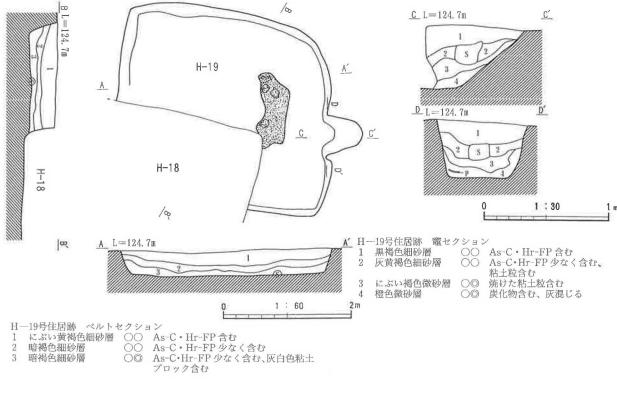


Fig.14 H-18·19号住居跡

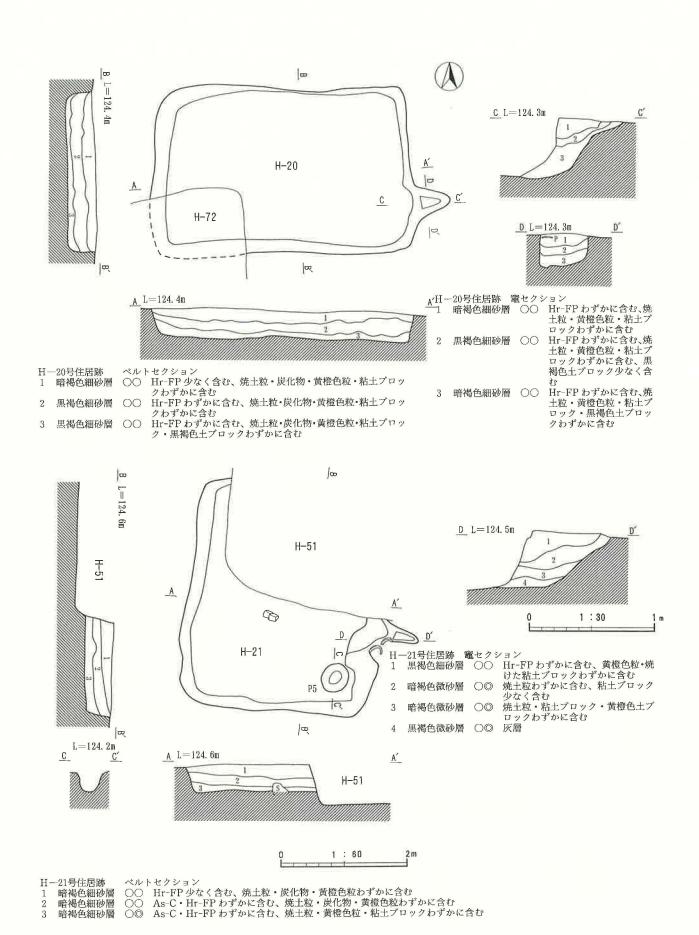


Fig.15 H-20・21号住居跡

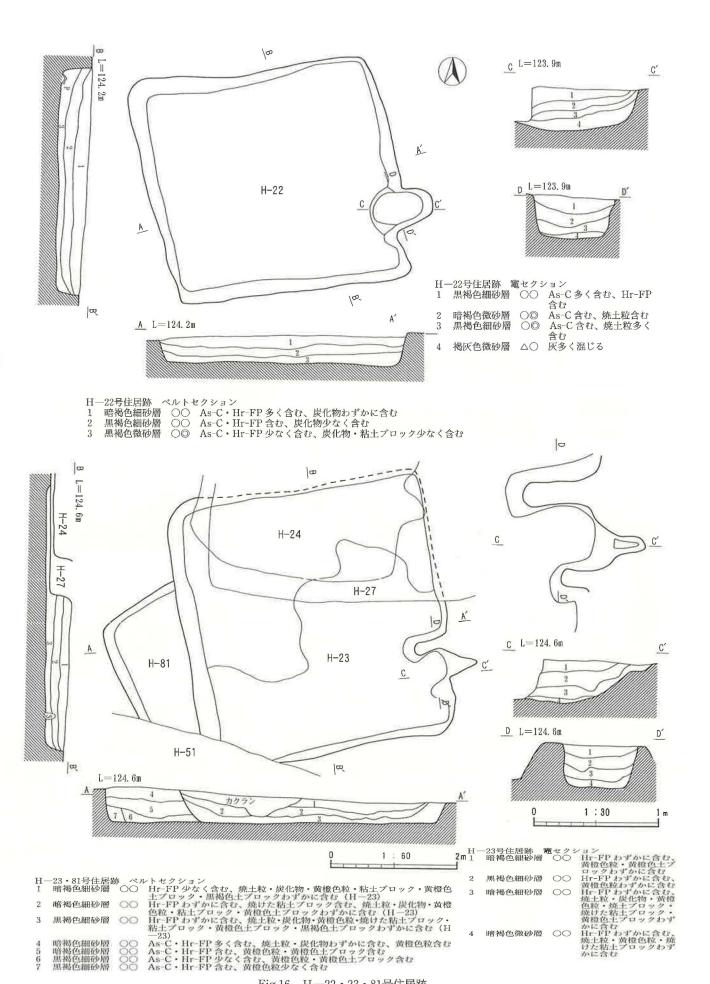
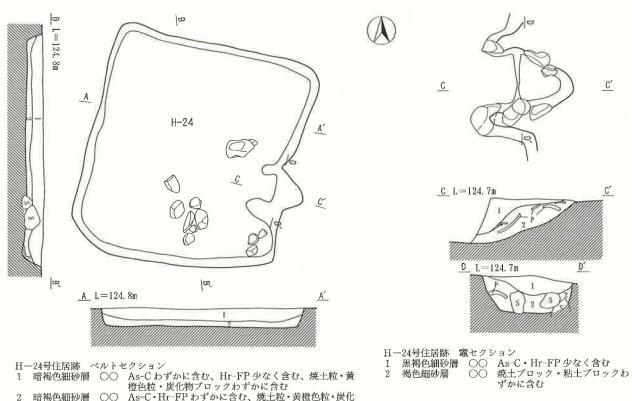


Fig.16 H-22 · 23 · 81号住居跡

暗褐色微砂層 〇〇



H − 24号住居跡 ベルトセクション
1 暗褐色細砂層 ○○ As-C わずかに含む、Hr-FP 少なく含む、焼土粒・黄 橙色粒・炭化物ブロックわずかに含む
2 暗褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP わずかに含む、焼土粒・黄橙色粒・炭化物ブロックわずかに含む <u>C'</u> <u>C</u>L=124.6m B L=124.7m0 D D L=124.6m H-25 H - 27A H-26 0 1:30 1 m -25住居跡 5 黒褐色細砂層 竈セクション H-○○ Hr-FP 少なく含む、焼土粒・炭化物わずかに含む○○ Hr-FP わずかに 暗褐色細砂層 œ(暗赤褐色微砂層 〇〇 <u>A</u> L=124.7m A 暗赤褐色微砂層 〇〇 カクラン 1 H-26 2

1:60

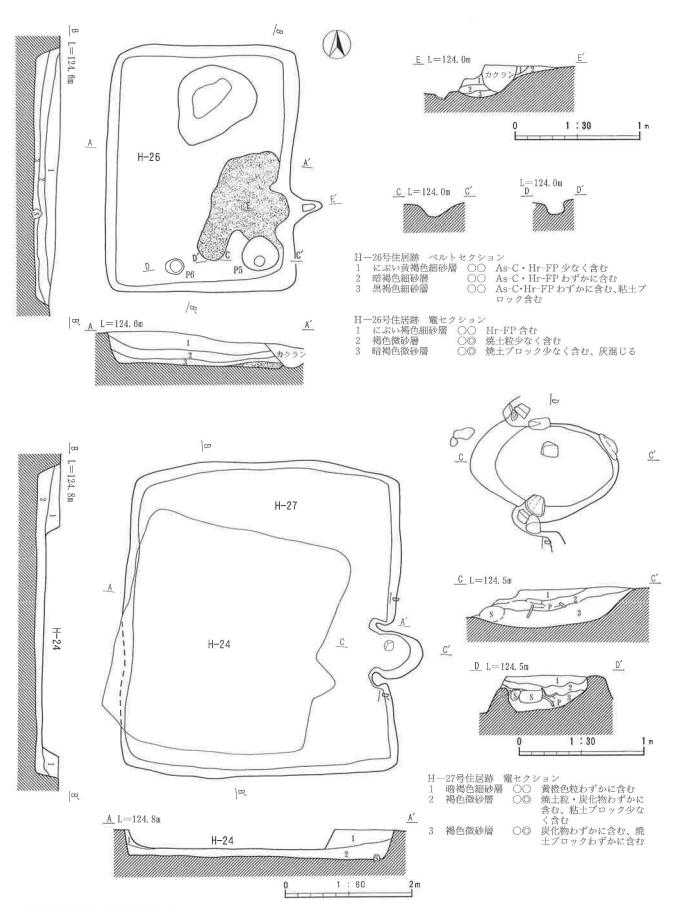
J 5

暗褐色微砂層

〇〇 灰層

- H-25号住居跡 ベルトセクション 1 暗褐色細砂層 ○○ Hr-FP 少なく含む、焼土粒・炭化物・黄橙色粒わずかに含む 2 黒褐色細砂層 ○○ Hr-FP わずかに含む、焼土粒・炭化物・黄橙色粒わずかに含む 3 黒褐色細砂層 ○○ Hr-FP わずかに含む、焼土粒・炭化物・黄橙色粒わずかに含む

Fig.17 H-24 • 25号住居跡



H-27号住居跡 ベルトセクション 1 暗褐色細砂層 $\bigcirc\bigcirc$ As-C・Hr-FP 含む 2 黒褐色細砂層 $\bigcirc\bigcirc$ As-C・Hr-FP 少なく含む、黄橙色粘土ブロック少なく含む

Fig.18 H-26·27号住居跡

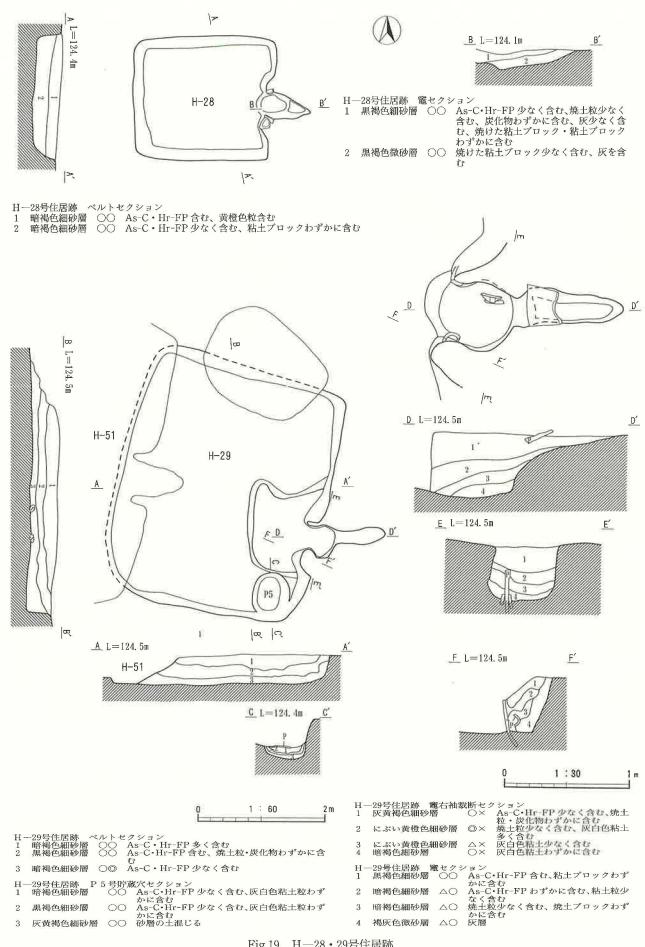


Fig.19 H-28·29号住居跡

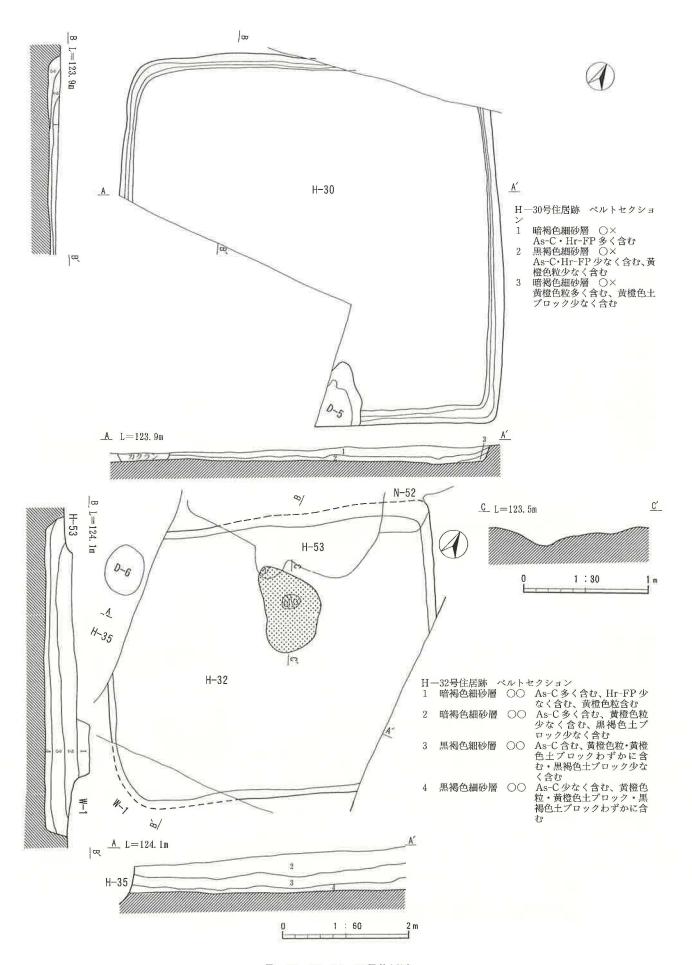


Fig.20 H-30·32号住居跡

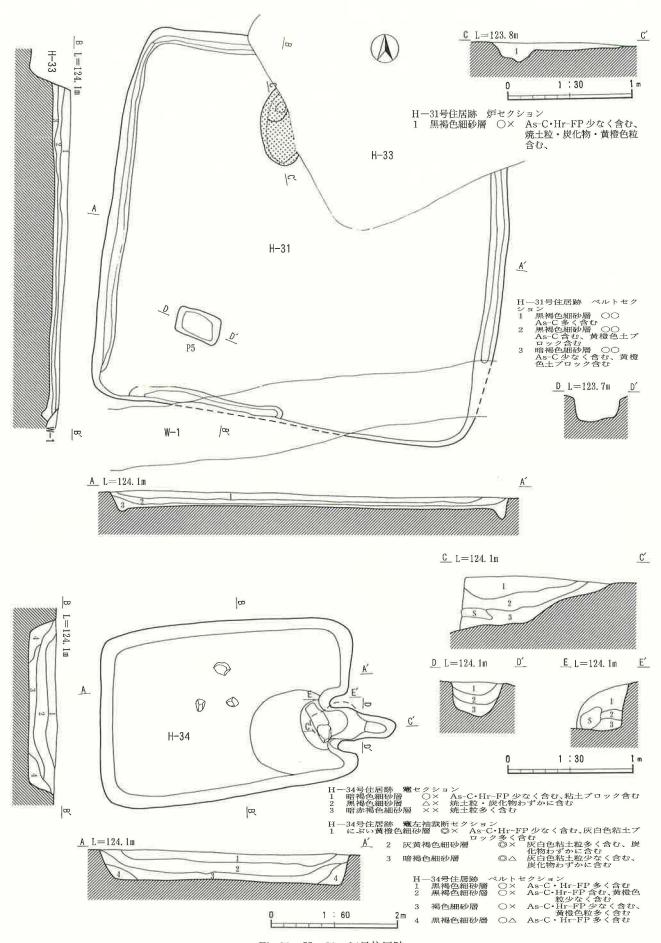


Fig.21 H-31·34号住居跡

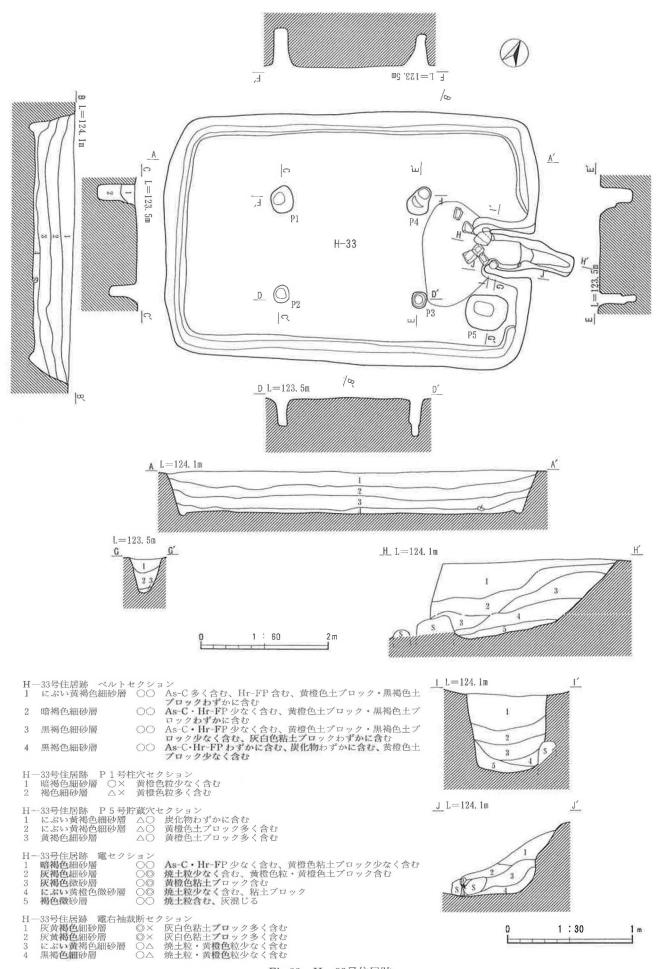


Fig.22 H-33号住居跡

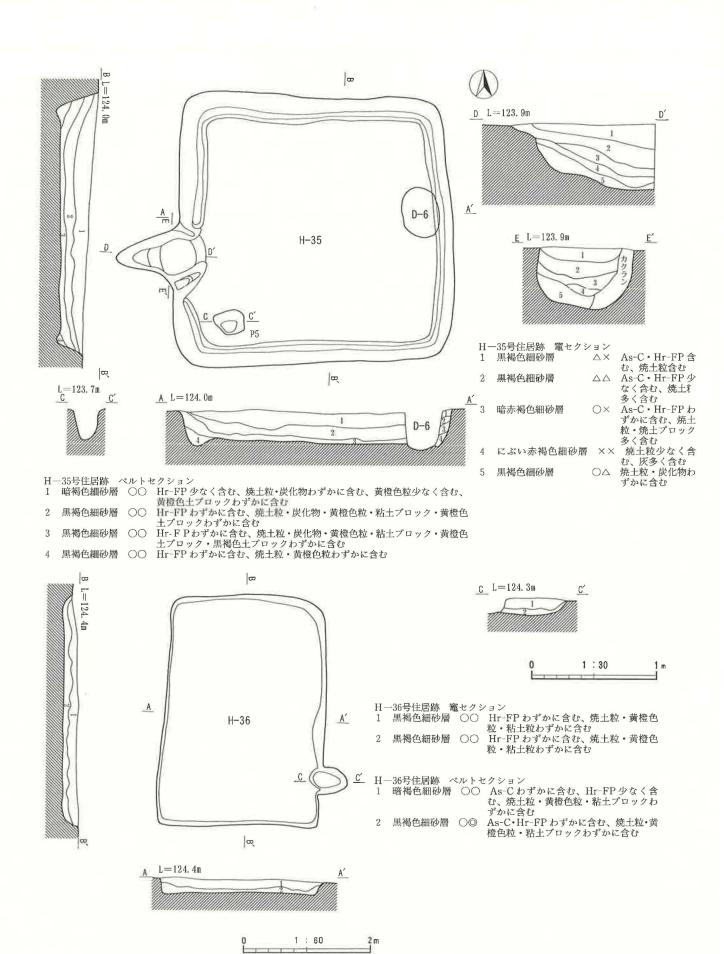
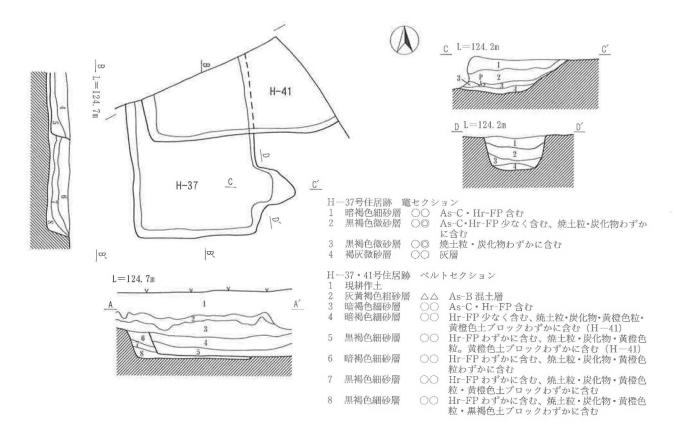
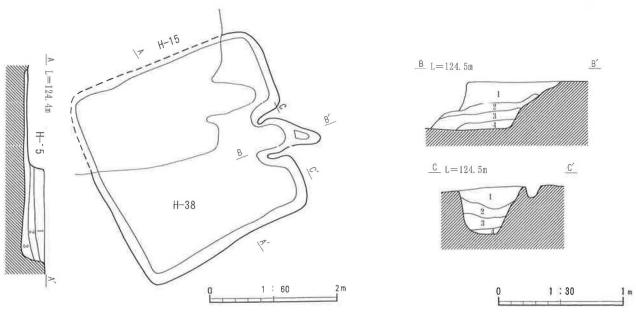


Fig.23 H-35·36号住居跡





- H−38号住居跡 ベルトセクション
 1 暗褐色細砂層 ○○ As-C わずかに含む、Hr-FP 少なく含む、焼土粒・炭化物・黄橙色粒わずかに含む
 2 黒褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP わずかに含む、焼土粒・炭化物・黄橙色粒わずかに含む
 3 黒褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP わずかに含む、焼土粒・炭化物・黄橙色粒わずかに含む

Fig.24 H-37·38·41号住居跡

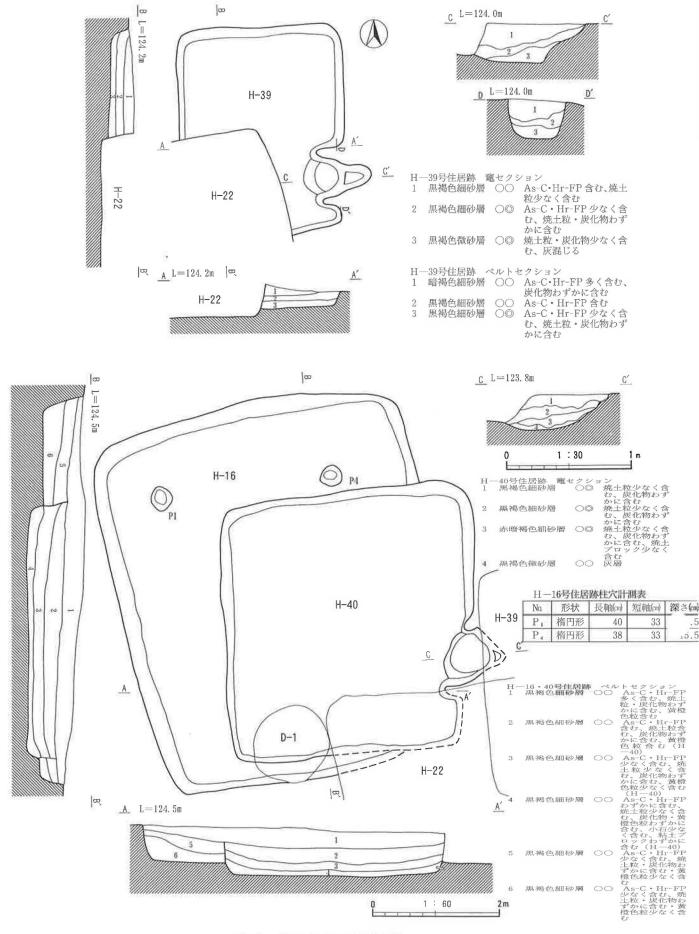
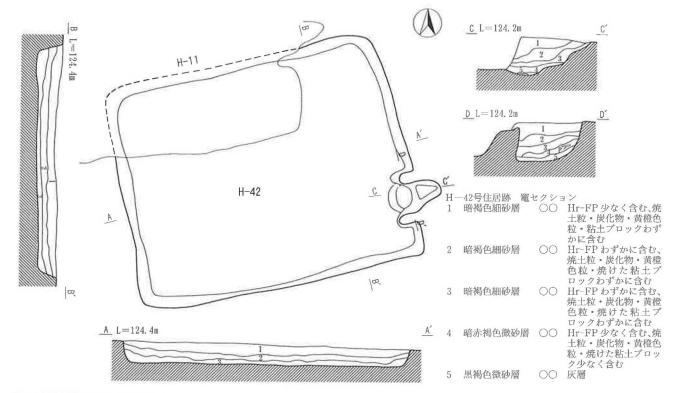
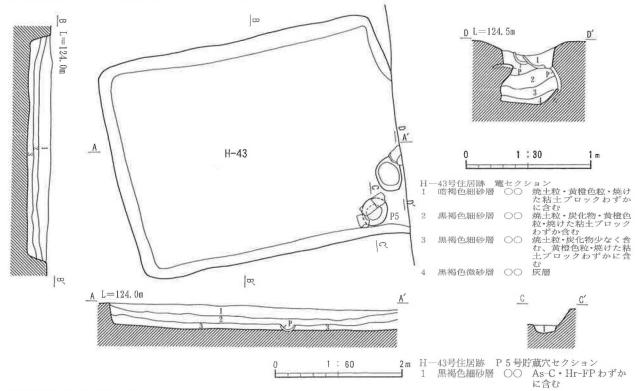


Fig.25 H-16·39·40号住居跡



H-42号住居跡 ベルトセクション

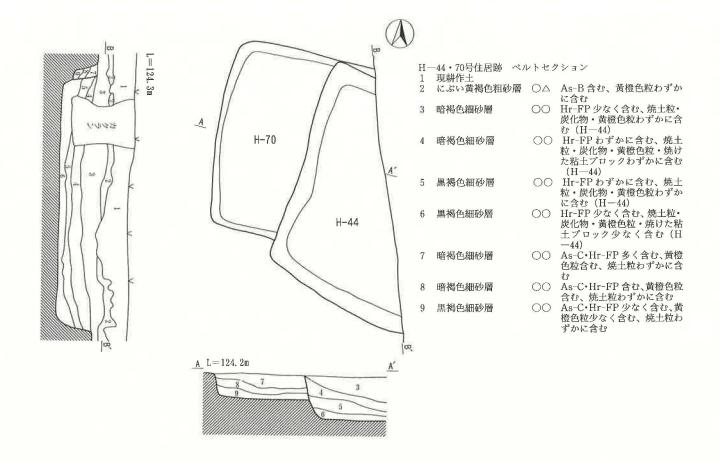
⁴²75日活励・ベルトモシッコッ 暗褐色細砂層 ○○ Hr-FP 含む、焼土粒・炭化物・黄橙色粒・粘土ブロックわずかに含む 黒褐色細砂層 ○○ Hr-FP わずかに含む、焼土粒・炭化物・黄橙色粒・粘土ブロックわずかに含む 黒褐色細砂層 ○○ Hr-FP わずかに含む、焼土粒・炭化物・黄橙色粒・粘土ブロックわずかに含む

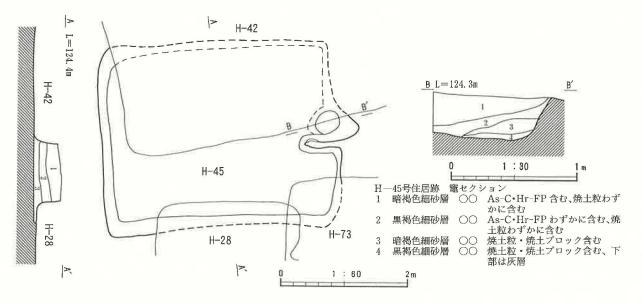


H-43号住居跡

-43号住居跡 ベルトセクション 暗褐色細砂層 ○○ Hr-FP 少なく含む、焼土粒・炭化物・黄橙色粒・粘土ブロックわずかに含む 暗褐色細砂層 ○○ Hr-FP わずかに含む、焼土粒・炭化物・黄橙色粒・粘土ブロック・黒褐色土ブロックわずかに含む 黒褐色細砂層 ○○ Hr-FP わずかに含む、焼土粒・炭化物・黄橙色粒・粘土ブロックもずかに含む、黒褐色土ブロック少なく含む

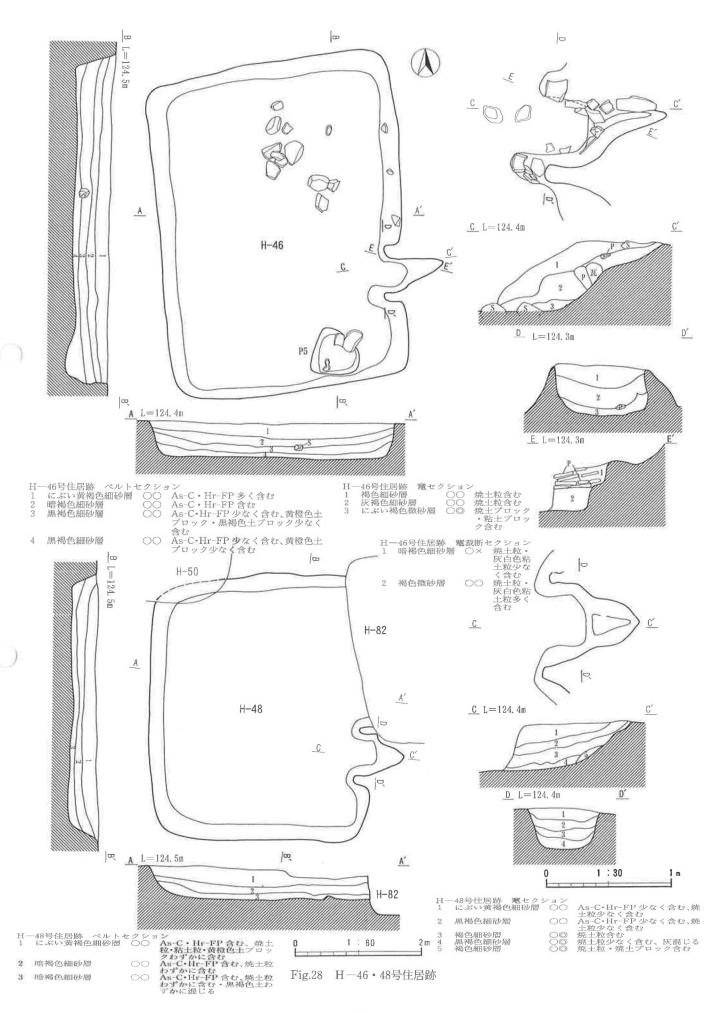
Fig.26 H-42·43号住居跡

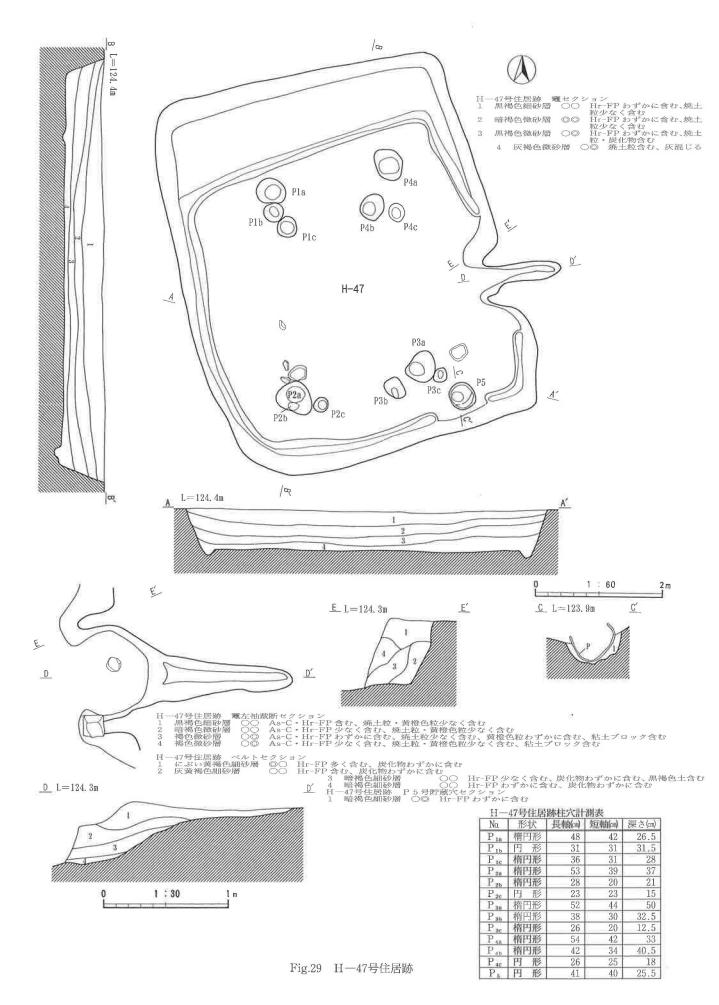




H−45号住居跡 ベルトセクション 1 暗褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP 含む、焼土粒わずかに含む、黄橙色粒含む 2 暗褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP 少なく含む、焼土粒わずかに含む、黄橙色粒少なく含む、黄橙色土ブロックわずかに含む 3 黒褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP わずかに含む、焼土粒・黄橙色粒・黄橙色土ブロックわずかに含む

Fig.27 H-44·45·70号住居跡





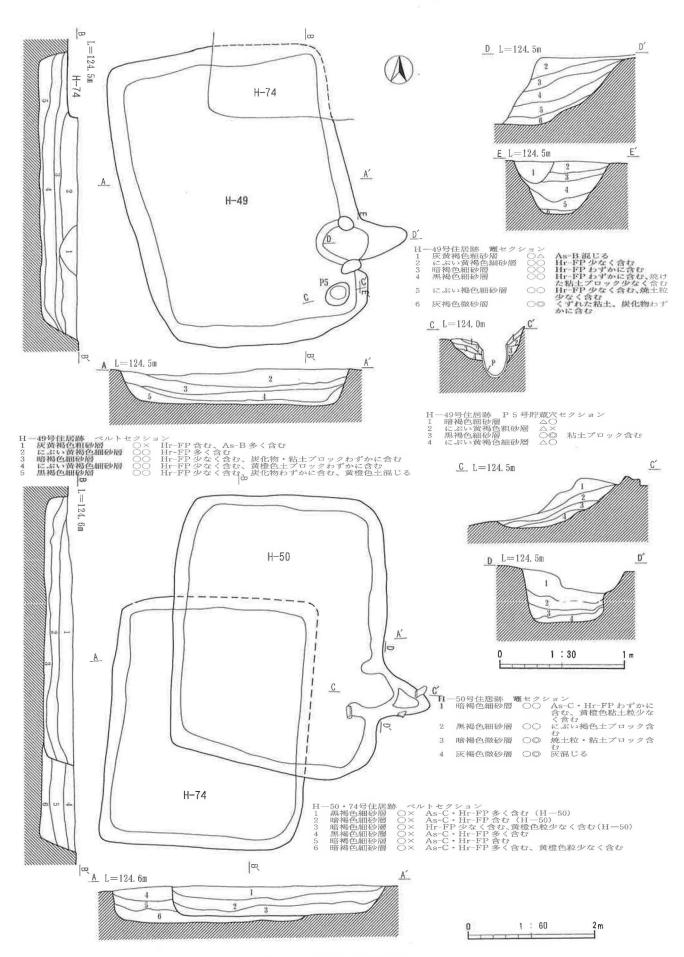


Fig.30 H-49·50·74号住居跡

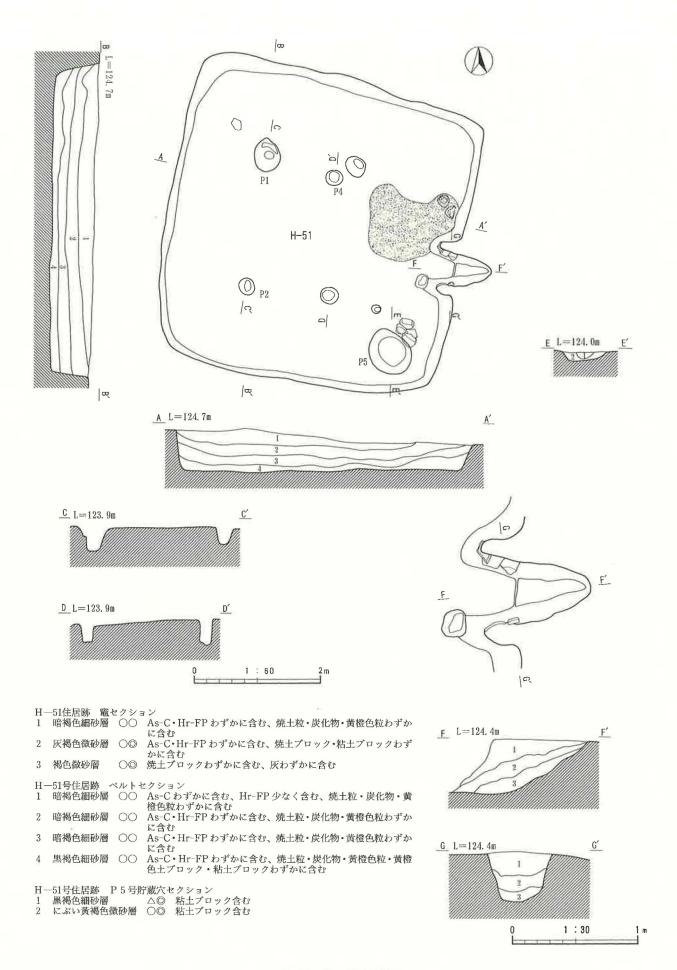


Fig.31 H-51号住居跡

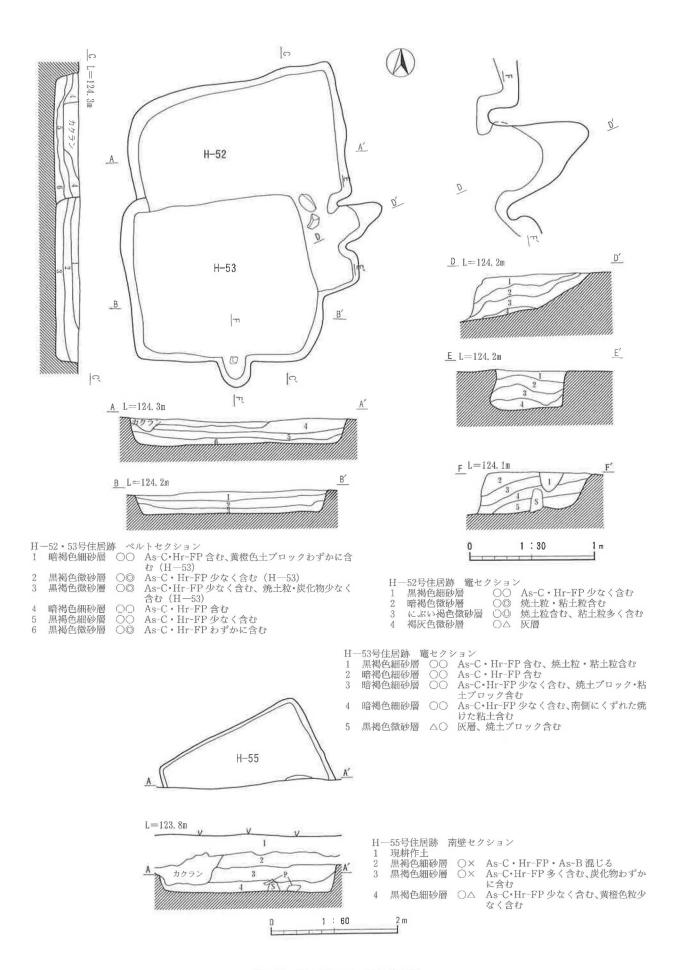


Fig.32 H-52·53·55号住居跡

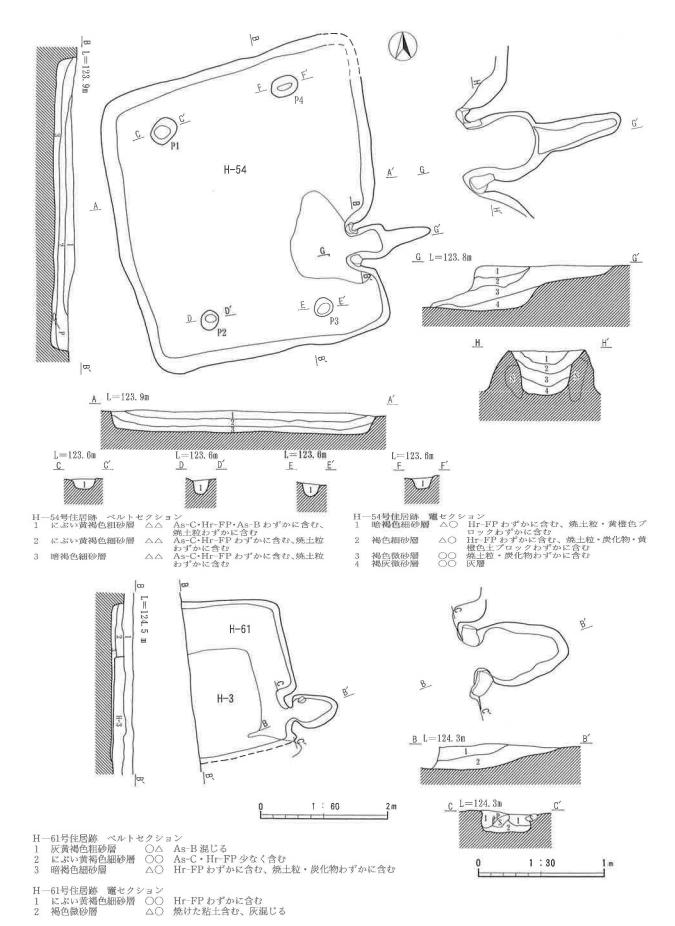


Fig.33 H-54·61号住居跡

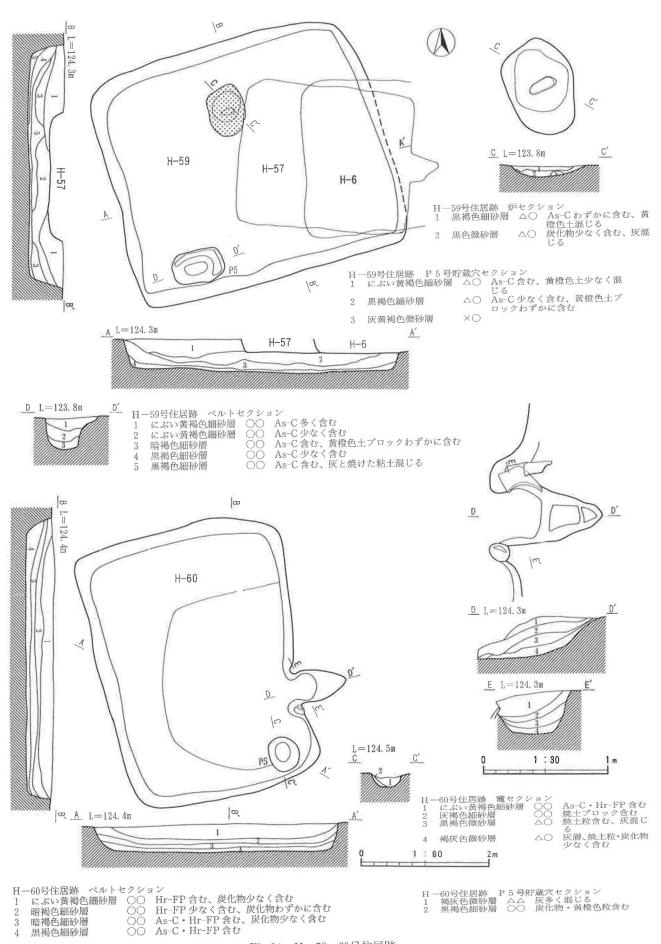


Fig.34 H-59·60号住居跡

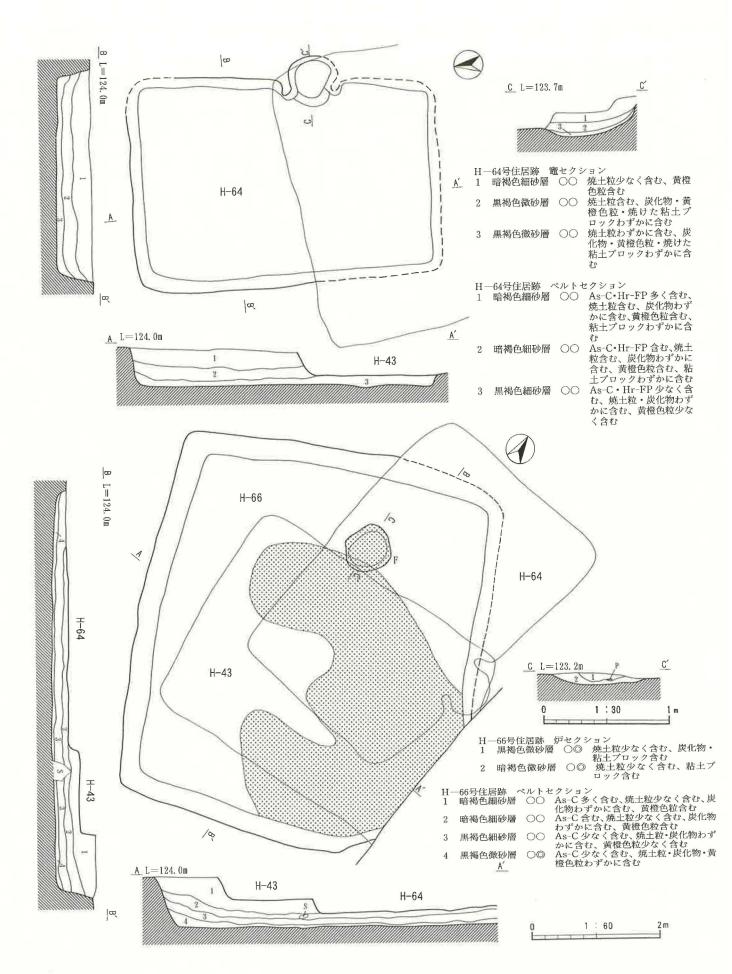


Fig.35 H-64·66号住居跡

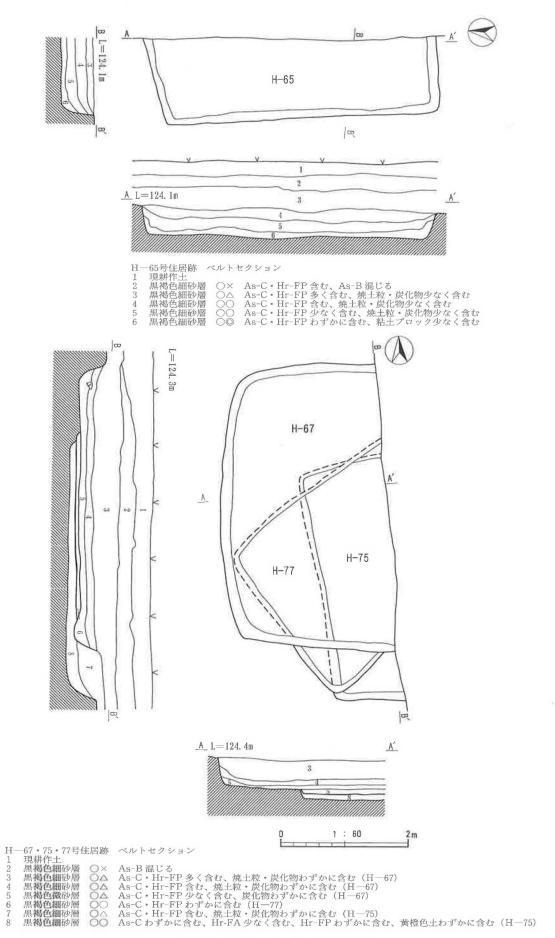


Fig.36 H-65 · 67 · 75 · 77号住居跡

12345678

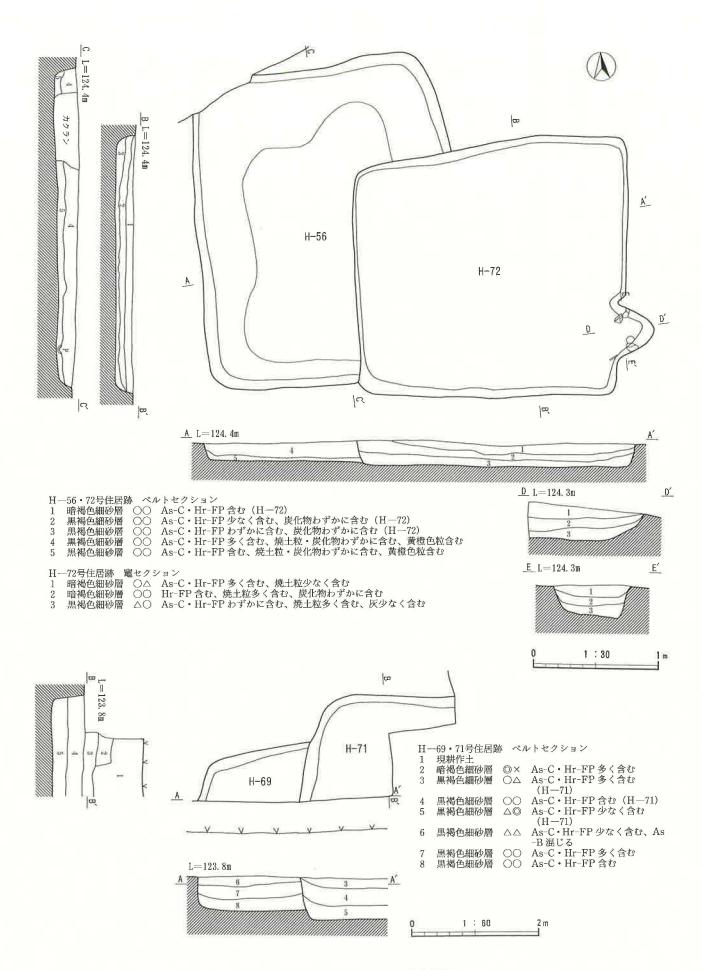
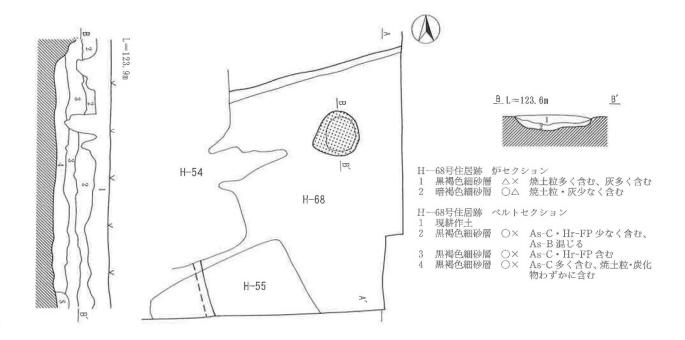


Fig.37 H-56·69·71·72号住居跡



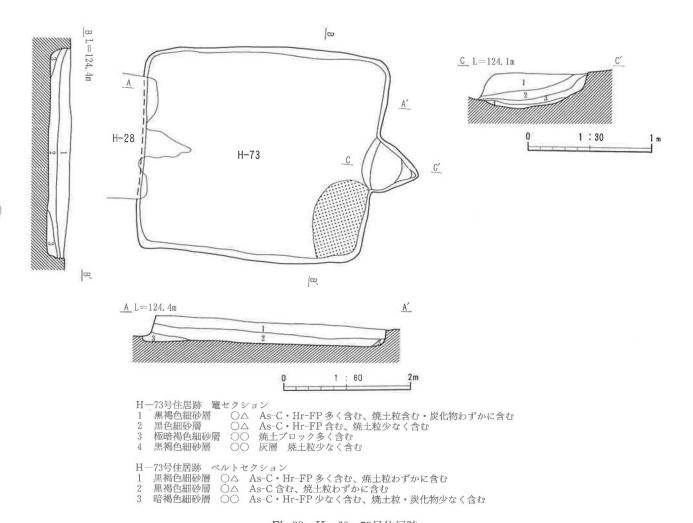


Fig.38 H-68 · 73号住居跡

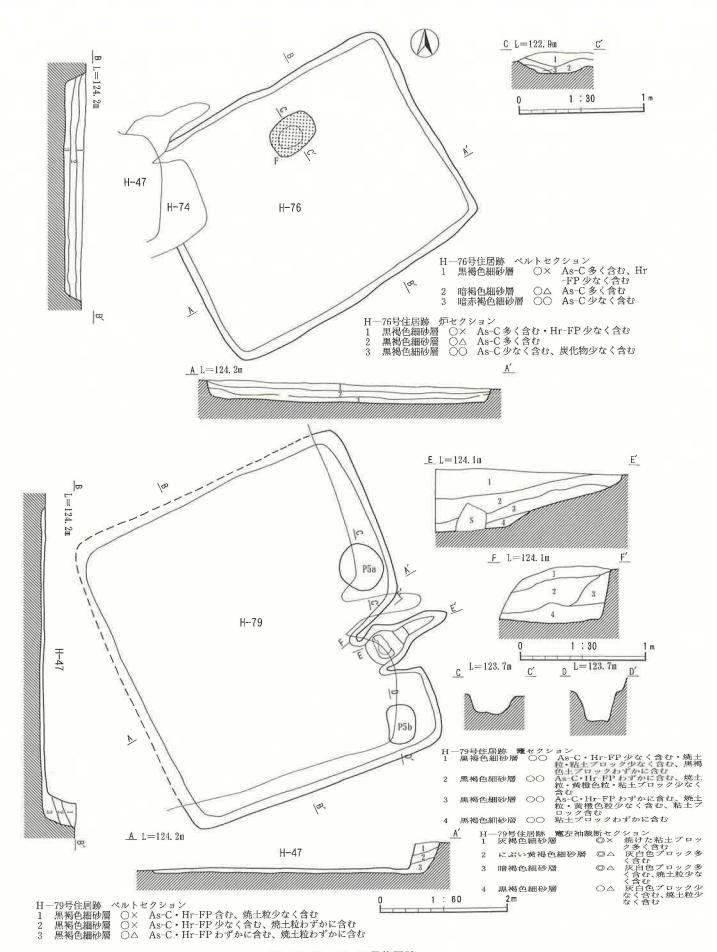


Fig.39 H-76 · 79号住居跡

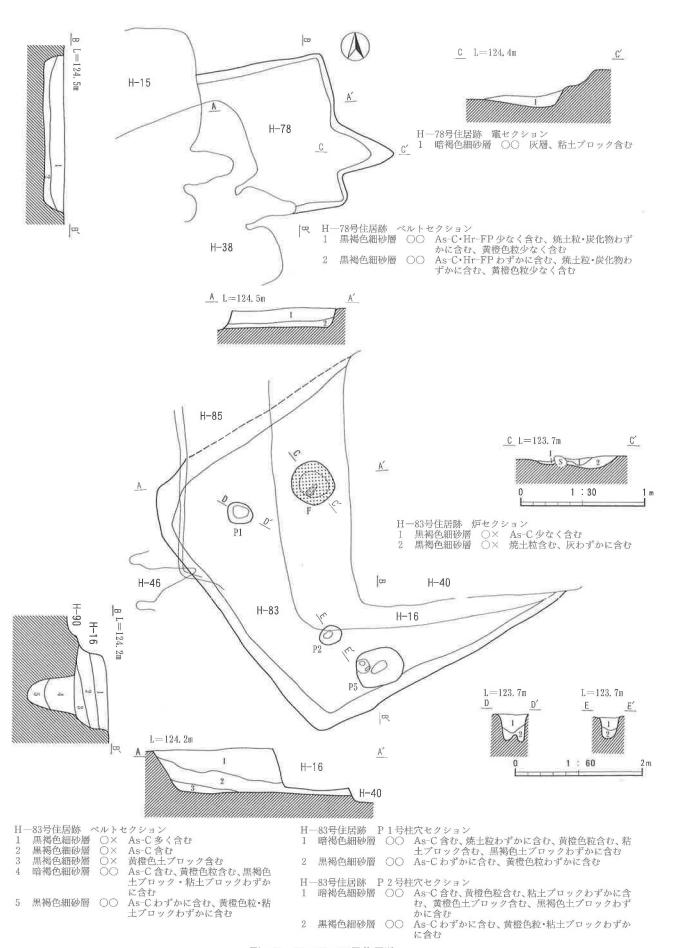
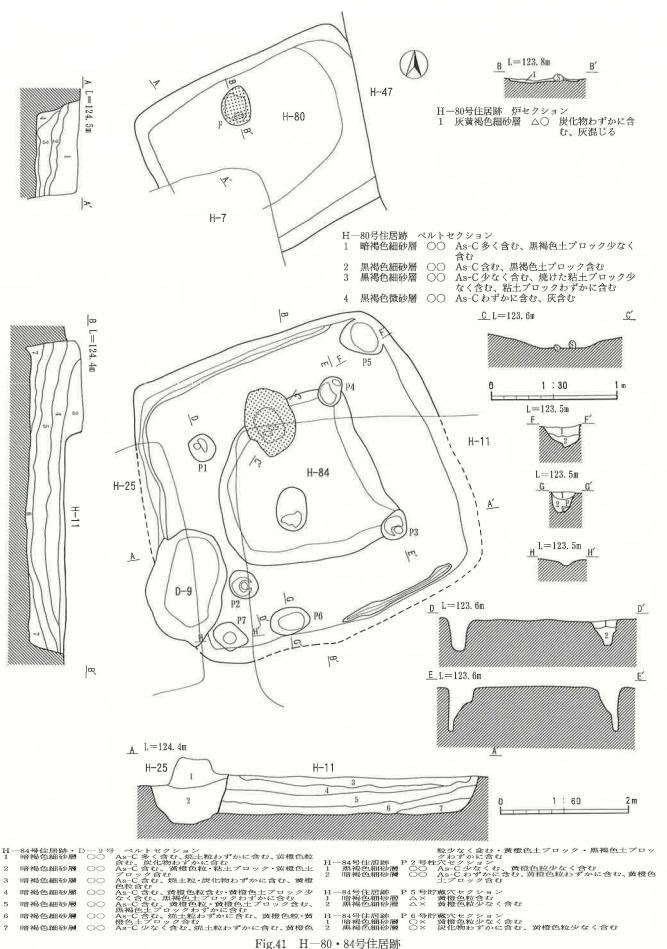


Fig.40 H-78·83号住居跡



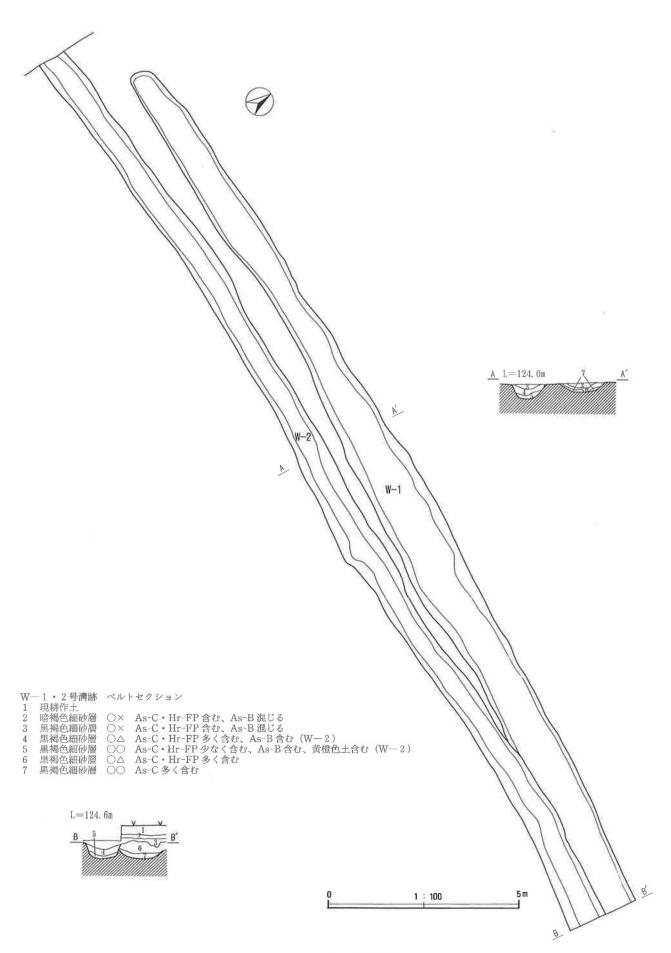


Fig.42 W-1 · 2号溝跡

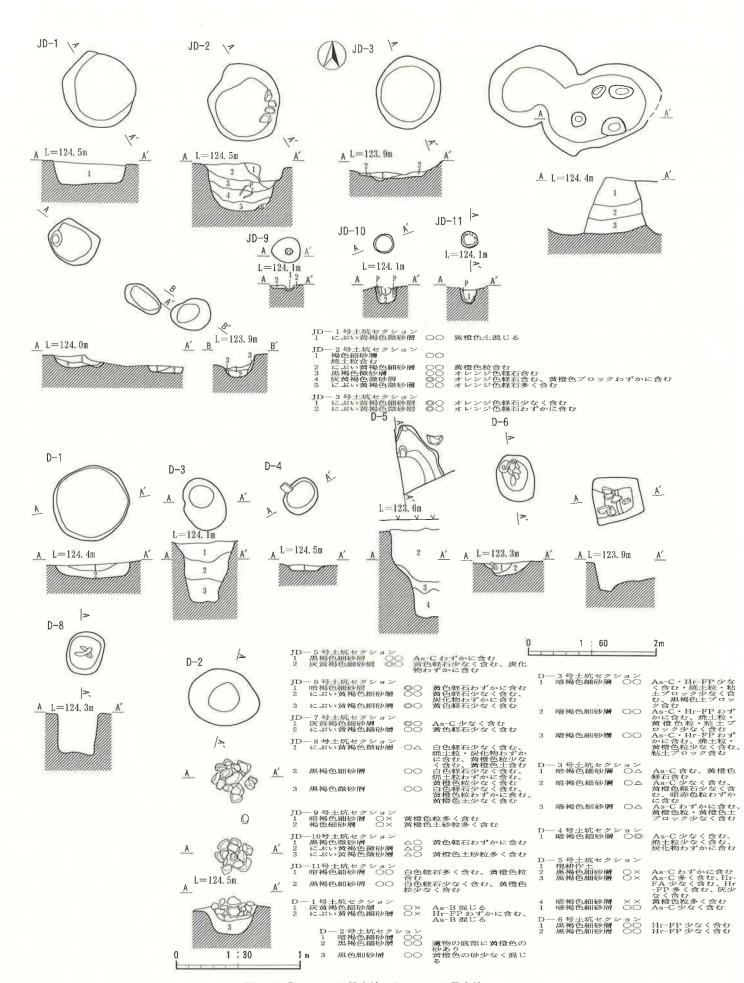
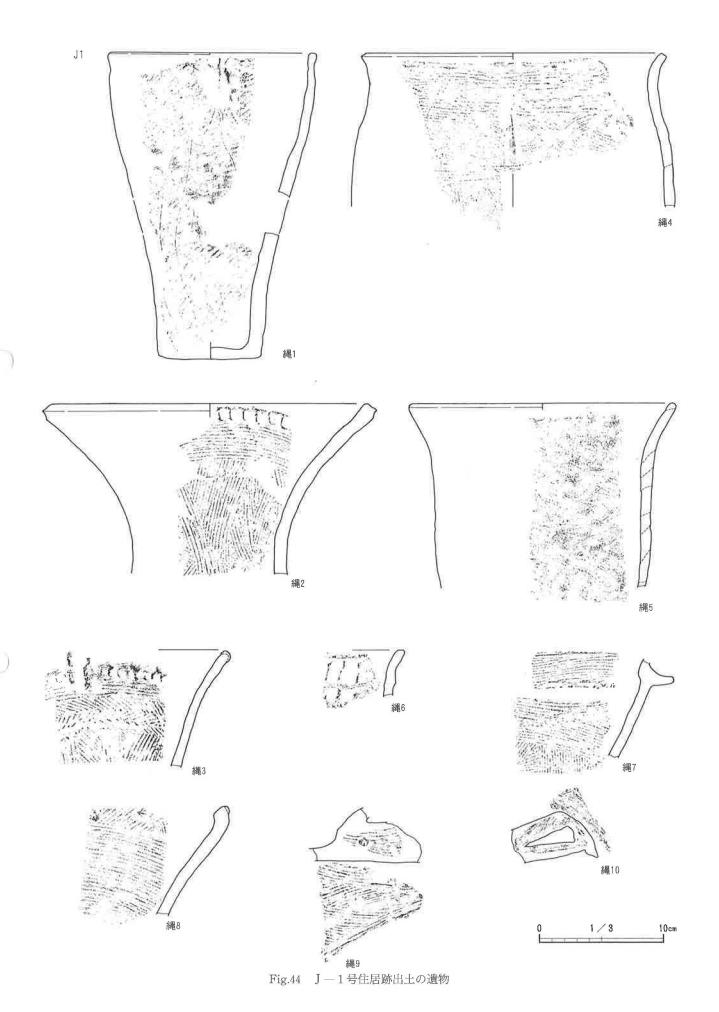
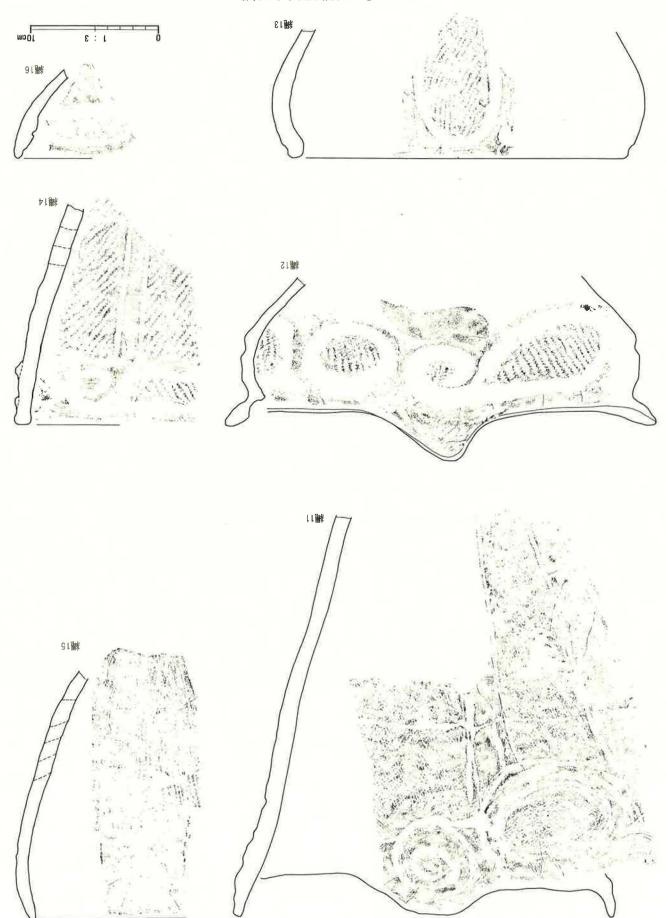


Fig.43 JD-1~11号土坑、D-1~8号土坑



— 87 —

Fig.45 J-2号往居跡出土の遺物



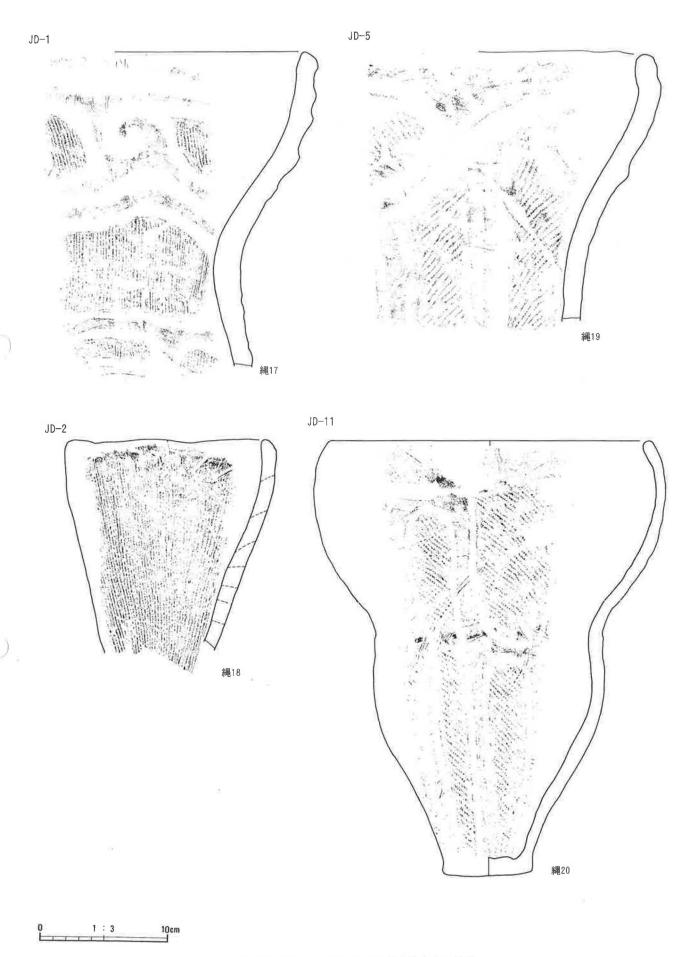


Fig.46 JD-1・2・5・11号土坑出土の遺物

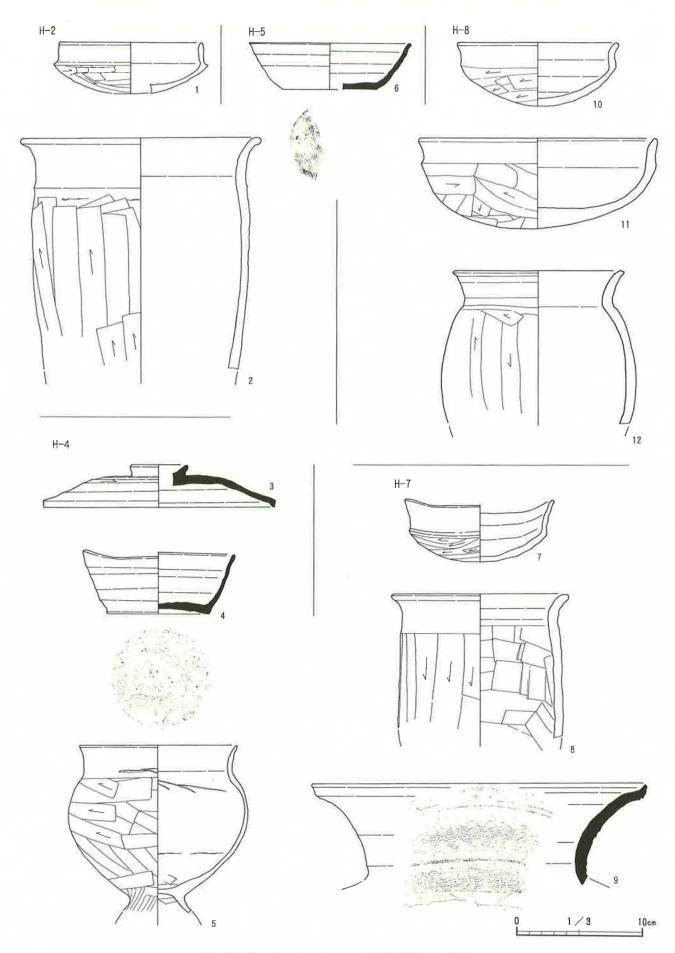


Fig.47 H-2・4・5・7・8号住居跡出土の遺物

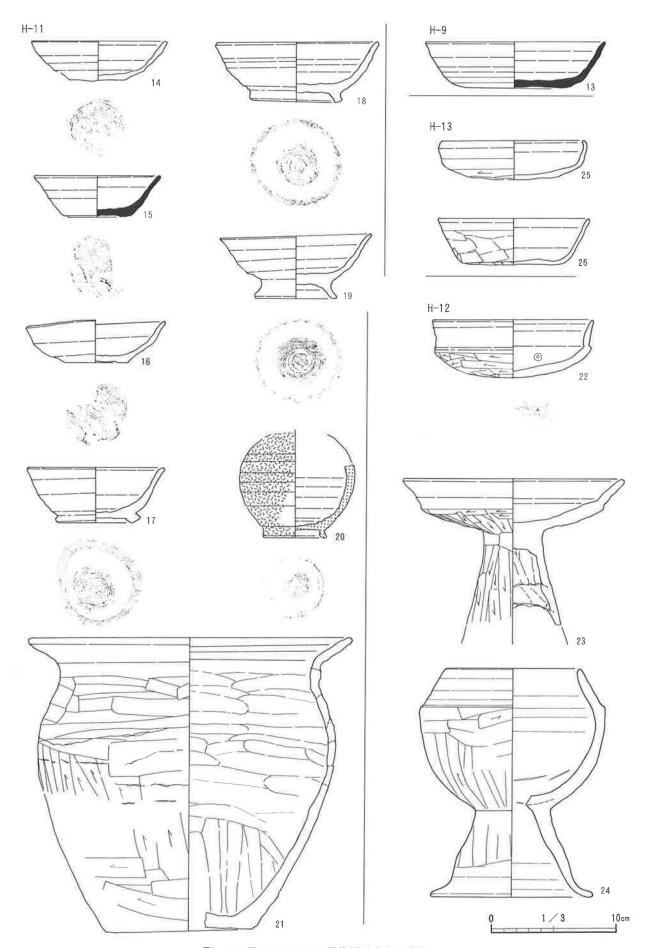


Fig.48 H-9・11~13号住居跡出土の遺物

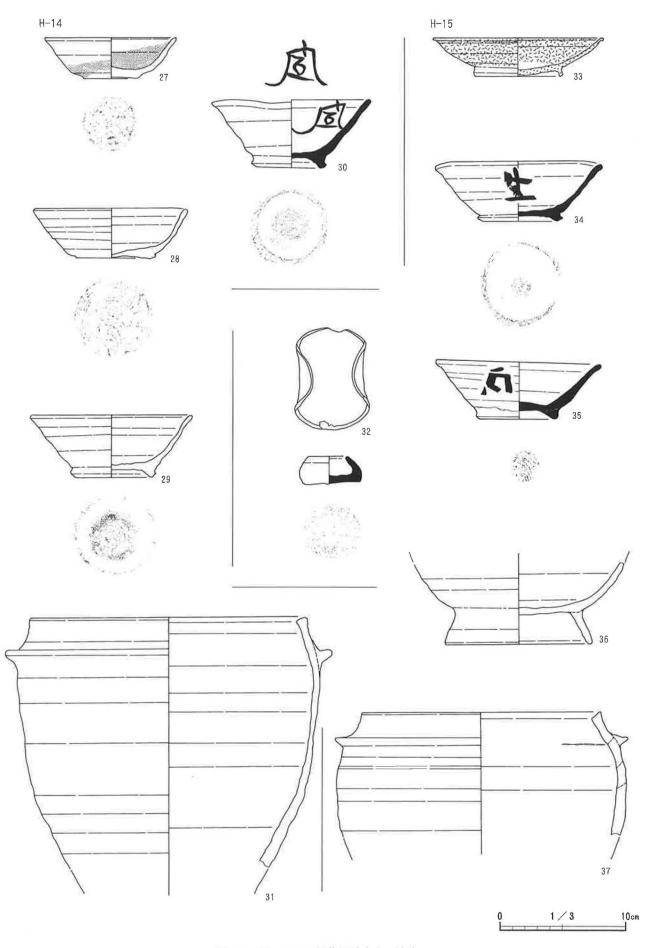


Fig.49 H-14・15号住居跡出土の遺物

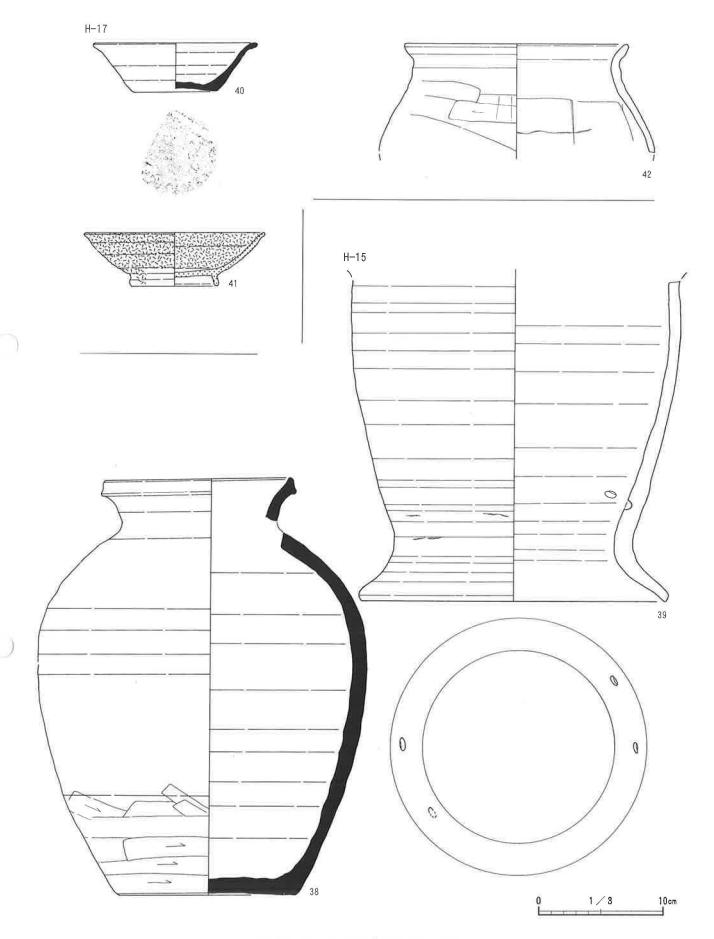


Fig.50 H-15・17号住居跡出土の遺物

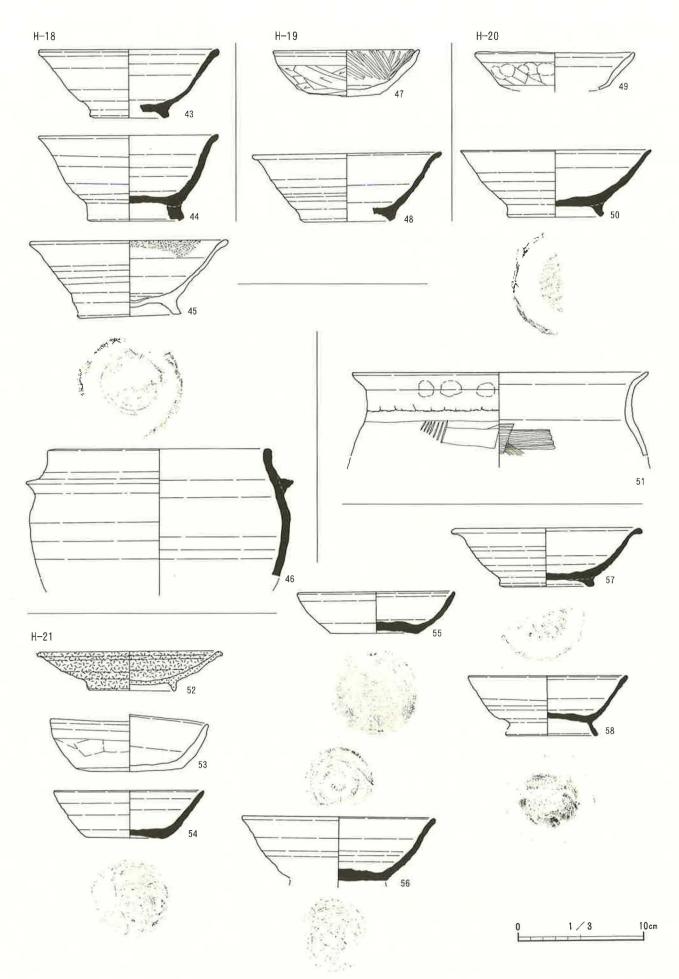


Fig.51 H-18~21号住居跡出土の遺物

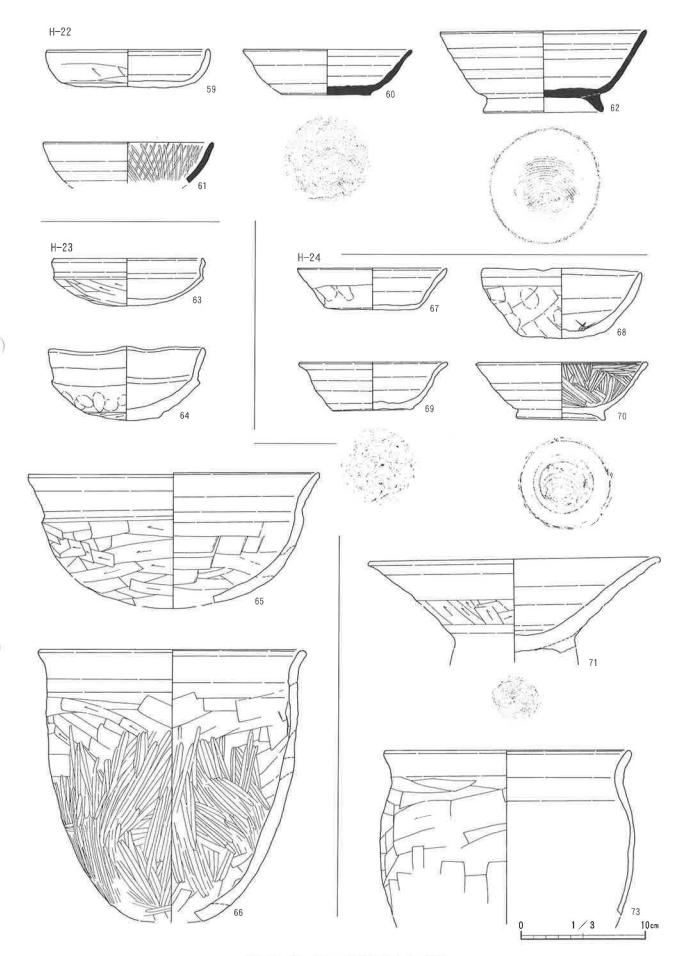


Fig.52 H-22~24号住居跡出土の遺物

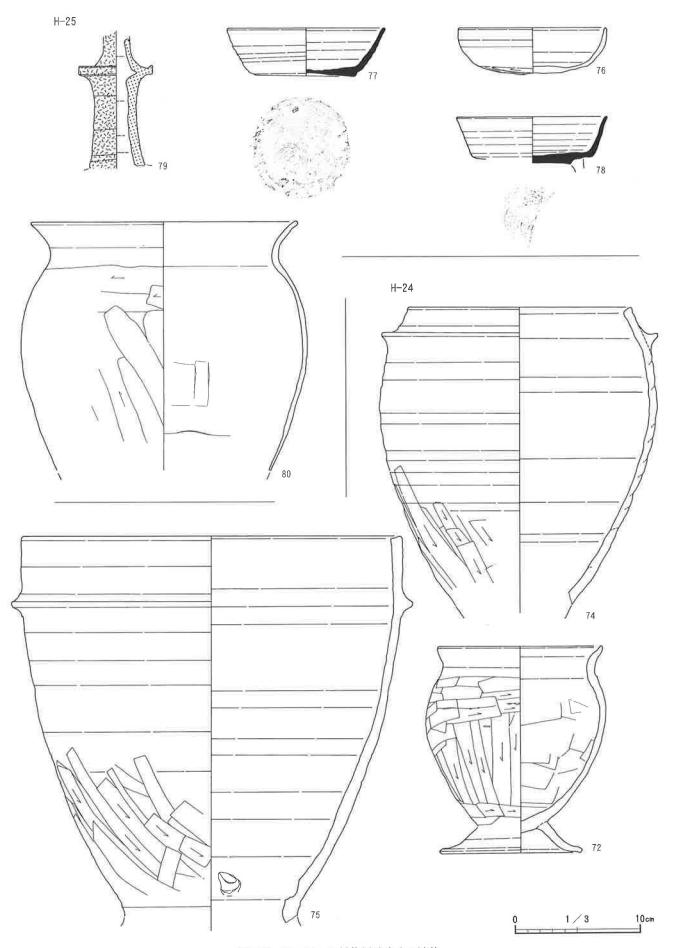


Fig.53 H-24・25号住居跡出土の遺物

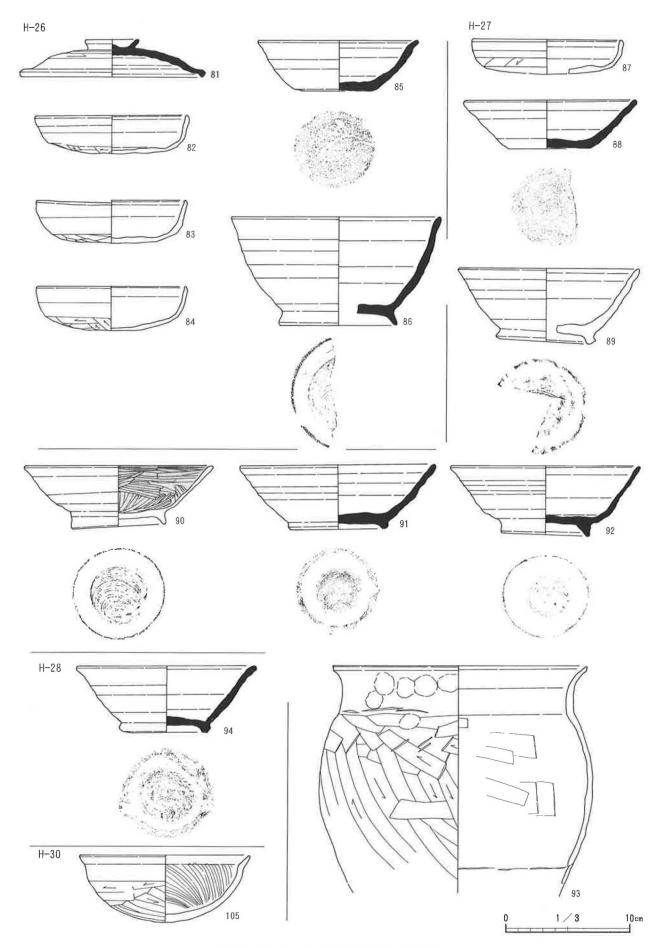


Fig.54 H-26~28・30号住居跡出土の遺物

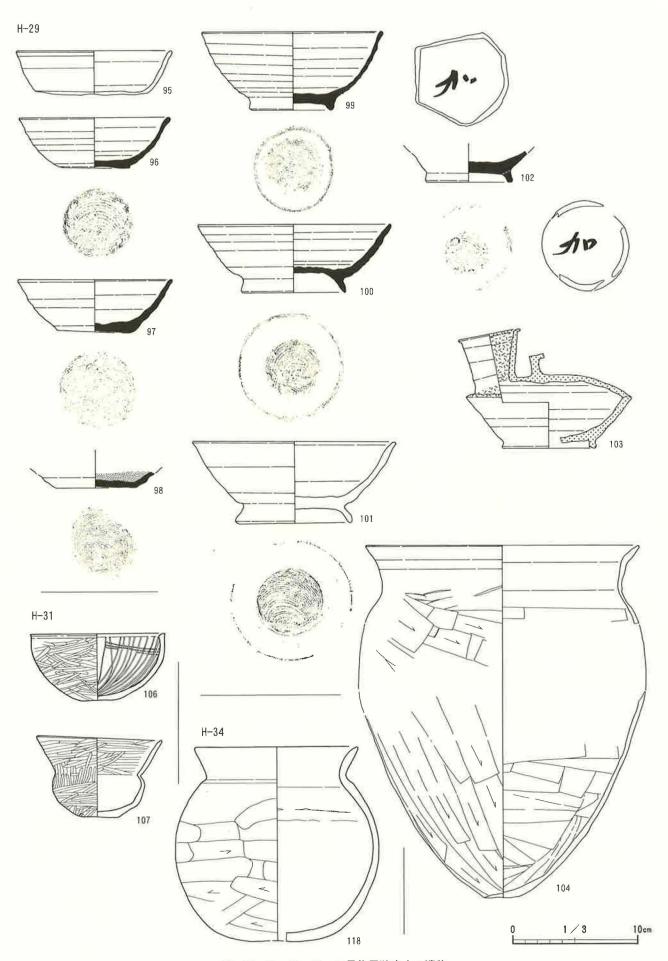


Fig.55 H-29・31・34号住居跡出土の遺物

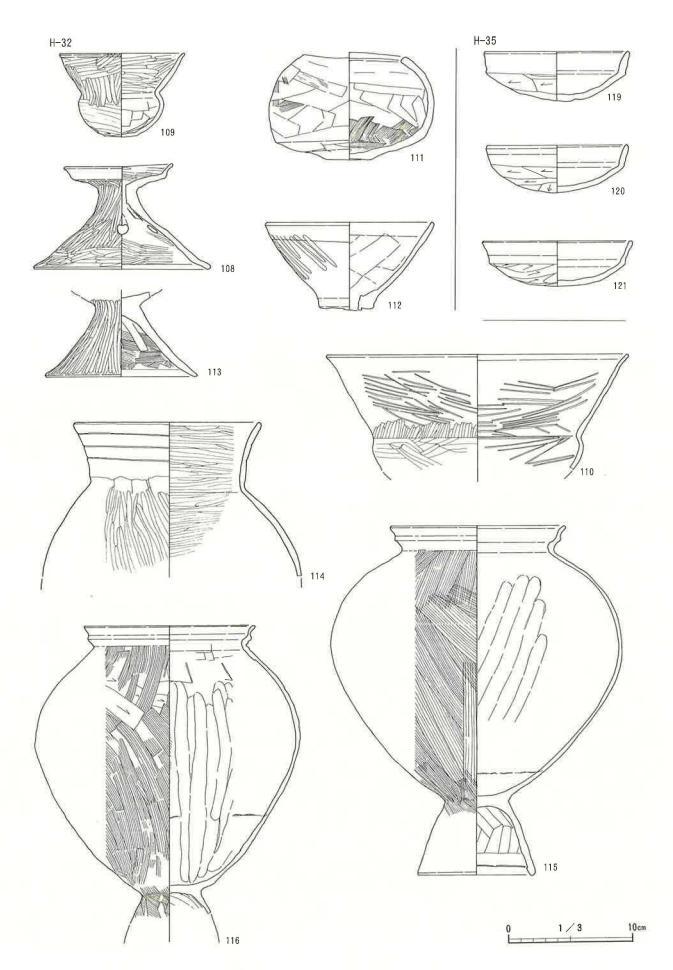


Fig.56 H-32・35号住居跡出土の遺物

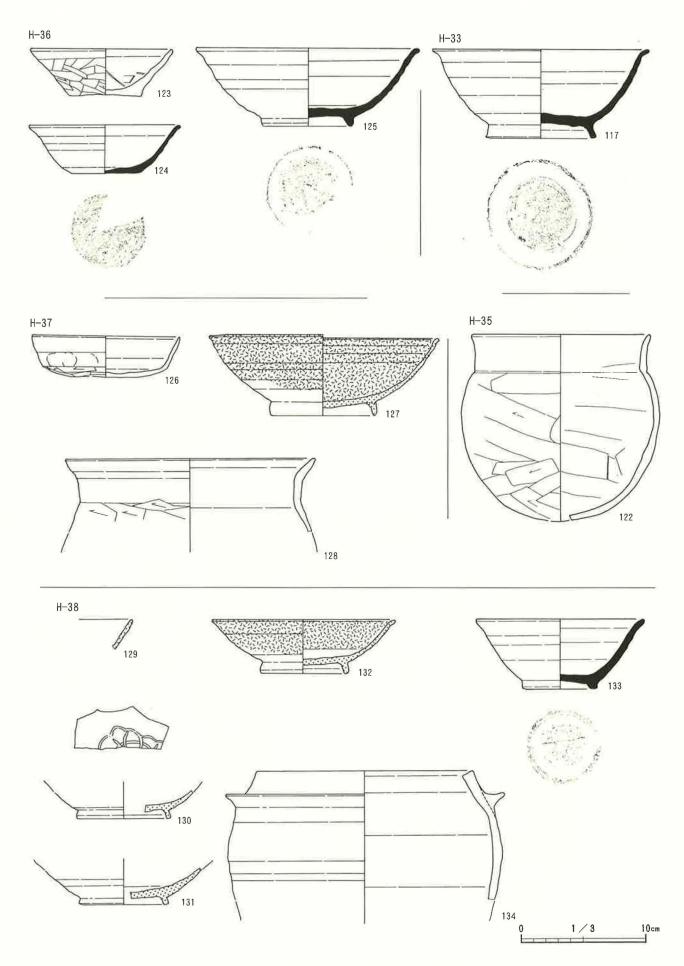


Fig.57 H-33・35~38号住居跡出土の遺物

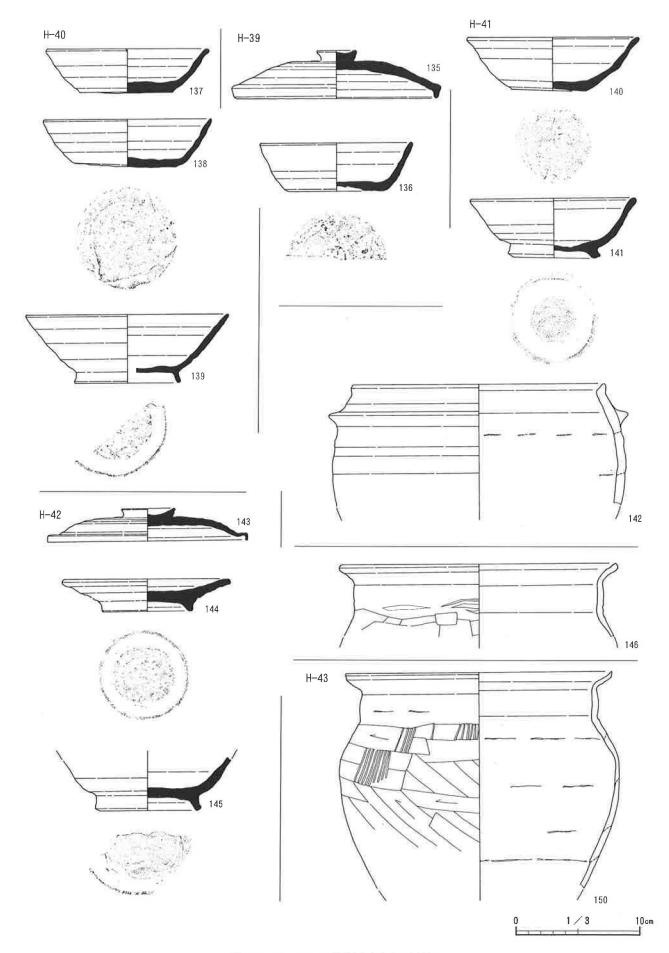


Fig.58 H-39~43号住居跡出土の遺物

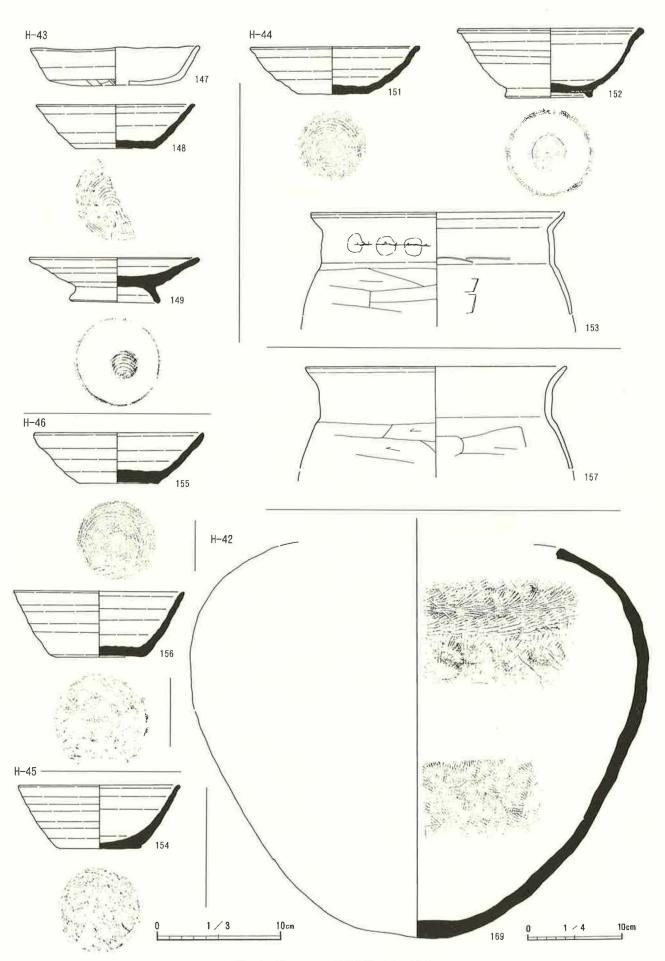


Fig.59 H-43~47号住居跡出土の遺物

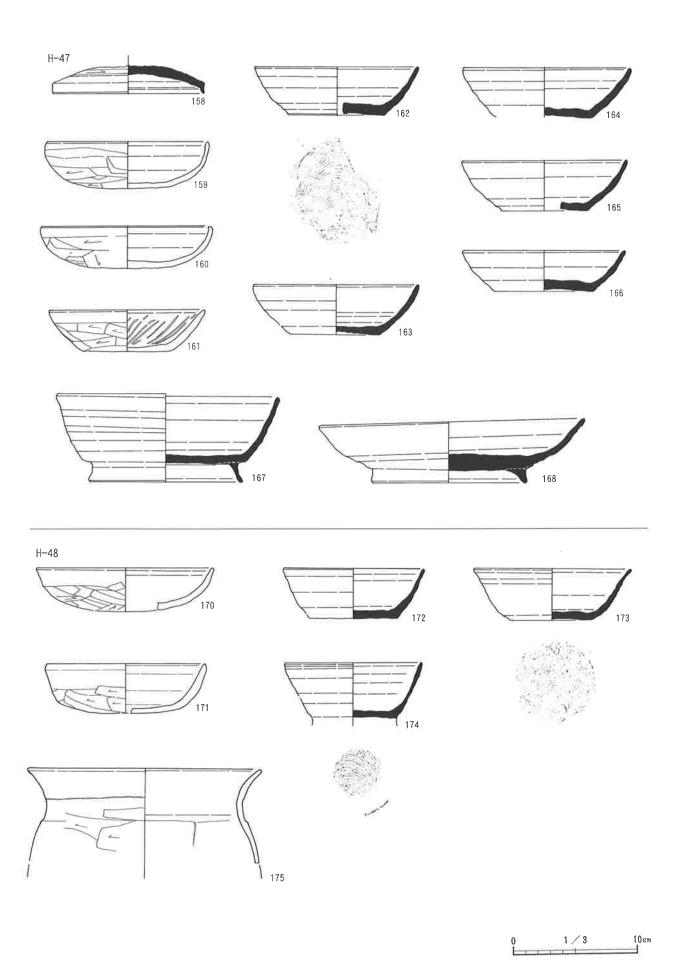


Fig.60 H-47・48号住居跡出土の遺物

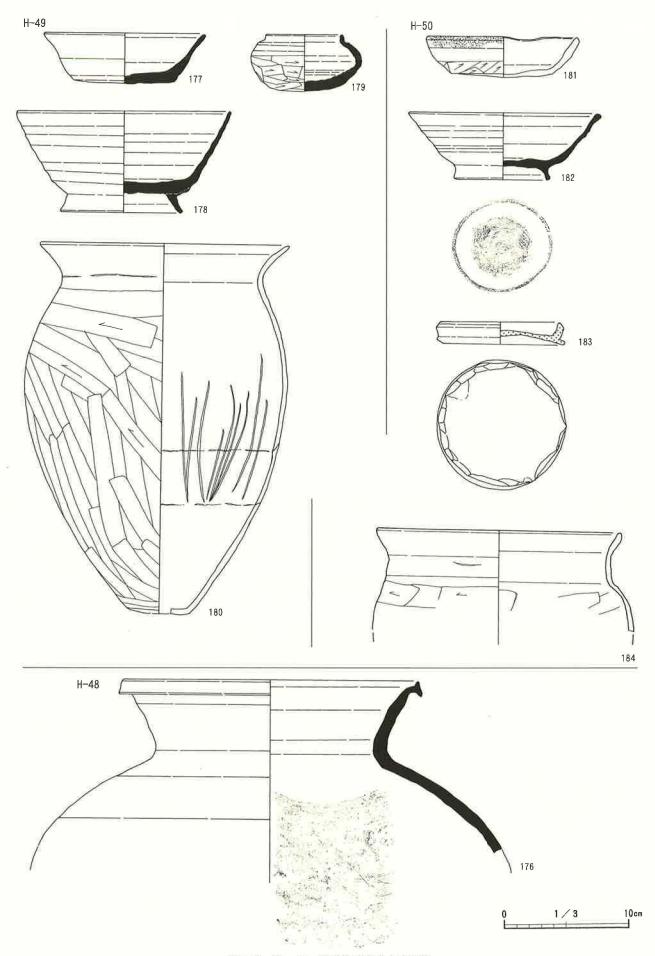


Fig.61 H-48~50号住居跡出土の遺物

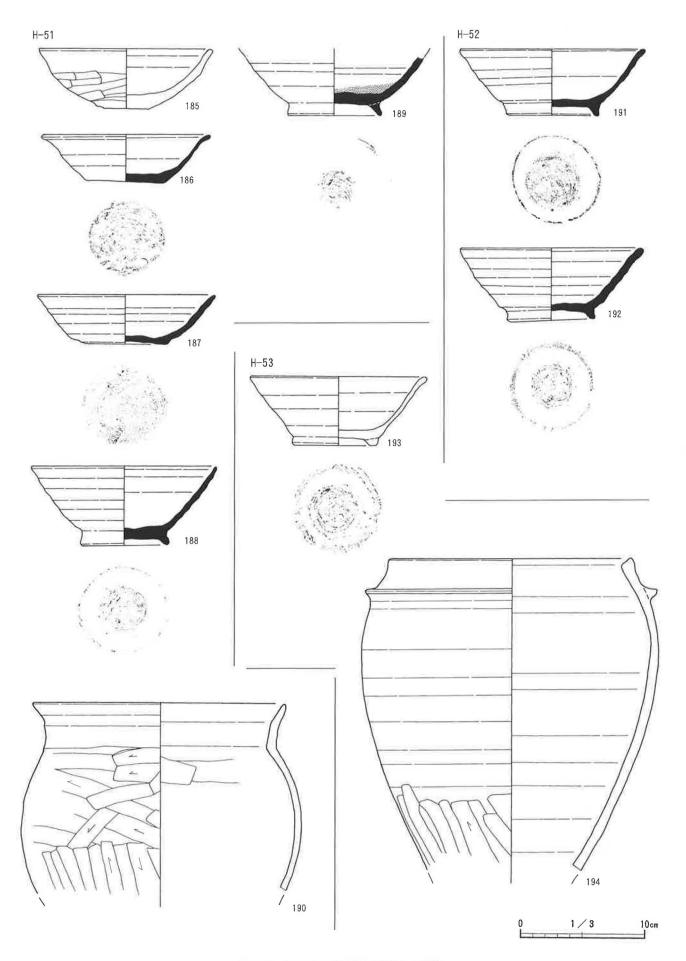


Fig.62 H-51~53号住居跡出土の遺物

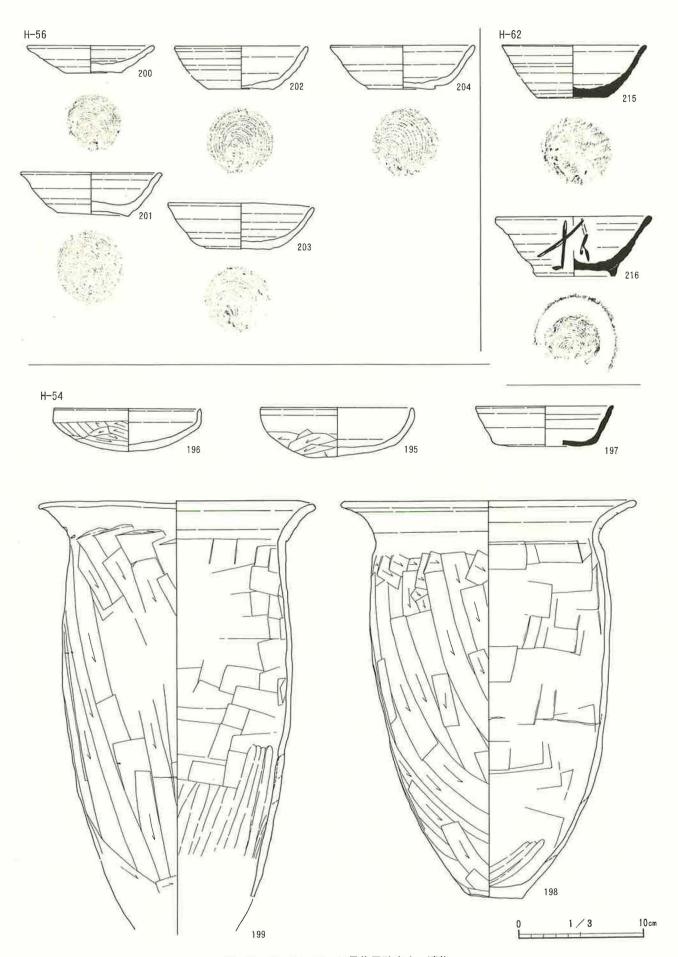


Fig.63 H-54・56・62号住居跡出土の遺物

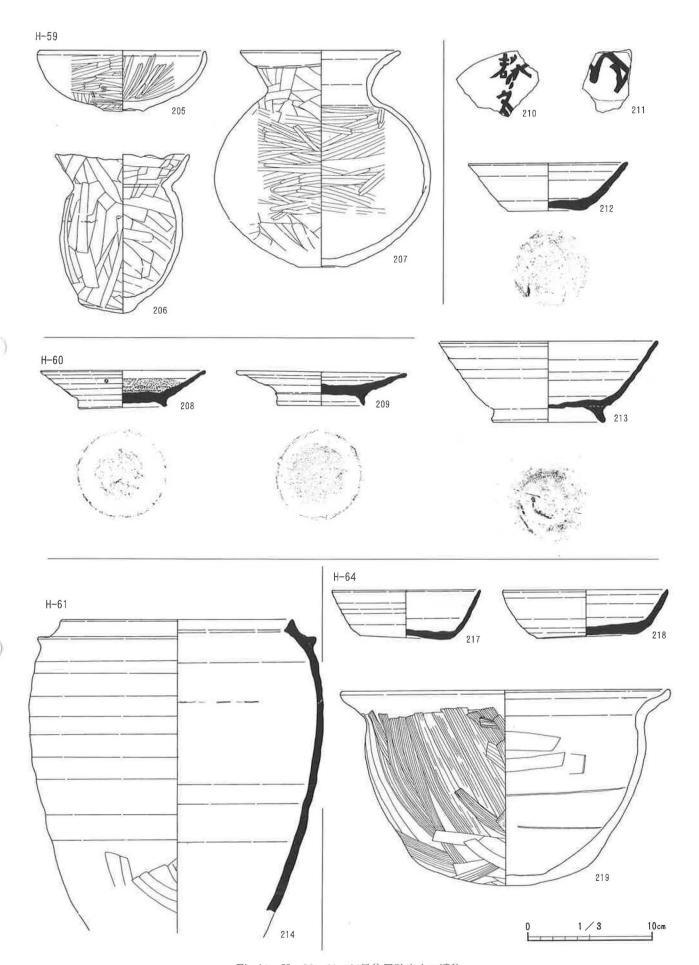


Fig.64 H-59~61・64号住居跡出土の遺物

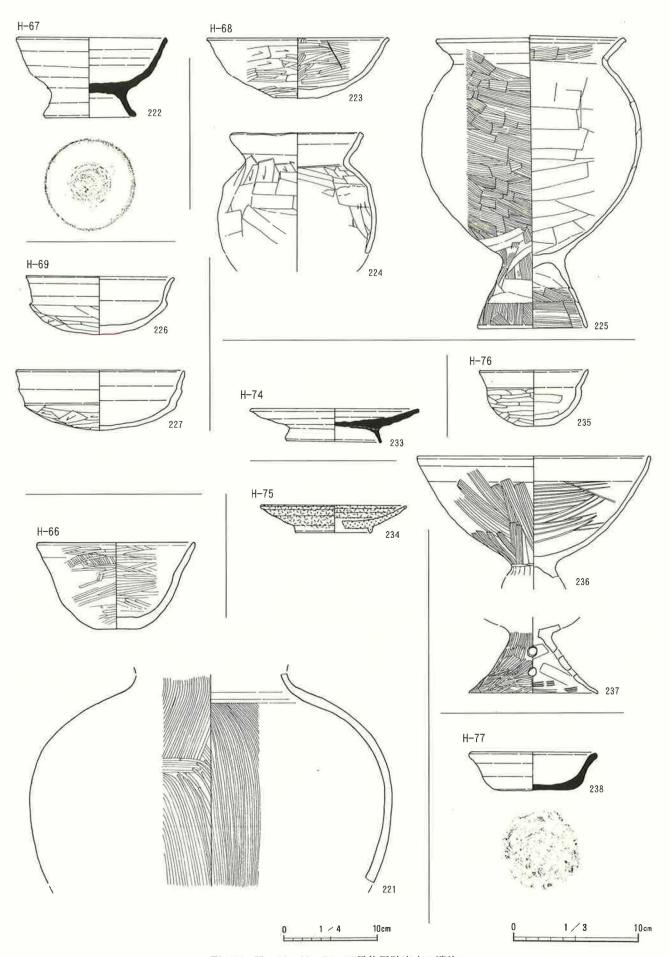


Fig.65 H-66~69・74~77号住居跡出土の遺物

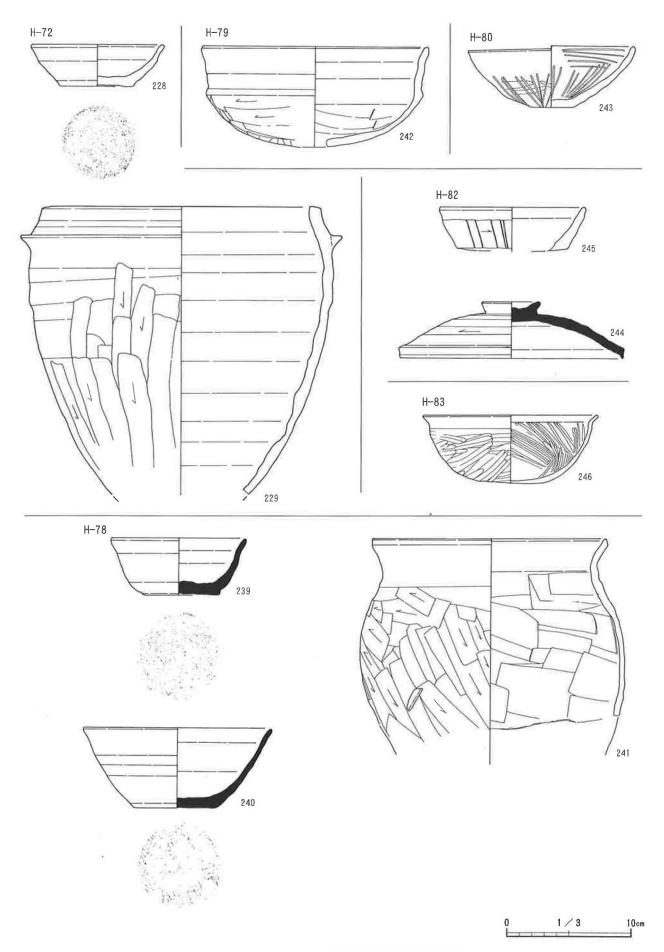


Fig.66 H-72・78~80・82・83号住居跡出土の遺物

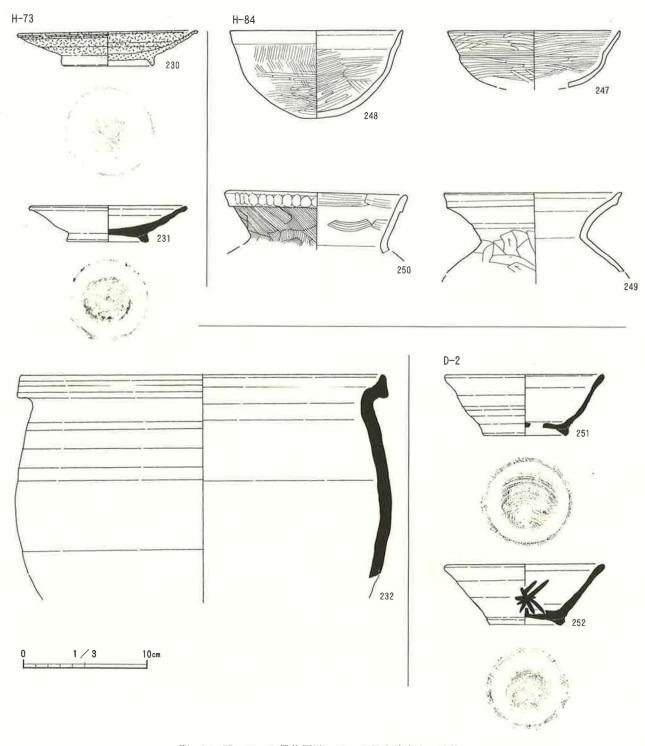
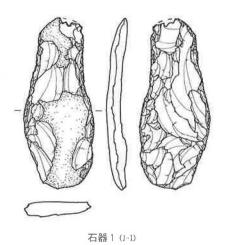
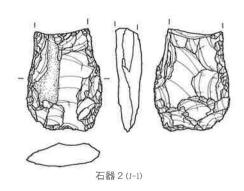
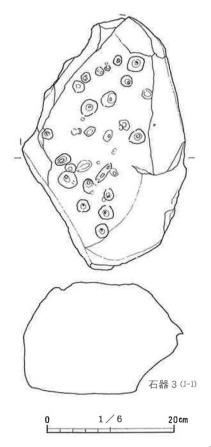


Fig.67 H-73・84号住居跡、D-2号土坑出土の遺物







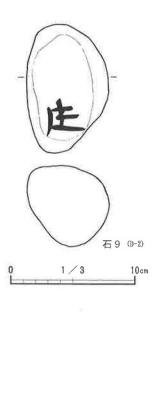
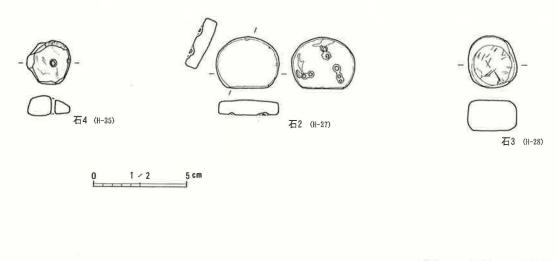
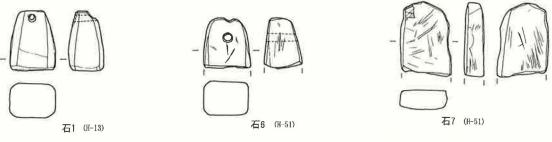


Fig.68 石器·石製品





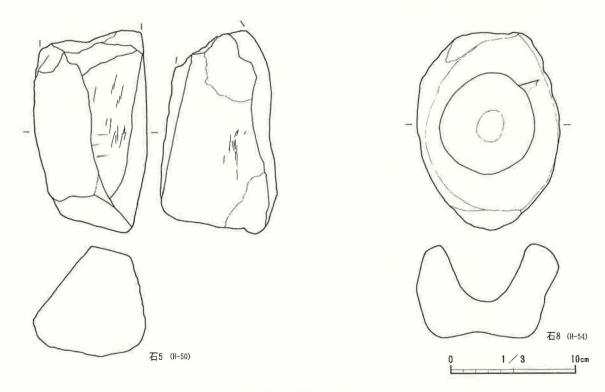


Fig.69 石製品·土製品

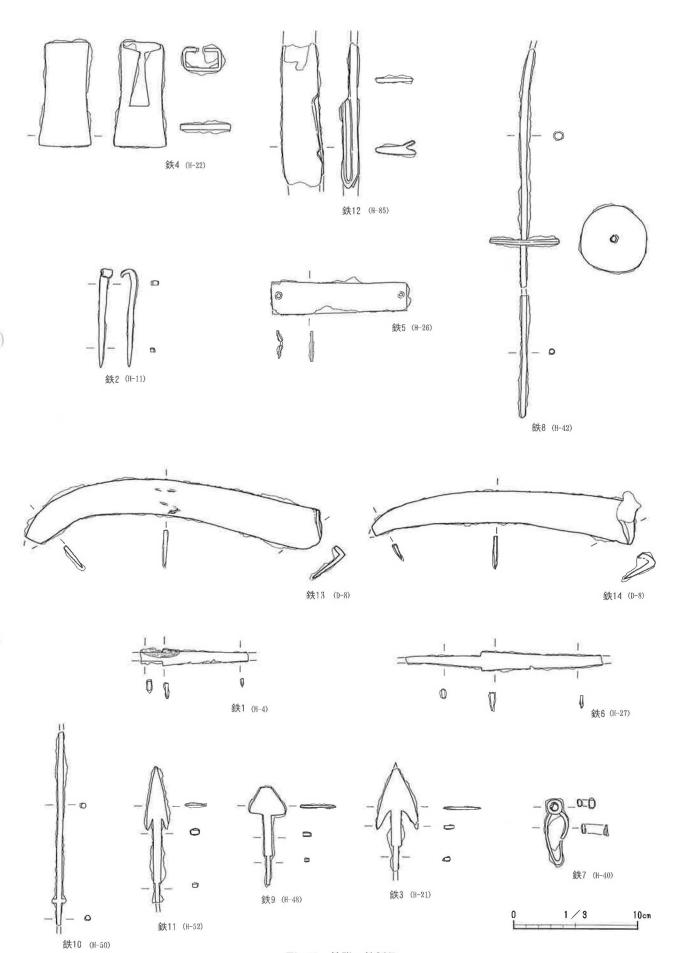


Fig.70 鉄器·鉄製品

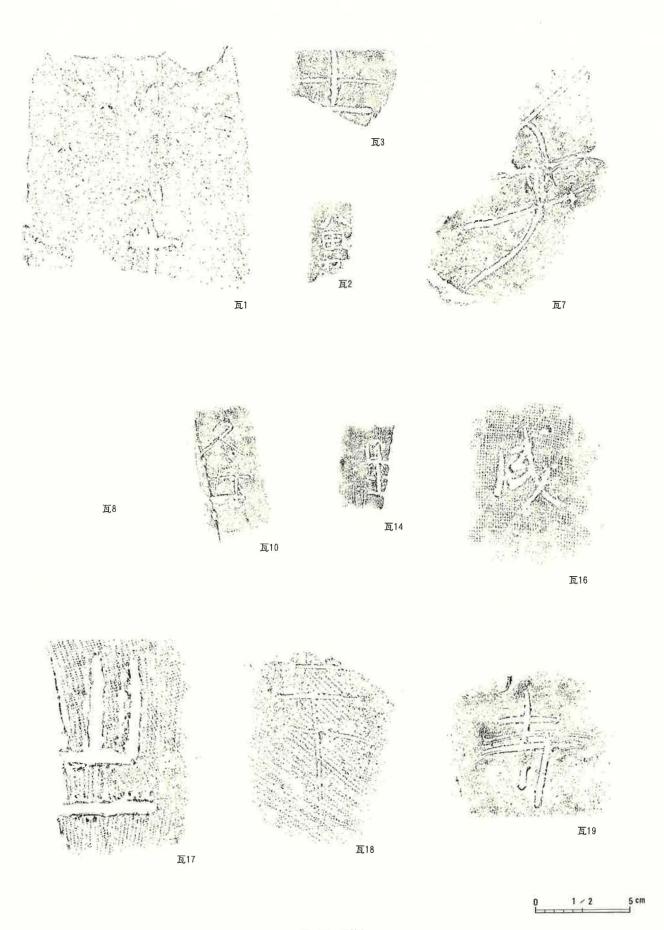


Fig.71 瓦(1)

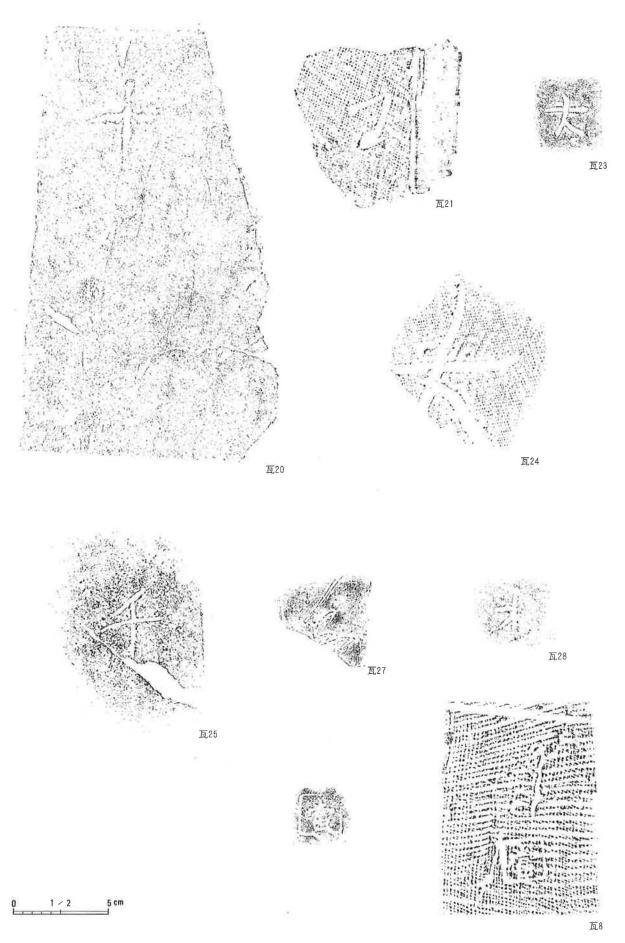


Fig.72 瓦(2)

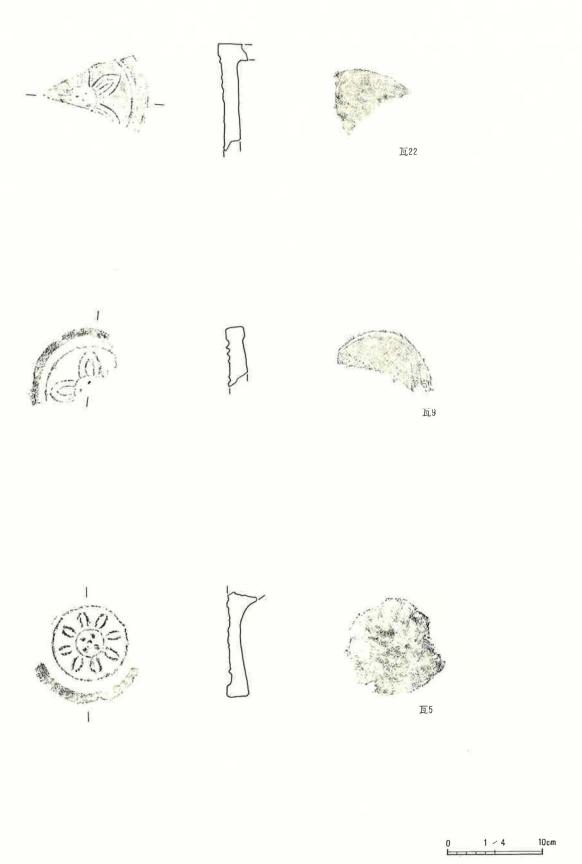


Fig.73 瓦(3)

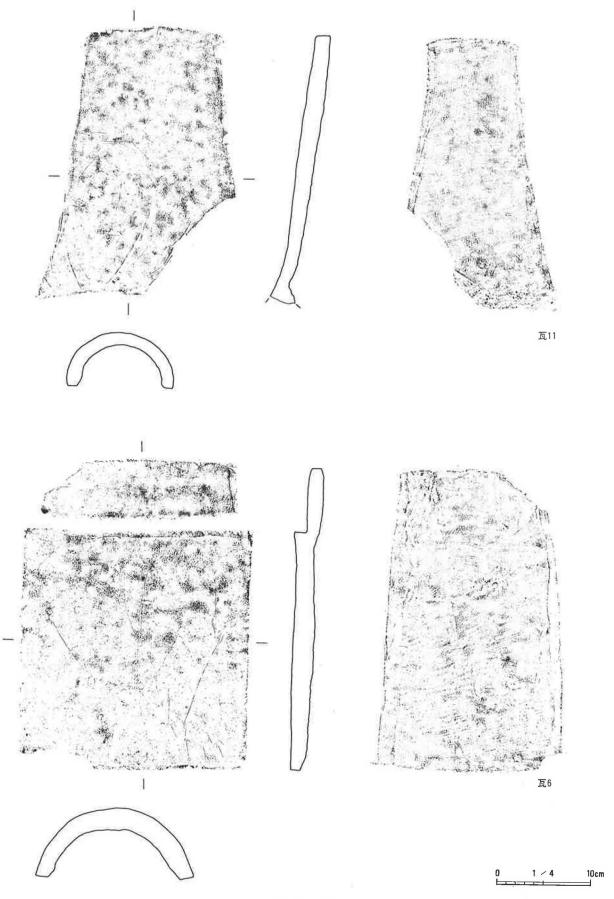


Fig.74 瓦(4)

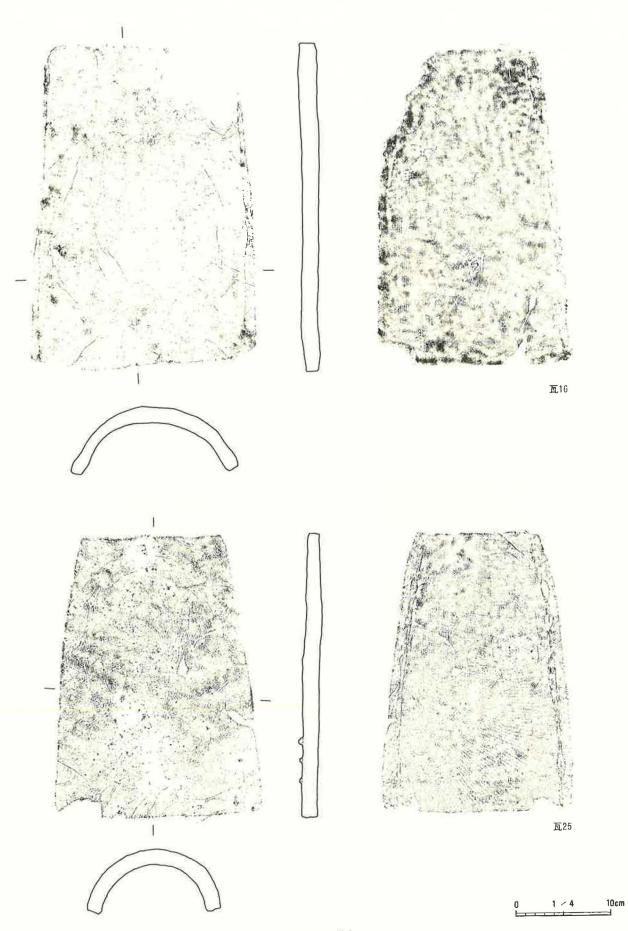


Fig.75 瓦(5)

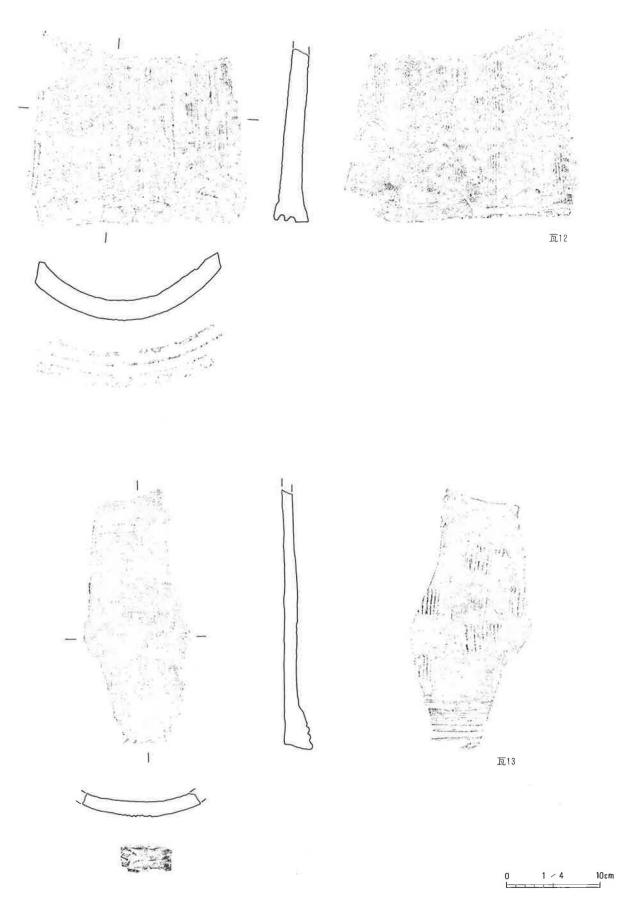


Fig.76 瓦(6)

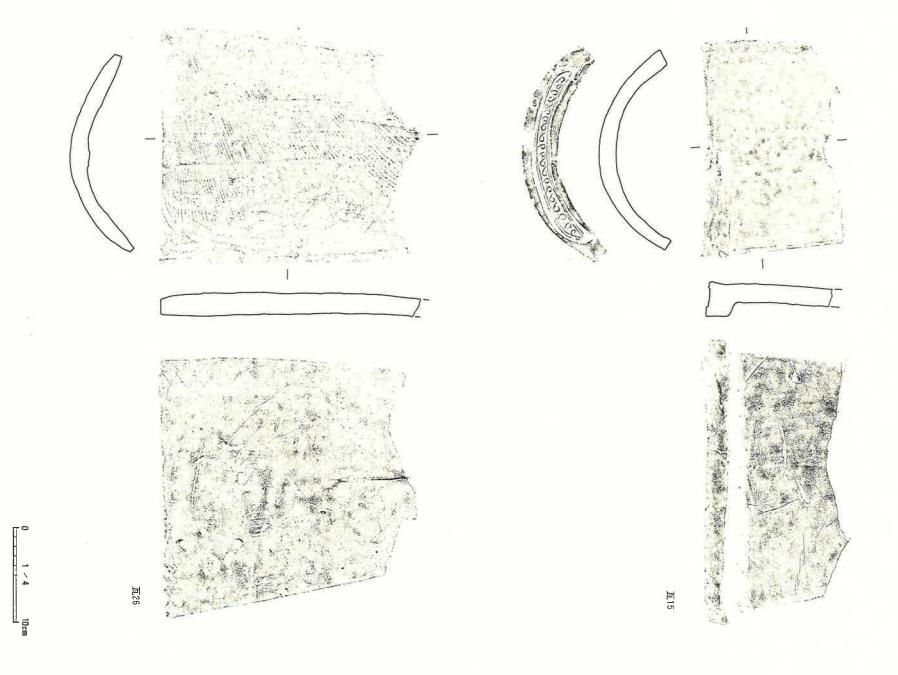
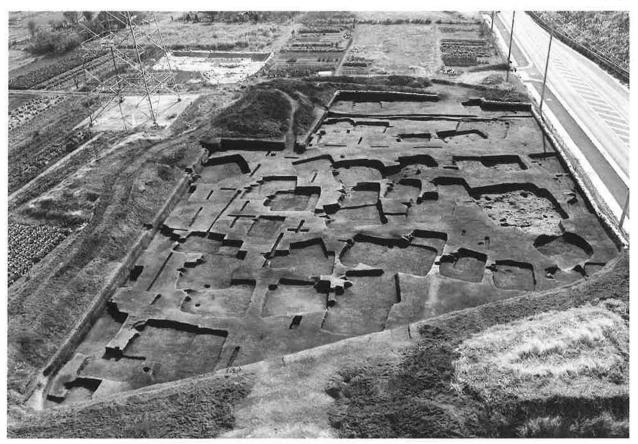


Fig.77 瓦(7)



調査区全景(北から)



J-1号住居跡全景(南から)



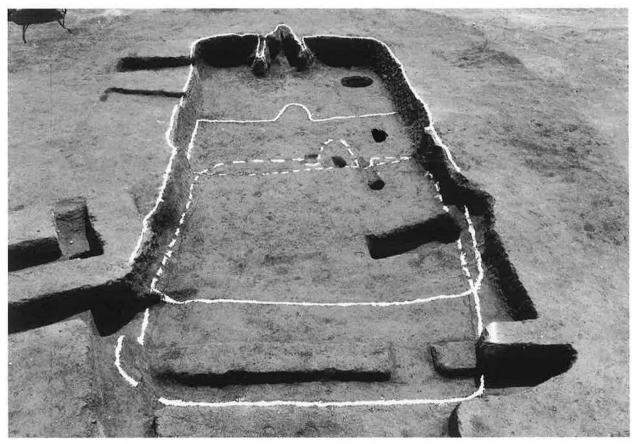
J-2号住居跡全景(北から)



J-1号住居跡埋設土器セクション(南から)



J D-2号土坑遺物出土状況



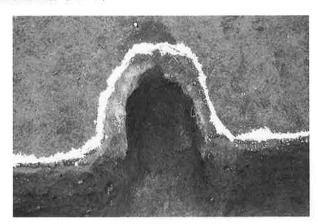
H-6、9、57、59号住居跡全景(西から)



H-6号住居跡全景(西から)



H-9号住居跡全景(西から)



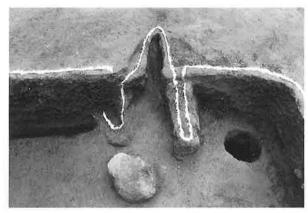
H-6号住居跡竈全景(西から)



H-9号住居跡竈全景(西から)



H-7号住居跡全景 (西から)



H-7号住居跡竈全景(西から)



H-8号住居跡全景(西から)



H-8号住居跡竈全景(西から)



H-15号住居跡全景(西から)



H-15号住居跡竈全景(西から)



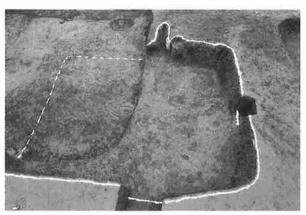
H-15号住居跡遺物出土状況①(西から)



H-15号住居跡遺物出土状況② (北から)



調査区北中央部住居跡重複状況(北から)



H-21号住居跡全景(西から)



H-21号住居跡籠全景(西から)



H-23号住居跡全景(酉から)



H-23号住居跡籠全景(西から)



H-24号住居跡全景(西から)



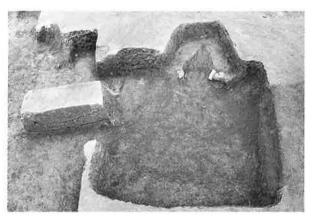
H-24号住居跡竈全景(西から)



H-25号住居跡全景(南から)



H-25号住居跡竈全景(南から)



H-28号住居跡全景 (西から)



H-28号住居跡竈全景(西から)



H-29号住居跡全景(西から)



H-29号住居跡竈全景(西から)



H-32号住居跡遺物出土状況① (西から)



H-32号住居跡遺物出土状況②(東から)



H-32号住居跡全景(南から)



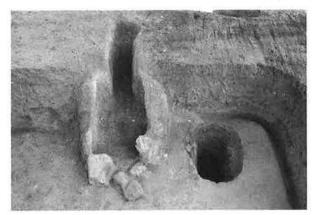
H-32号住居跡炉全景(南から)



H-32号住居跡遺物出土状況③(南から)



H-33号住居跡全景(西から)



H-33号住居跡鑓全景(西から)



H-38号住居跡全景(西から)



H-38号住居跡竈全景(西から)



H-40号住居跡全景(西から)



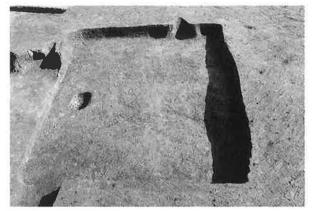
H-40号住居跡竈全景(西から)



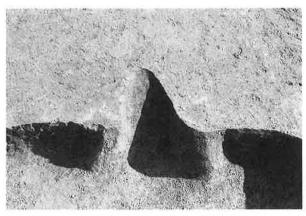
H-40号住居跡遺物出土状況① (南から)



H-40号住居跡遺物出土状況② (西から)



H-42号住居跡全景(西から)



H-42号住居跡竈全景 (西から)



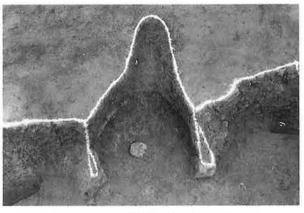
H-45号住居跡全景(西から)



H-45号住居跡竈全景(西から)



H-47号住居跡全景 (西から)



H-47号住居跡竈全景(西から)



H-47号住居跡 P 5号貯蔵穴全景(北から)



H-47号住居跡遺物出土状況 (西から)



H-49号住居跡全景(西から)



H-49号住居跡竈全景(西から)



H-50号住居跡全景 (西から)



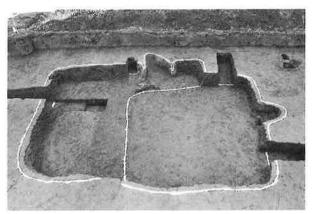
H-50号住居跡竈全景(西から)



H-51号住居跡全景 (西から)



H-51号住居跡竈全景(西から)



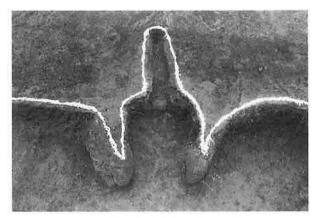
H-52号、53号住居跡全景(西から)



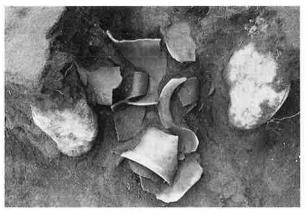
H-52号住居跡竈全景 (西から)



H-54号住居跡全景(西から)



H-54号住居跡竈全景(西から)



H-54号住居跡遺物出土状況① (西から)



H-54号住居跡遺物出土状況②(西から)



H-60号住居跡全景(西から)



H-60号住居跡竈全景(西から)



H-76号住居跡全景(西から)



H-76号住居跡炉全景(南から)



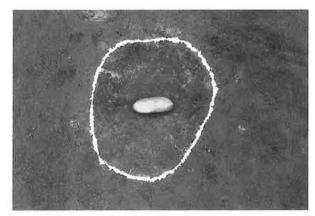
H-79号住居跡全景(西から)



H-79号住居跡竈全景(西から)



H-59号住居跡全景(西から)



H-59号住居跡炉全景



H-59号住居跡遺物出土状況① (北から)



W-1・2号溝跡全景(北から)

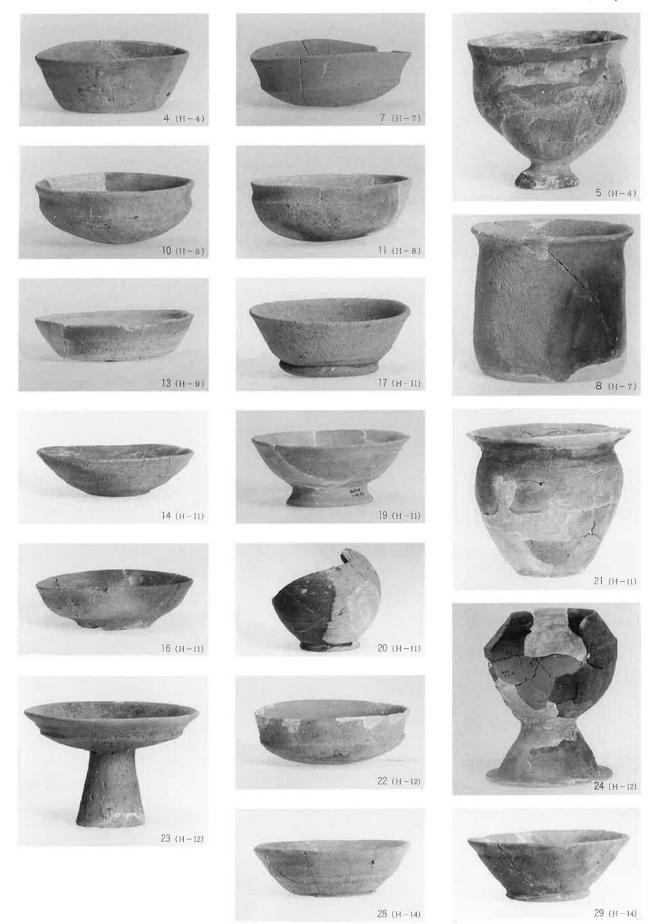


D-2号上坑全景(南から)

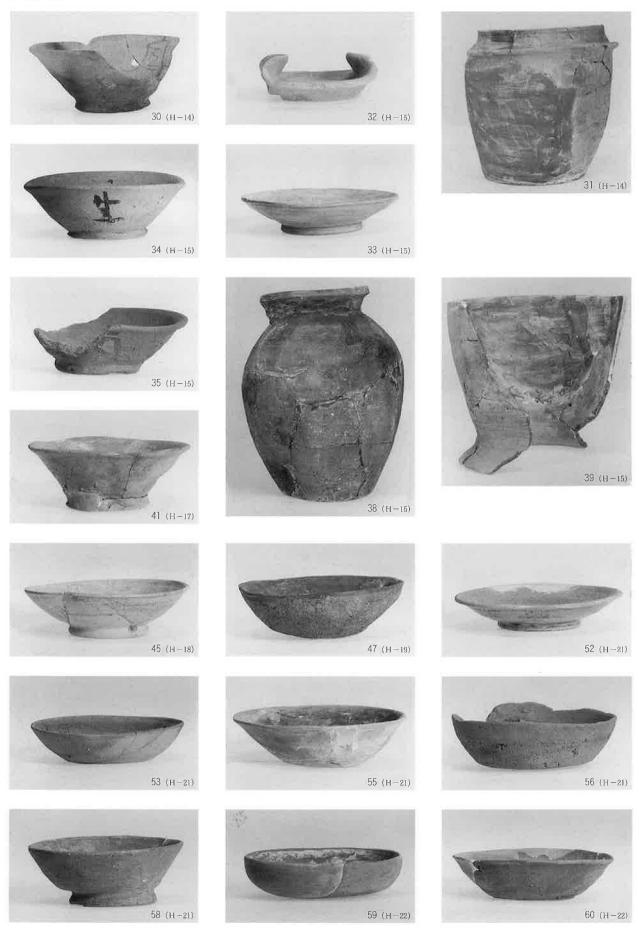


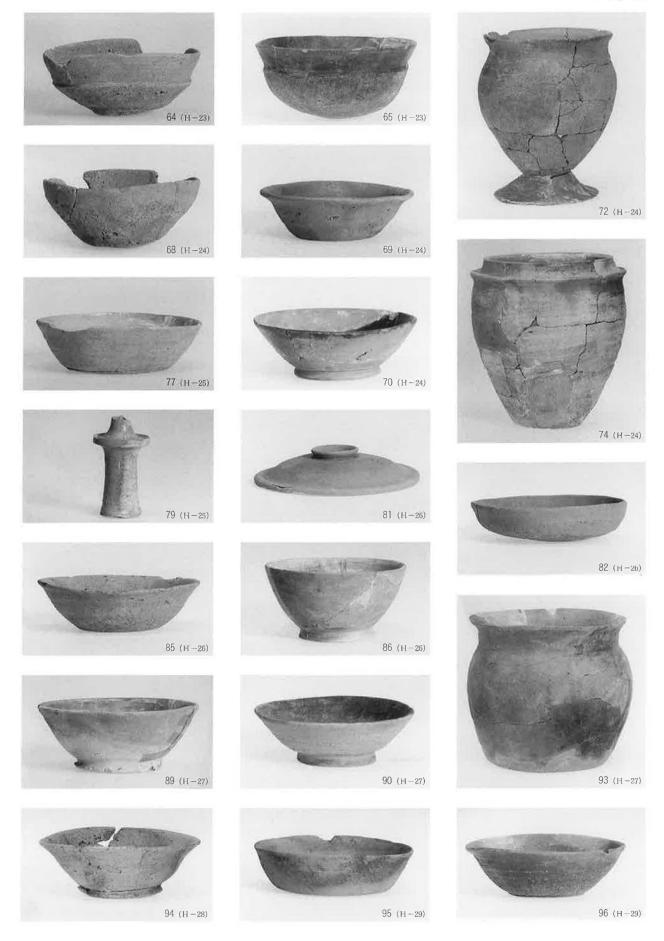
D-2号上坑セクション

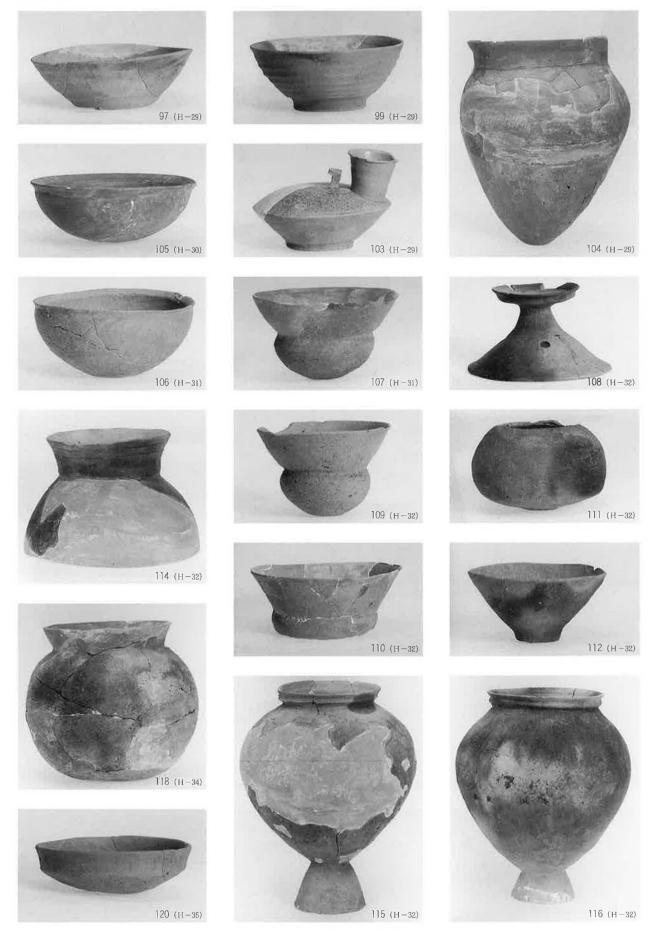


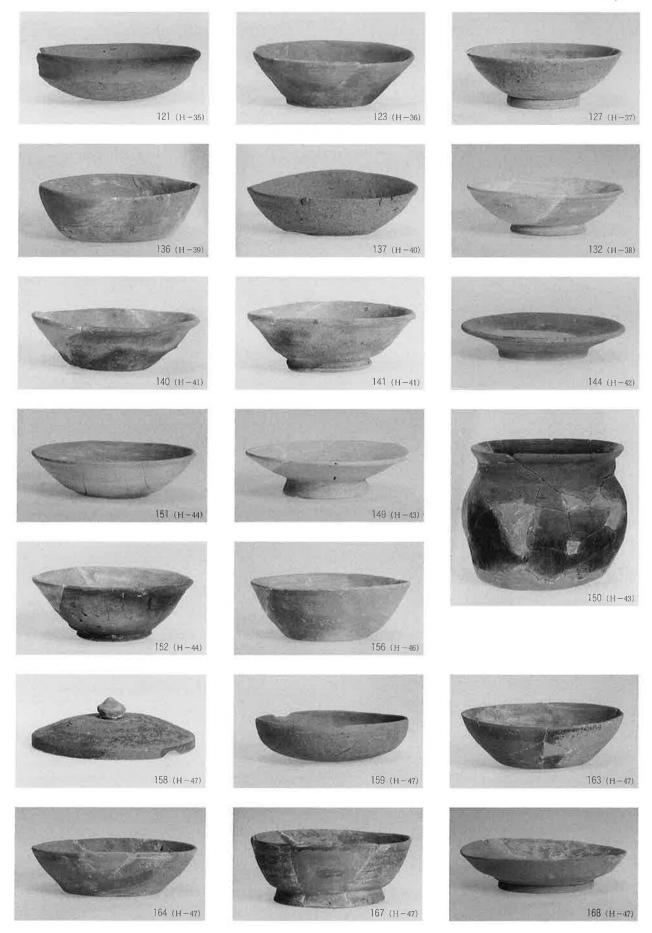


PL. 14



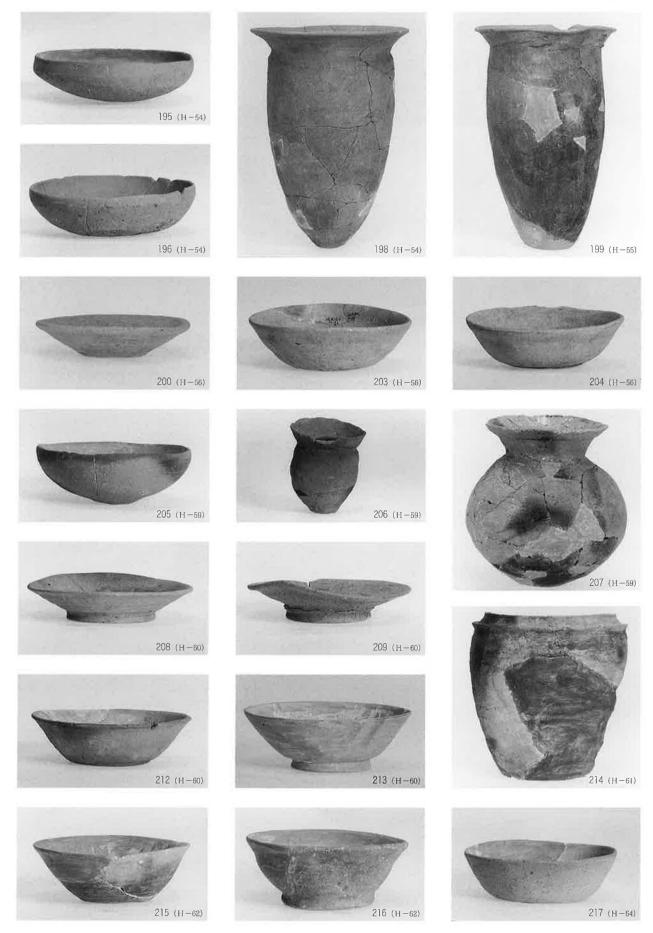




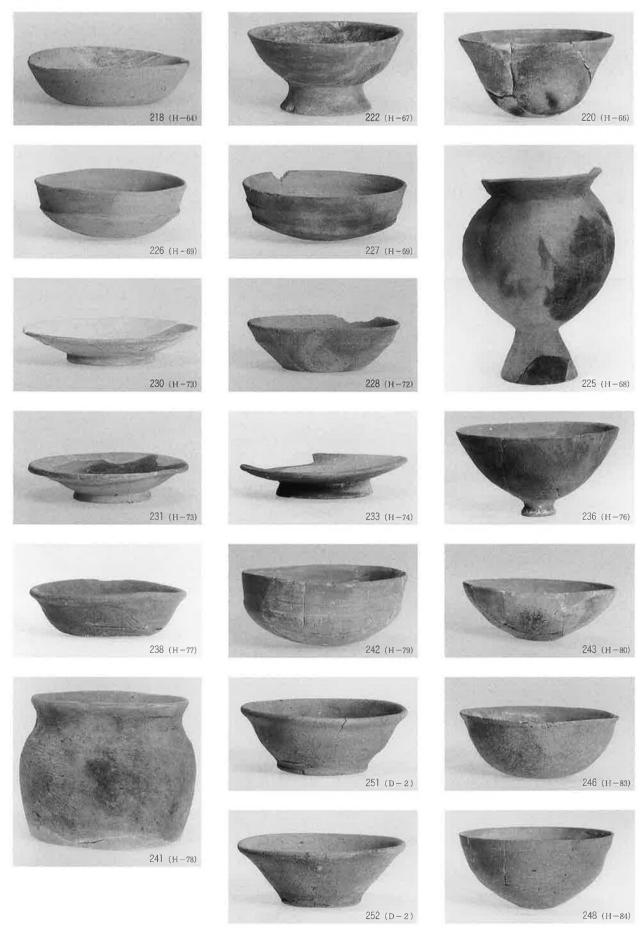


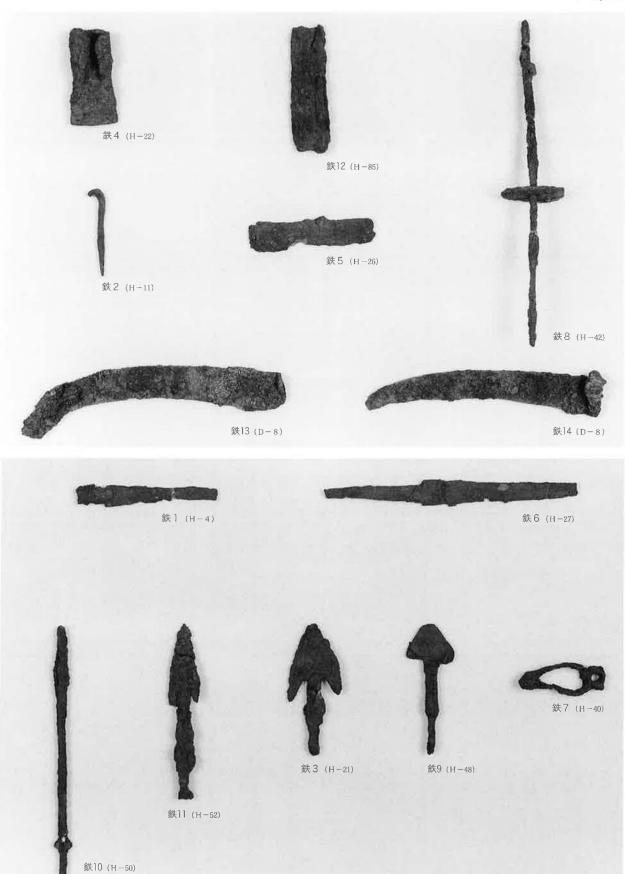
PL. 18

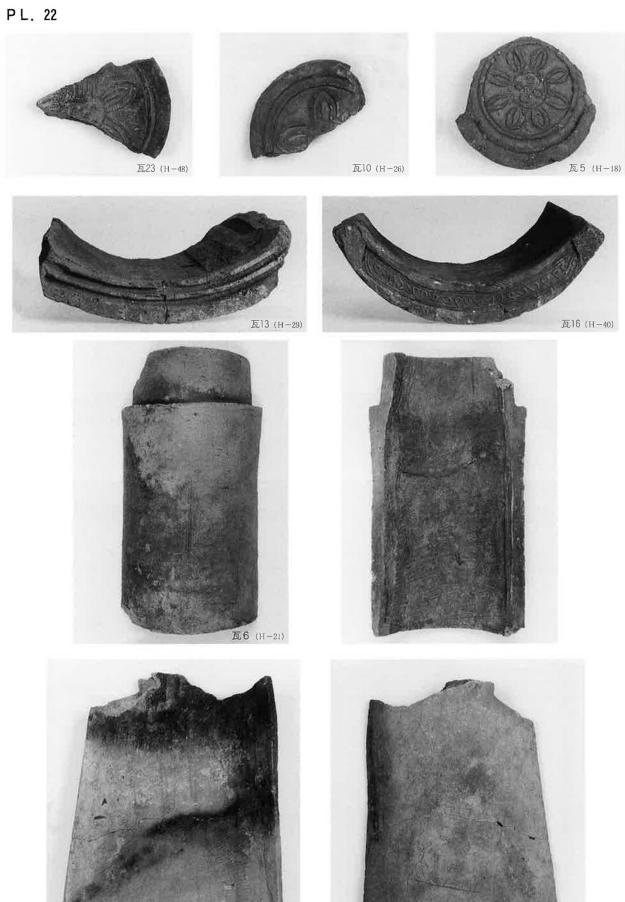




PL. 20







瓦27 (H-60)

抄 録

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
近藤雅順・後藤俊継							
前橋市埋蔵文化財発掘調査団							
〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2							
発 行 年 月 日 西暦2005年3月22日							

フリガナ	フリガナ 所 在 地	コード		位		置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名		市町村	遺跡番号	北	緯	東	経	河(王)州町	- 河生田倶	調宜原凸
元総社小見VI遺跡	前橋市売総社町 1614-1 他	10201	16A107	36°2	3′19″	139°0	1′46°	20040524 \(\) 20041215	1,760m²	前橋都市計 画事業元総 社蒼海土地 区画整理事 業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
元総社小見VI遺跡	集落跡	縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代 中世	竪穴住居跡2軒、土坑11基 竪穴住居跡15軒 竪穴住居跡68軒、溝跡2条、 土坑7基 土坑7基	縄文土器、石器 土師器、須恵器 土師器、須恵器、鉄製品、 瓦

元総社蒼海遺跡群 元総社小見VI遺跡

2005年 3 月17日 印 刷 2005年 3 月24日 発 行

> 発 行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 前橋市三俣町二丁目10-2 TEL 027-231-9531 印 刷 朝日印刷工業株式会社

